

平成 21 年度 学校給食用牛乳消費定着促進事業

# 学乳未実施校に 関する全国調査

学乳制度のあるべき姿とその普及促進

平成 22 年 3 月

社団法人 日本酪農乳業協会

# はじめに

近年、朝食の欠食、カルシウムの不足や脂肪の過剰摂取など栄養の偏った食生活、行き過ぎた痩身傾向など、児童生徒の「健やかな成長」が脅かされています。

このような環境の中、児童生徒に対して食に関する正しい知識と食習慣を身につけさせることは、ますます重要な課題となってきています。

学校給食用牛乳供給事業（学乳事業）は、牛乳の給食を通して児童生徒の体位向上を図ることを大きな目的としておりますが、食に関する指導の一環としても重要な位置を占めるもので、その役割が大いに期待されています。

しかしながら、現在、学乳の供給量は出生率の低下による児童数減少と、それに伴う小・中学校の統廃合を背景として年々減少傾向にあり、学乳制度を次世代に継承し、牛乳飲用の継続的な普及を図るためには、学乳実施率の向上が大きな課題となってきております。

そこで、私どもは現在学乳を実施していない小・中学校（学校給食未導入校）を対象として、学乳未実施の原因・理由を探り、今後の学乳供給量の増加に向けた様々な啓発事業に資することを目的として、「学乳未実施校対象調査」を実施いたしました。

また、学乳を実際に利用する児童生徒の保護者の視点から学校給食、およびそこで提供される学校給食用牛乳に対するニーズを探ることを目的として、「保護者対象調査」も併せて実施いたしました。

本報告書において、前者は【Ⅰ】学乳未実施校対象調査として、

また後者は【Ⅱ】保護者対象調査として、それぞれまとめてあります。

この報告書を通して、今後の児童生徒の体位向上と食育教育に少しでも貢献できましたら幸甚に存じます。

謹白



# 目次

## 【Ⅰ】学乳未実施校対象調査

---

|        |   |
|--------|---|
| ー調査概要ー | 1 |
|--------|---|

### Ⅰ 調査結果の要約

|                                |    |
|--------------------------------|----|
| 1. 学校給食未導入の要因                  | 7  |
| 2. 導入している給食の満足度                | 9  |
| 3. 学乳事業の認知率とリーフレット視認後の関心度      | 11 |
| 4. リーフレット視認による関心度UP効果          | 14 |
| 5. 『学校給食の必要性』に対する意識と、それに寄与する要因 | 17 |
| 6. リーフレット視認による『学校給食導入意向』の変化    | 19 |
| 7. 『学校給食導入意向』UPに寄与する要因         | 21 |
| 8. 導入すると仮定した場合に希望する給食形態        | 22 |

### Ⅱ 調査結果の詳細

|                            |    |
|----------------------------|----|
| 1. 学校給食未導入校の実態             | 23 |
| 2. 学校給食導入校の実態              | 29 |
| 3. リーフレット視認前段階での学乳事業等の認知状況 | 34 |
| 4. リーフレット視認後の学乳事業等の関心度     | 37 |
| 5. 学校給食の必要性、導入についての意識      | 44 |
| (付-1) 調査票                  | 49 |
| (付-2) リーフレット               | 50 |

## 【Ⅱ】保護者対象調査

---

|        |    |
|--------|----|
| ー調査概要ー | 53 |
|--------|----|

### I 調査結果の要約

|                             |    |
|-----------------------------|----|
| 1. 子供の食事で普段心がけていること         | 55 |
| 2. 平日の子供の昼食に対する意識と学校給食の利用意向 | 57 |
| 3. 学校給食（完全給食）を希望する理由        | 60 |
| 4. 説明提示後の牛乳に対する意識変化         | 62 |

### II 調査結果の詳細

|                  |    |
|------------------|----|
| 1. 家庭での食事に対する意識  | 67 |
| 2. 平日の昼食の現状と問題意識 | 71 |
| 3. 学校給食の利用意向     | 74 |
| 4. 今後の牛乳重視意向     | 79 |

|         |    |
|---------|----|
| (付) 調査票 | 84 |
|---------|----|

【Ⅰ】

学乳未実施校  
対象調査

## 一 調査概要 一

### 【調査目的】

- ・現在、学校給食用牛乳（学乳）の供給量は、少子化に伴う小・中学校の統廃合を背景として縮小傾向にある。このような環境の中、学乳制度を次世代に継承し、牛乳飲用の継続的な普及拡大を図るためには、学乳実施率を上昇させることが不可欠である。
- ・現在の学乳実施率（完全給食、補食給食、ミルク給食すべて含む）を学校区分別（小・中学校）、設立区分別（公立・私立）に見ると下表の通りで、私立の小・中学校、公立中学校が低い傾向にある（特に私立校）。そこで、これらの学校を対象に学乳未実施の要因を探り、今後の方策を検討するための資料とすることを目的として、調査を実施する。

|       | 全国総数     | 学校給食実施数  | 学校給食未実施数 | 学校給食実施率 |
|-------|----------|----------|----------|---------|
| 公立小学校 | 22,058 校 | 21,987 校 | 71 校     | 99.7%   |
| 私立小学校 | 195 校    | 90 校     | 105 校    | 46.2%   |
| 公立中学校 | 10,087 校 | 9,180 校  | 907 校    | 91.0%   |
| 私立中学校 | 704 校    | 98 校     | 606 校    | 13.9%   |

※出典：文部科学省「学校給食実施調査」平成 19 年 5 月

### 【調査方法】

#### ①調査手法……郵送調査

#### ②調査対象校

- a. 全国私立小学校（学校給食実施校、未実施校両方含む）……195 校
- b. 全国私立中学校（学校給食実施校、未実施校両方含む）……721 校
- c. 全国公立中学校（学校給食実施校）……405 校
- d. 全国公立中学校（学校給食未実施校）……179 校

合計 1,500 校

※ a、b のリストは学校給食実施校、未実施校の区分が出来ていなかったが、全国の私立小・中学校すべてを調査対象としたため、区分は行わずに発送した

※ b は最新のリストを採用しており、上表とは校数が異なる

※ c、d は等間隔抽出法により、それぞれサンプリングを行った

※ 対比データを得るために、学校給食実施校も調査対象とした

#### ③調査対象者……学校長宛に郵送

↓

昼食の供給、学校給食導入の是非に係る責任者の方に回答を依頼

#### ④調査期間……2009 年 12 月 4 日（金）発送～2010 年 1 月 8 日（金）最終回収

#### ⑤調査実施機関

企画……株式会社 学研パブリッシング

実施……株式会社 メグ

## 【調査内容】

※具体的内容は（付 1、2）の「調査票」「リーフレット」を参照

- ・学乳未実施の要因の 1 つとして、学校給食用牛乳供給事業の仕組みや、展開しているサポート事業などの情報が認知されていないのではないかという仮説が考えられた。
- ・そこで、アンケート票と一緒に、リーフレット（学乳事業の取り組み、展開しているサポートの説明、牛乳飲用の効用、重要性などを説明した資料）も同封し、リーフレットを視認する前と、視認した後で、学乳に対する意識がどのように変化するかを主眼とした調査設計とした。
- ・具体的には、以下のような手順で回答してもらうよう説明した。

①アンケートの左側を回答（学校給食導入有無、非導入理由、学乳事業の認知状況等を把握）

②リーフレットを視認



表面

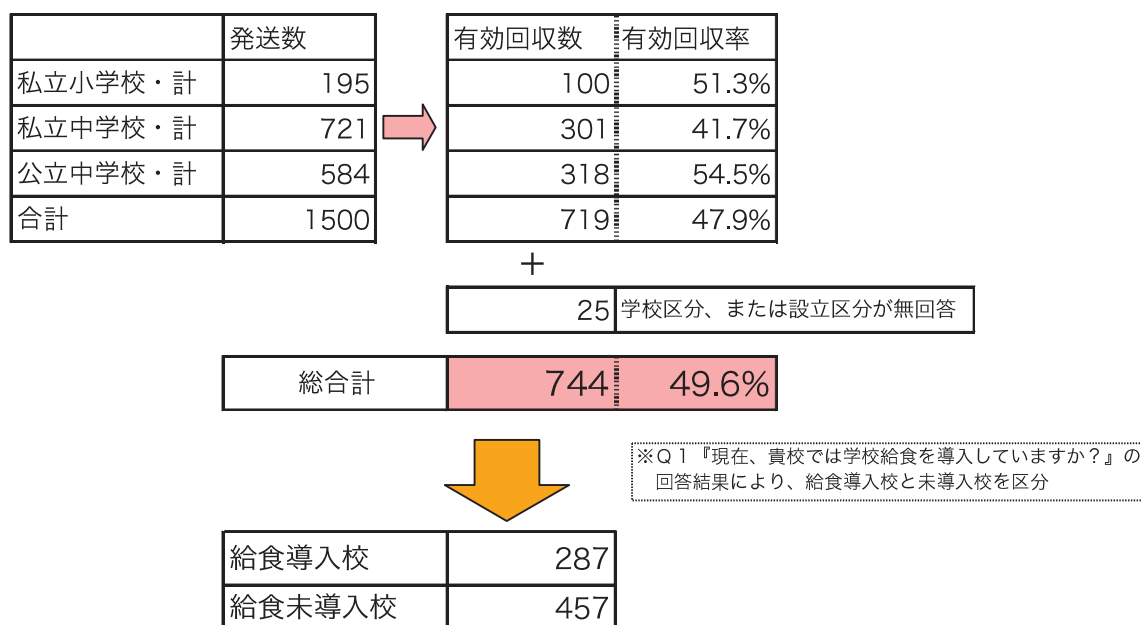


裏面



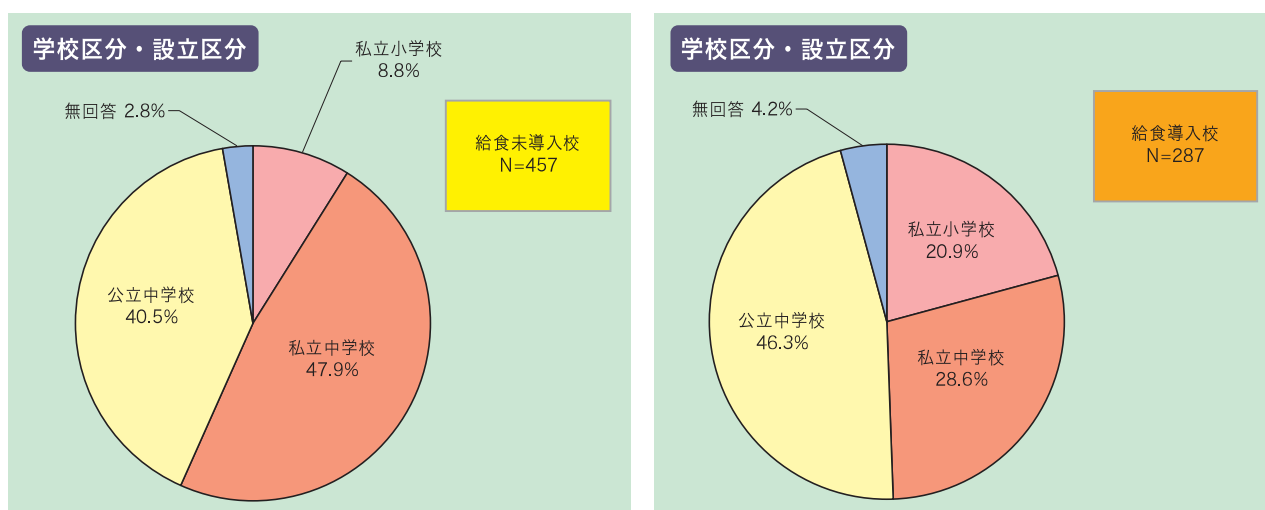
③アンケートの右側を回答（学乳事業に対する関心度、学校給食導入意向などを把握）

## 【回収状況】

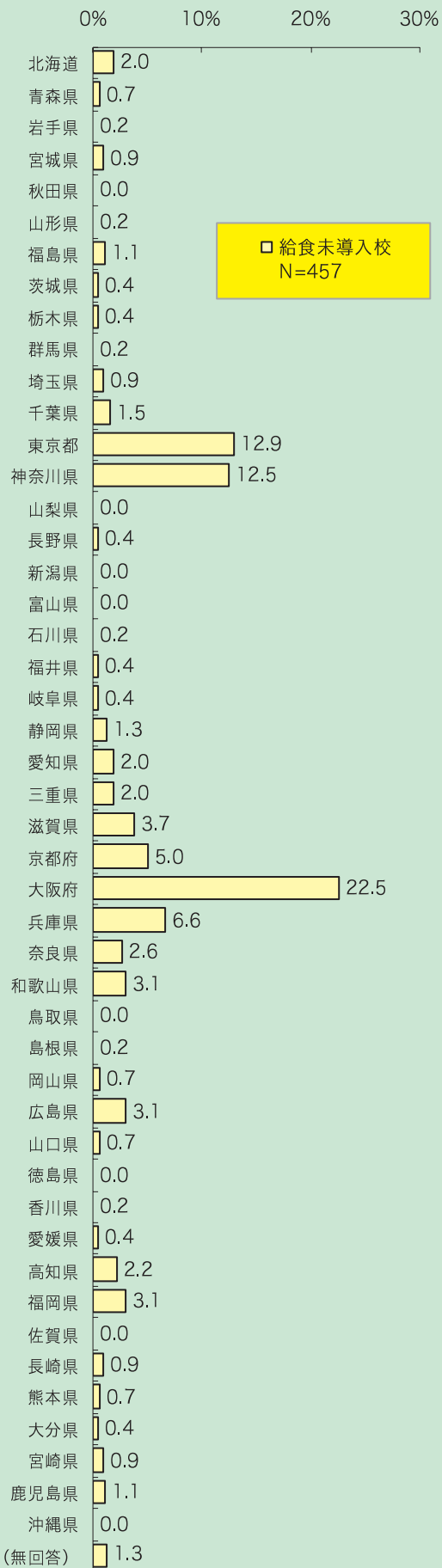


注：有効回収票の「給食導入校、未導入校の区分（定義）」は、アンケート Q 1 の回答結果で行った。  
したがって、本来、未導入校に含まれるケース（例：希望生徒にランチプレートを提供など）  
でも回答が「導入している」であるなら、その“意識”を重視し、導入校として区分した。

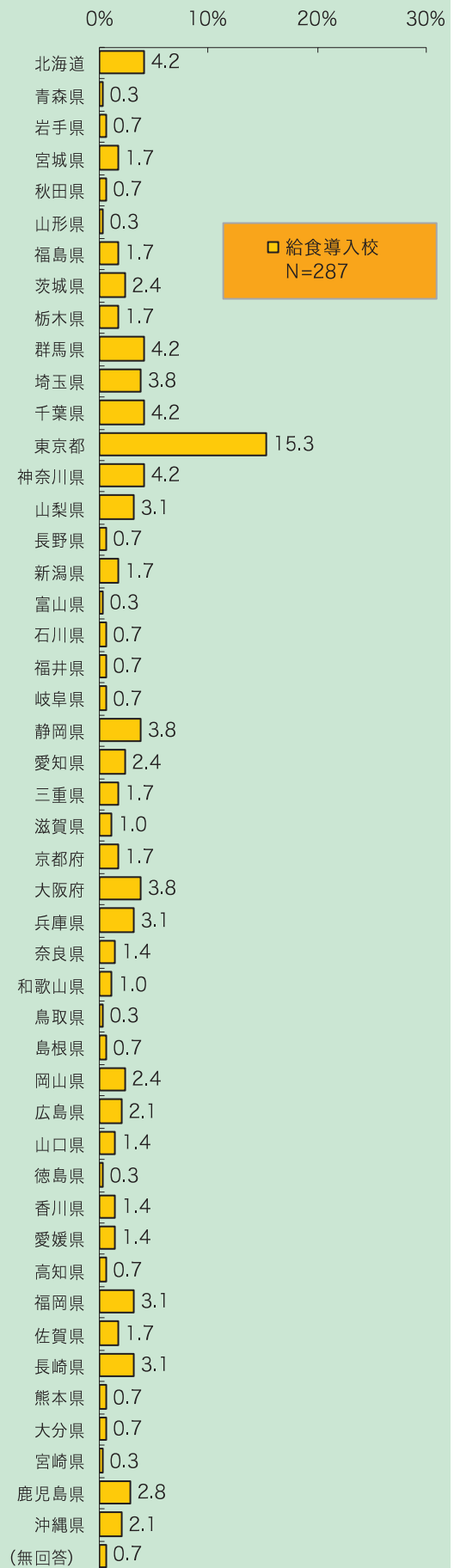
## 【回答者のプロフィール】

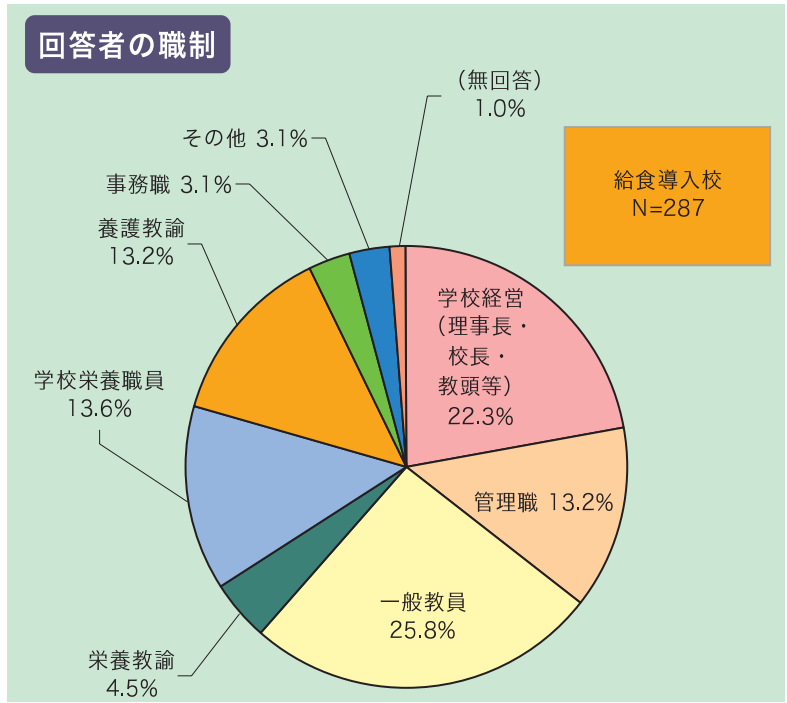
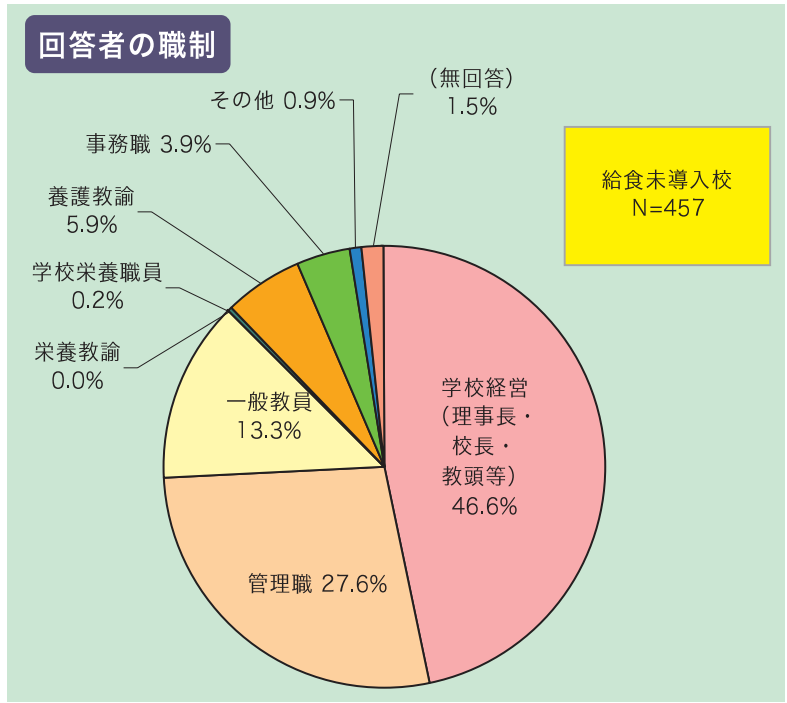


## 地域（都道府県）



## 地域（都道府県）









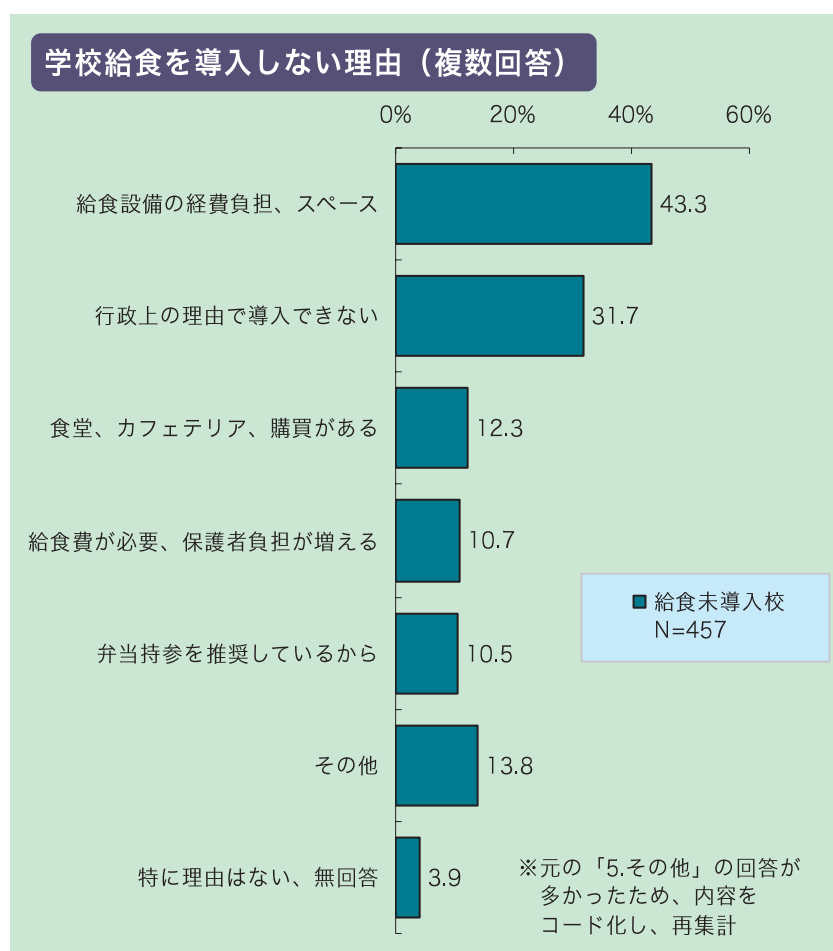
# I

## 調査結果の要約

# 1. 学校給食未導入の要因

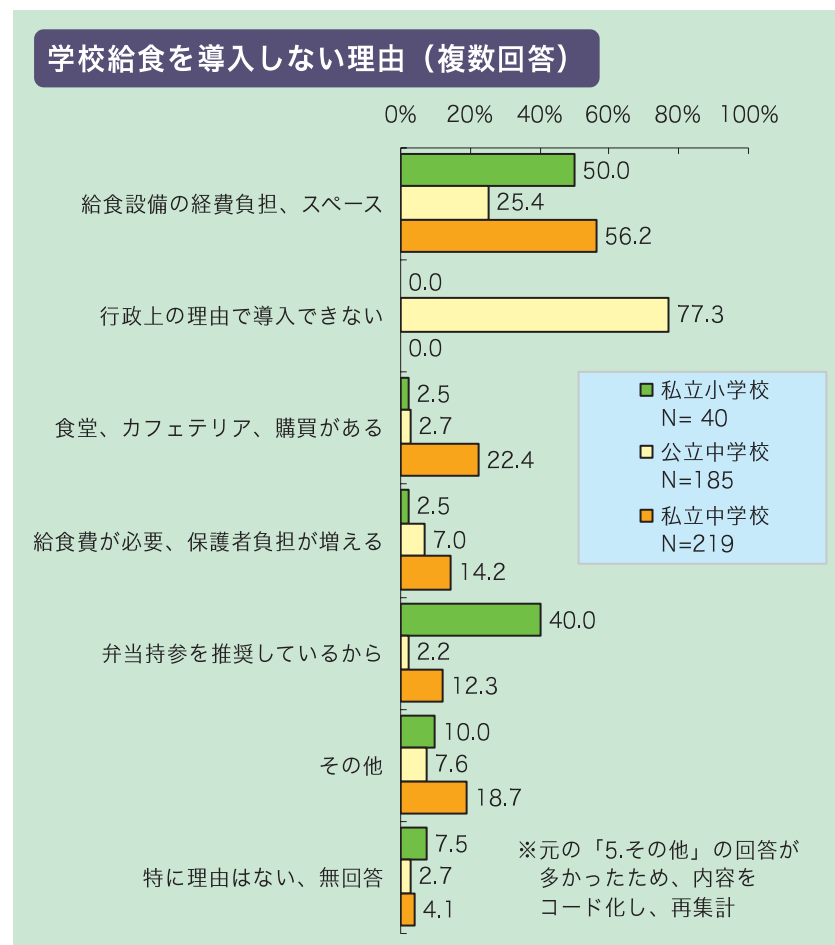
○『給食設備の経費負担、設備に要するスペースの問題』、『行政上の理由』が学校給食を導入しない主要因である

- ・『学校給食を導入していない理由』について質問したところ、最も多い回答は「給食設備の経費負担、スペース」で 43.3%。次いで「行政上の理由で導入できない」31.7%の順で、この 2 つの要因が学校給食導入を妨げている主要因と推測される。



- 『給食設備の経費負担、設備に要するスペースの問題』は私立の小・中学校に多く、『行政上の理由』は公立中学校に多い
- 私立小学校では弁当持参を推奨しているところも多く、これも給食未導入要因となっている

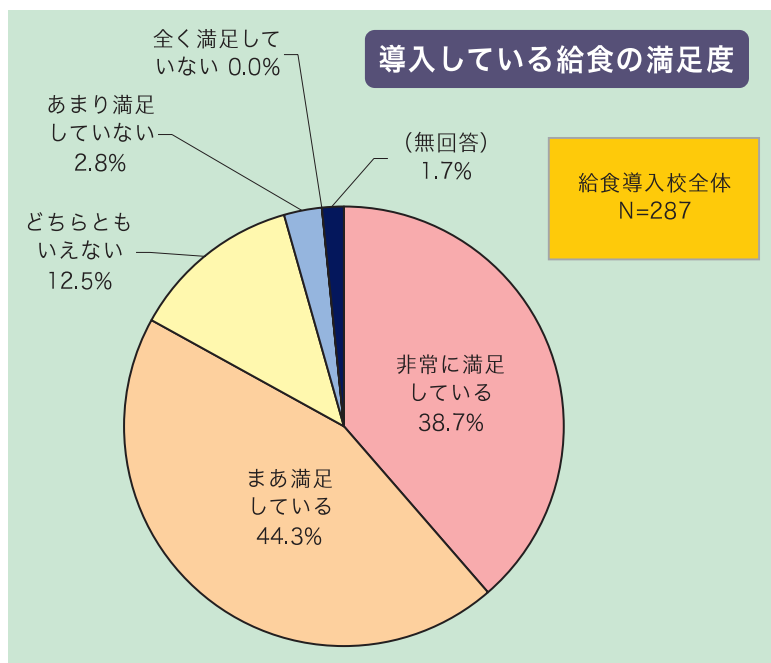
- ・学校種類別に比較すると、「給食設備の経費負担、スペース」は私立の小・中学校で多く、一方「行政上の理由で導入できない」は公立中学校特有の要因となっている。
- ・なお、私立小学校に多く見られた回答として「弁当持参を推奨している」があげられる。「親の愛情のこもった手作り弁当の持参」を推奨しているという回答が多く見られた。



## 2. 導入している給食の満足度（学校給食導入校）

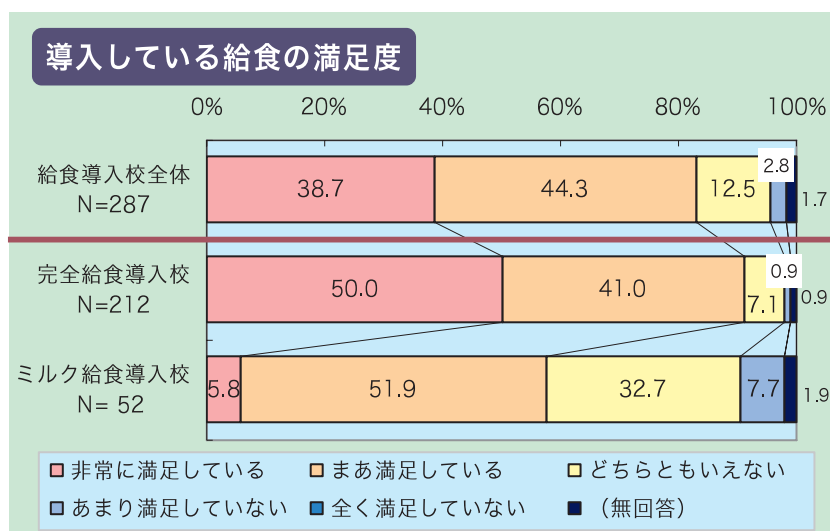
○『非常に満足/まあ満足』の合計値は 83.0%に達し、給食導入についての満足度は高い

- ・学校給食導入の満足度を見ると、全体では「非常に満足している」38.7%、「まあ満足している」44.3%で、合わせて83.0%に達している。



○特に『完全給食導入校』の満足度が高い

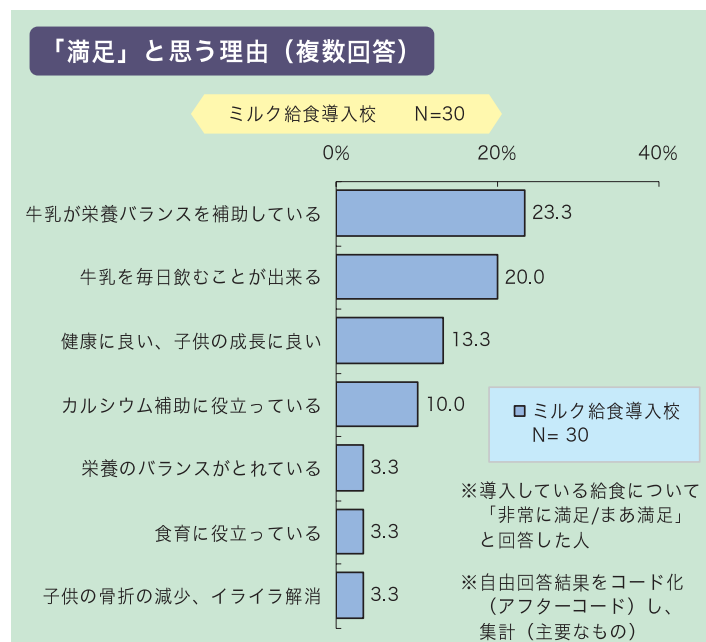
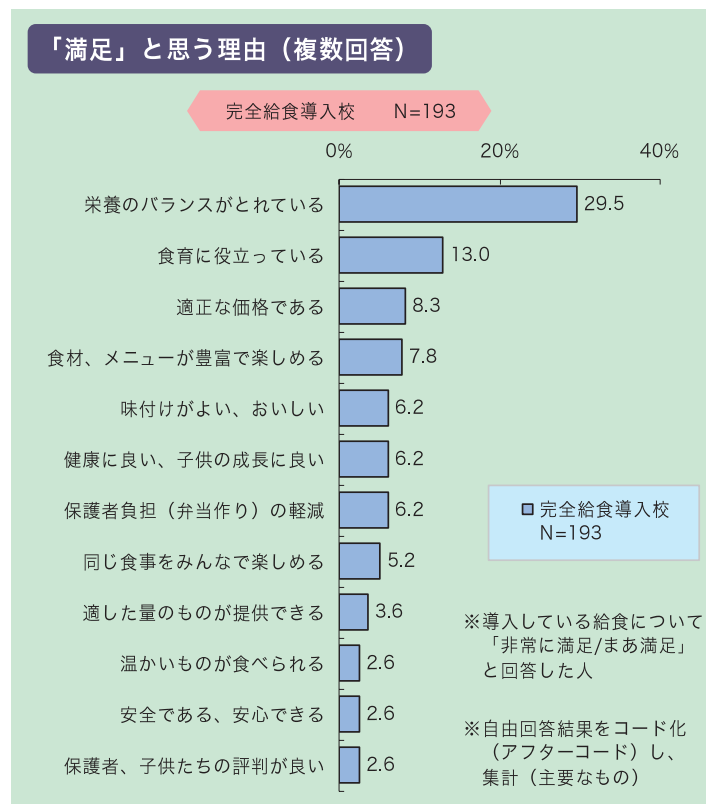
- ・『完全給食導入校』と『ミルク給食導入校』を比較すると、『完全給食導入校』は「非常に満足/まあ満足」の合計が 91.0%と高いのに対し、『ミルク給食導入校』では 57.7%と低い。特に「非常に満足している」の回答で差が大きく、『完全給食導入校』が 50.0%であるのに対し、『ミルク給食導入校』は 5.8%にとどまっている。



○満足度が高い理由は、

『完全給食導入校』・・・「栄養バランスの良さ」、「食育に貢献」  
『ミルク給食導入校』・・「牛乳による栄養補助」、「牛乳飲用の習慣化」

- ・『満足している理由』の自由回答結果を見ると（アフターコードし、集計）、『完全給食校』の場合、「栄養のバランスがとれている」が最も高く 29.5%。次いで「食育に役立っている」13.0%の順。  
一方、『ミルク給食導入校』は「牛乳が栄養バランスを補助している」23.3%、「牛乳を毎日飲むことが出来る」20.0%が 1 位、2 位を占め、牛乳の“栄養補助”の側面が高く評価され、それを習慣として飲用できることが満足につながっている。

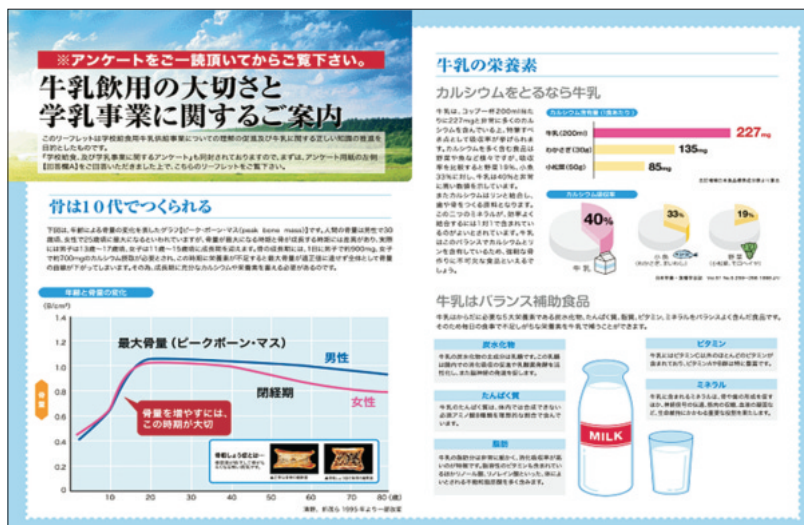


### 3. 学乳事業の認知率とリーフレット視認後の関心度 (学校給食導入校 vs 未導入校比較)

- ・学乳事業に関する下記項目（5項目）について、それぞれリーフレット視認前には認知状況を、リーフレット視認後は関心度をたずねた。

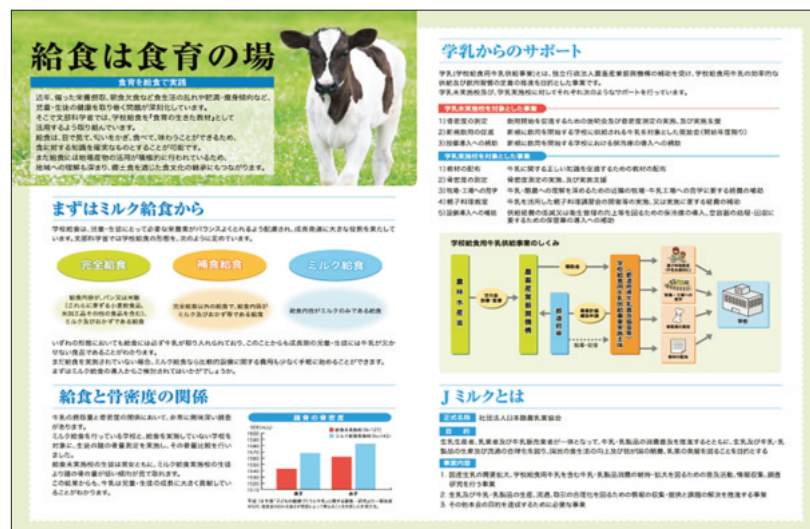
※リーフレット詳細は（付-2）を参照

| リーフレット視認前（認知率）                                             | リーフレット視認後（関心度）                                                    |
|------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------|
| Q2①「学乳事業（学校給食用牛乳供給事業）」についてご存知ですか？                          | Q3. 「学乳事業（学校給食用牛乳供給事業）」についてどの程度関心を持ちましたか？                         |
| Q2②学校給食には「完全給食」「補助給食」「ミルク給食」の3つの形態があることをご存知ですか？            | Q4. 学校給食には「完全給食」「補助給食」「ミルク給食」の3つの形態があることについて、どの程度関心を持ちましたか？       |
| Q2③児童生徒の『牛乳飲用の効用、重要性』についてご存知ですか？                           | Q5. 児童生徒の『牛乳飲用の効用、重要性』について、どの程度関心を持ちましたか？                         |
| Q2④新規学乳開始校に対して『奨励金』や『保冷库等導入補助』などのサポートがあることをご存知ですか？         | Q7. 新規学乳開始校に対する『奨励金』や『保冷库等導入補助』などのサポートについて、どの程度関心を持ちましたか？         |
| Q2⑤学乳実施校に対して『教材の提供』『骨密度測定』『牧場・牛乳工場の見学』などのサポートがあることをご存知ですか？ | Q8. 学乳実施校に対する『教材の提供』『骨密度測定』『牧場・牛乳工場の見学』などのサポートについて、どの程度関心を持ちましたか？ |



←リーフレット（表）

リーフレット（裏）→

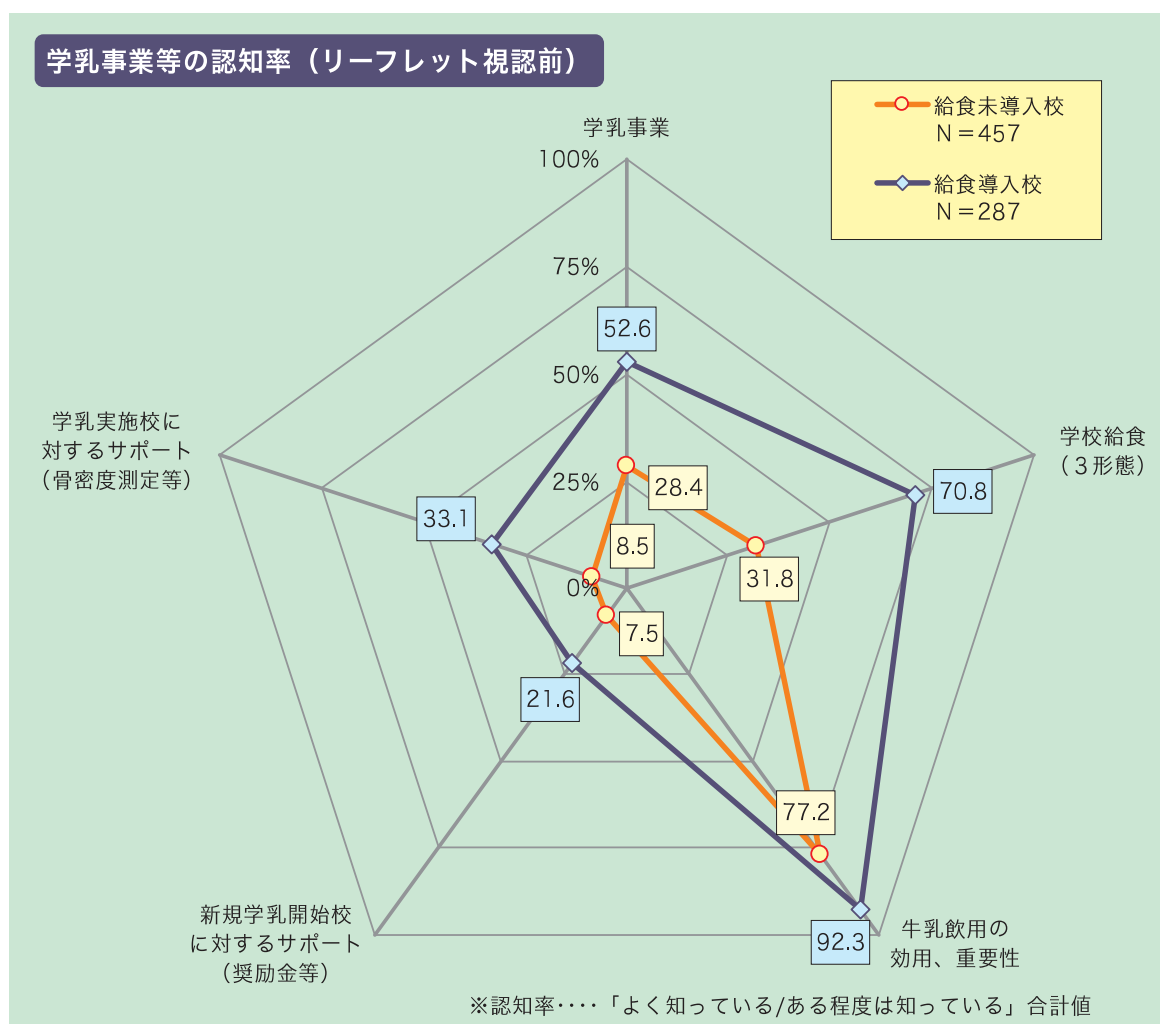


○すべての項目において、学校給食導入校の認知率が未導入校を大きく上回っている

※認知率……「よく知っている/ある程度は知っている」合計値

○最も認知率が高いのは『牛乳飲用の効用、重要性』で、学校給食導入校で92.3%、未導入校でも77.2%に達している

- ・まず、認知率（「よく知っている/ある程度は知っている」合計値）について見ると、5項目すべてにおいて給食導入校の認知率が未導入校の認知率を大きく上回り、給食導入有無が学乳事業の認知に大きく影響している。
- ・項目別に比較すると、『牛乳飲用の効用、重要性』の認知率は給食導入校、未導入校共に高く、前者で92.3%、後者でも77.2%に達している。
- ・逆に、認知率の低い項目は『新規学乳開始校に対するサポート（奨励金等）』、『学乳実施校に対するサポート（骨密度測定等）』で、給食未導入校はいずれも1割に満たない。



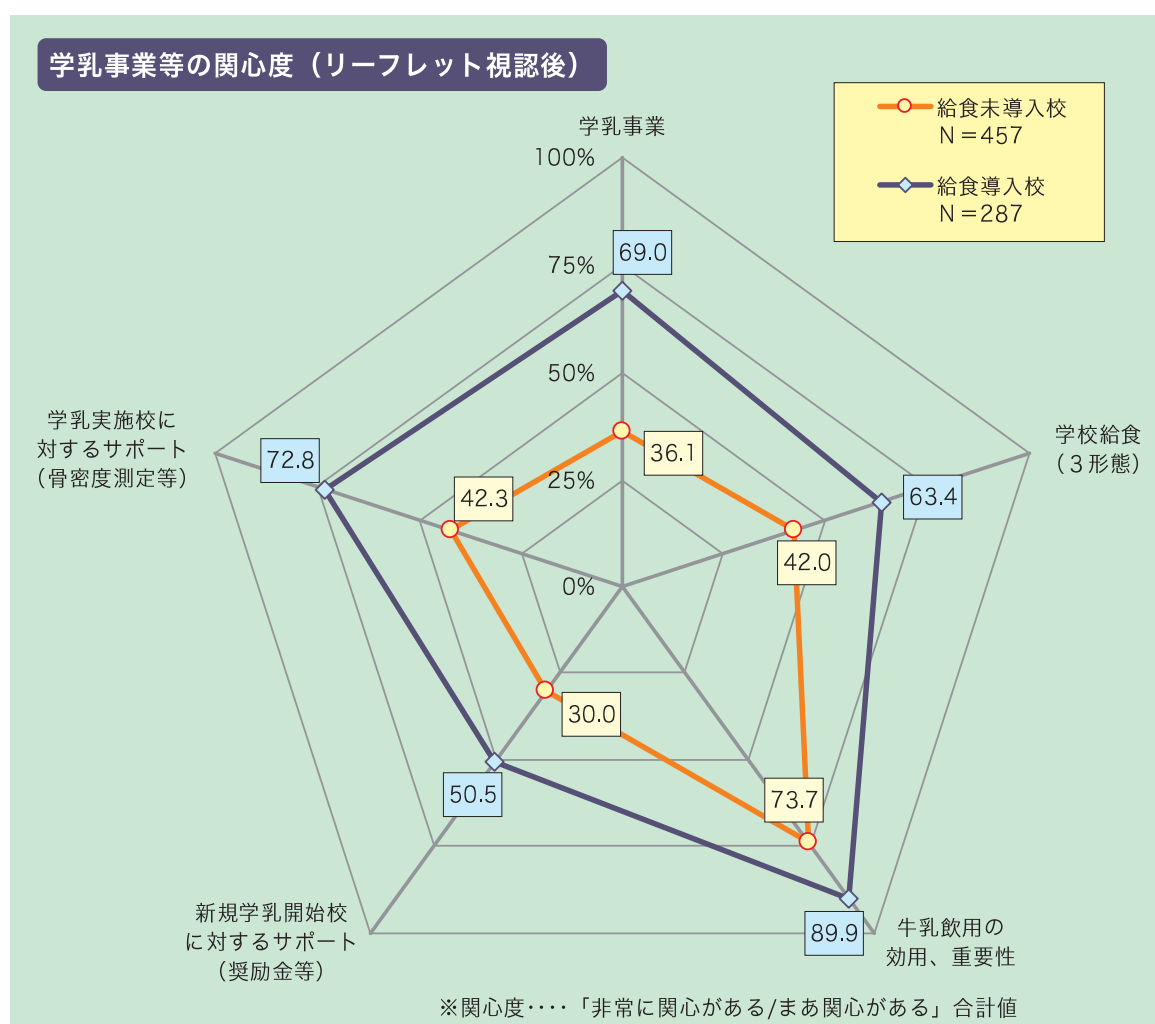


○認知率同様、すべての項目において、学校給食導入校の関心度が未導入校を大きく上回っている

※関心度……「非常に関心がある/まあ関心がある」合計値

○最も関心度が高いのは『牛乳飲用の効用、重要性』で、  
次いで、『学乳実施校に対するサポート（骨密度測定等）』の順である  
＜学校給食導入校、未導入校共通＞

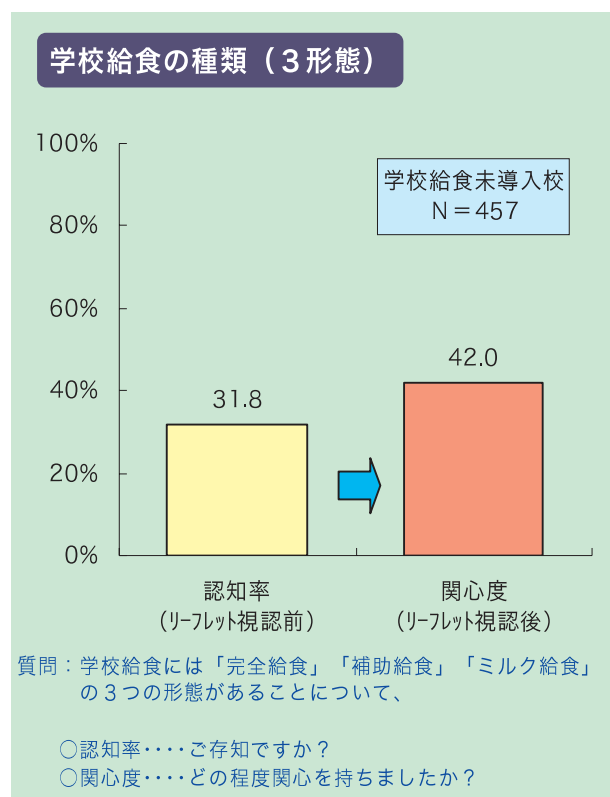
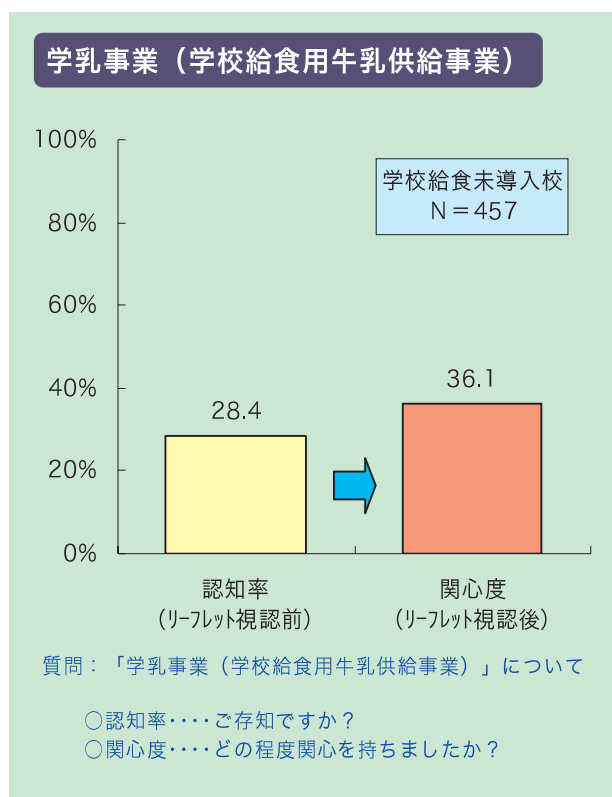
- ・次に、関心度（「非常に関心がある/まあ関心がある」合計値）について見ると、5項目すべてにおいて給食導入校の関心度が未導入校の関心度を大きく上回り、認知率同様の結果となった。
- ・項目別に比較すると、『牛乳飲用の効用、重要性』の関心度が最も高く、次いで『学乳実施校に対するサポート（骨密度測定等）』の順で、給食導入校、未導入校共通である。



## 4. リーフレット視認による関心度UP効果（学校給食未導入校）

### ○『学乳事業』、『学校給食の種類（3形態）』共に、リーフレット視認による関心度UP効果が、若干認められる

- ・給食未導入校について『学乳事業』、『学校給食の種類（3形態）』の関心度を認知率と比較すると、前者が 28.4%→36.1%、後者が 31.8%→42.0%で、それぞれ認知率よりも若干上昇し、リーフレット視認によって、関心を高める効果があったと推測される。

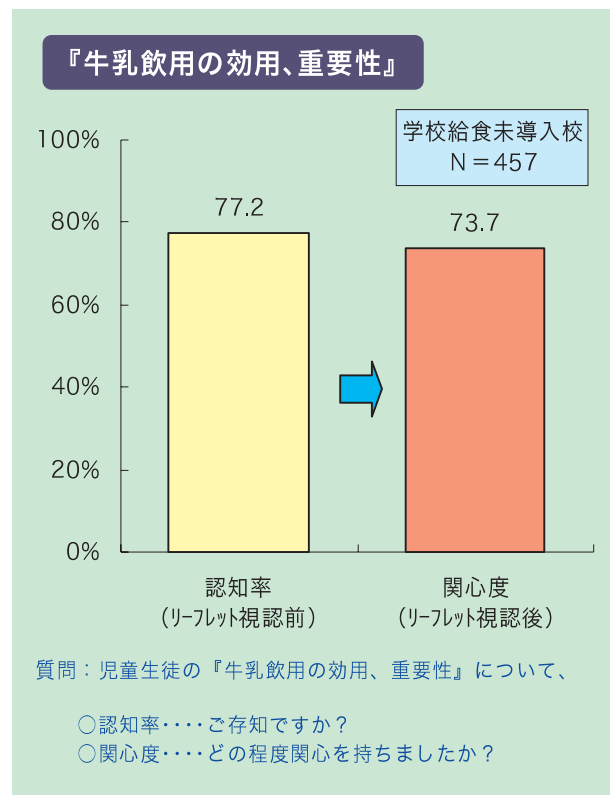


※認知率……「よく知っている/ある程度は知っている」合計値

※関心度……「非常に関心がある/まあ関心がある」合計値

## ○『牛乳飲用の効用、重要性』は認知率、関心度共に高い

- ・『牛乳飲用の効用、重要性』の給食未導入校の認知率は 77.2%。それに対し、関心度は 73.7%で、関心度の方が若干下がっている。これはすでにある程度周知されており、もともと関心が高いためと思われる。

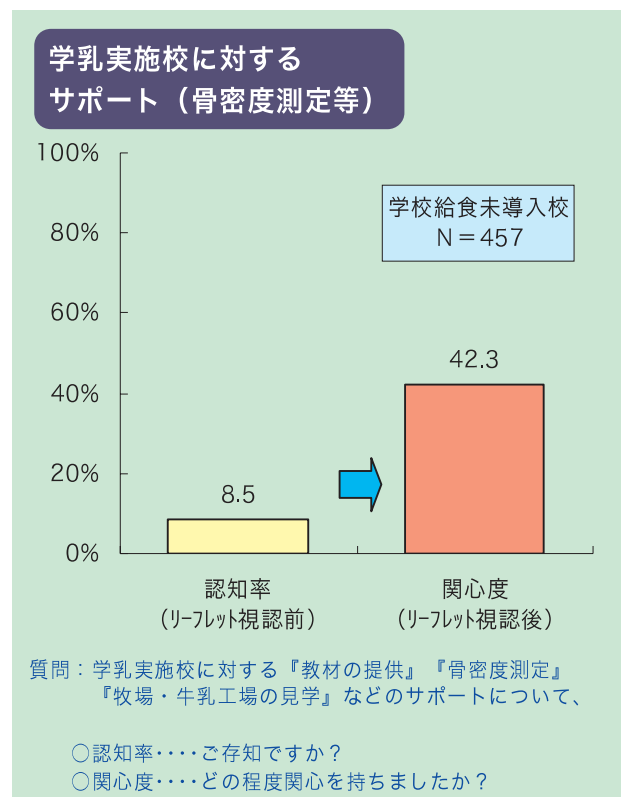
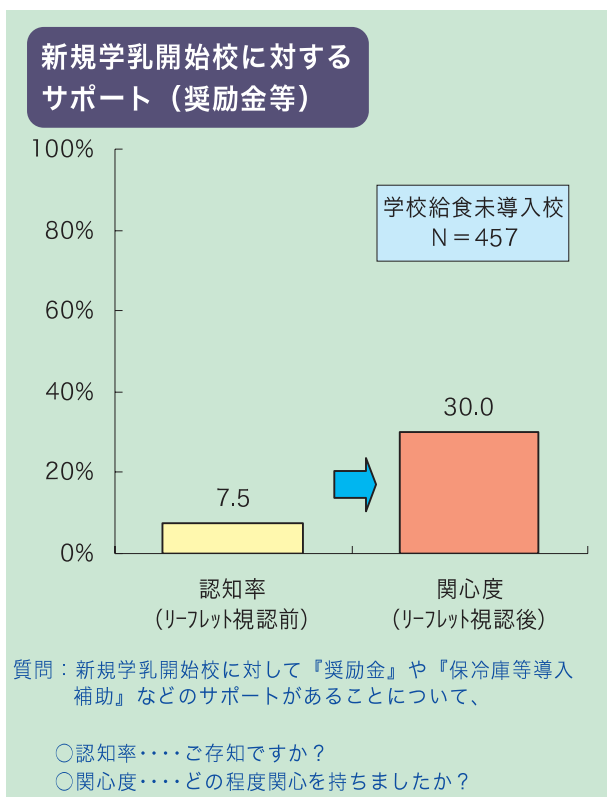


※認知率……「よく知っている/ある程度は知っている」合計値

※関心度……「非常に関心がある/まあ関心がある」合計値

○『新規学乳開始校に対するサポート（奨励金等）』、『学乳実施校に対するサポート（骨密度測定等）』は、認知率は低いものの関心度が高く、リーフレット視認による関心度UP効果が顕著である

- ・『新規学乳開始校に対するサポート（奨励金等）』、『学乳実施校に対するサポート（骨密度測定等）』の給食未導入校の認知率は前者が7.5%、後者が8.5%で、共に1割にも満たない。
- ・しかし、リーフレット視認後の関心度は『新規学乳開始校に対するサポート（奨励金等）』30.0%、『学乳実施校に対するサポート（骨密度測定等）』42.3%で、認知率に比べ、4倍～5倍と大きく関心度が高まっている。



※認知率……「よく知っている/ある程度は知っている」合計値

※関心度……「非常に関心がある/まあ関心がある」合計値

## 5. 『学校給食の必要性』に対する意識と、それに寄与する要因

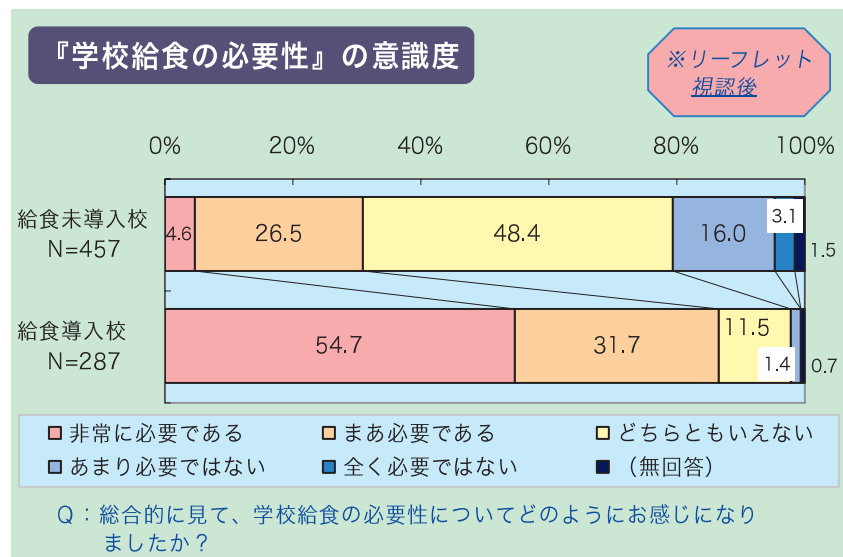
### ＜給食未導入校＞

- 学校給食の必要性について、「どちらともいえない」と態度を保留した人が最も多く、48.4%と約半数である

### ＜給食導入校＞

- 「非常に必要である」との回答が 54.7%と過半数を超え、「まあ必要である」を合わせると 86.4%に達している

- ・リーフレット視認後の『学校給食の必要性』の回答結果を見ると、給食未導入校の最も多い回答は「どちらともいえない」で48.4%と約半数にのぼる。残りの「非常に必要である/まあ必要である」の合計値と「あまり必要ではない/全く必要ではない」の合計値を比較すると、前者は 31.1%、後者は 19.1%で、必要と感じている人の方が多い。
- ・一方、給食導入校の場合は「非常に必要である/まあ必要である」の合計値が 86.4%に達し、しかも積極的に「非常に必要である」と回答した人の方が多く、54.7%と過半数を超えている。



○給食未導入校について、『学校給食の必要性』の意識向上に寄与する要因を探ったところ（手法：数量化1類）、

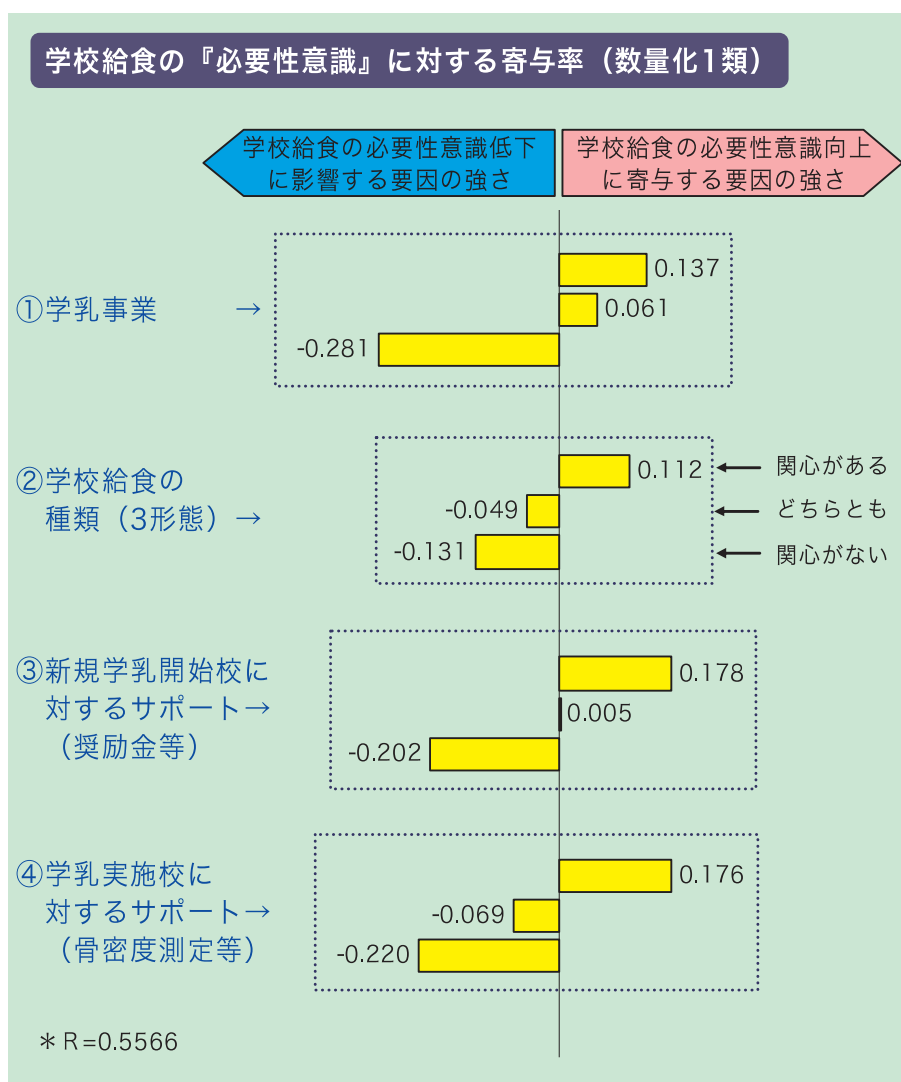
①寄与率の高い要因は『新規学乳開始校に対するサポート（奨励金等）』、『学乳実施校に対するサポート（骨密度測定等）』である

②「牛乳飲用の効用、重要性」は『学校給食の必要性』との相関が低く、寄与率は低い

・給食未導入校を対象に、『学校給食の必要性』の回答結果を目的変数とし、『学乳事業』『学校給食の種類（3形態）』『新規学乳開始校に対するサポート』『学乳実施校に対するサポート』それぞれの関心度を説明変数（4要因）としたときの、目的変数に対する各要因の寄与率を数量化1類で算出した。

※『牛乳飲用の効用、重要性』要因は目的変数である『学校給食の必要性』との相関が低い（影響度が低い）ため除外した。

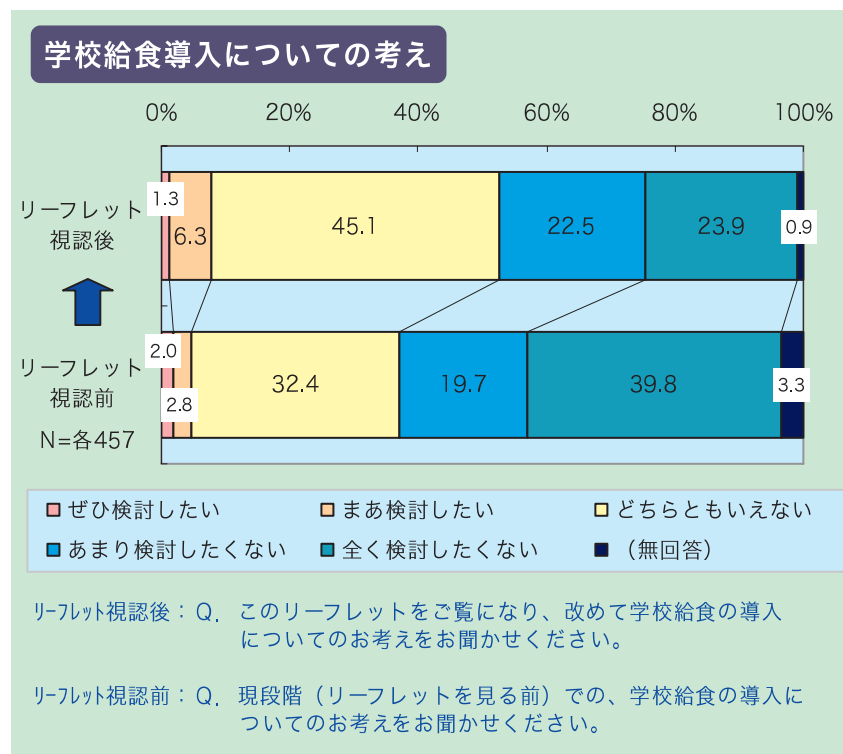
・その結果を見ると、『学校給食の必要性』の意識向上に最も寄与している要因は「新規学乳開始校に対するサポート（奨励金等）」で、ほぼ同程度で「学乳実施校に対するサポート（骨密度測定等）」の順である。すなわち、これらの要因の関心度が高まることによって『学校給食の必要性』の意識向上につながりやすいと考えられる。



## 6. リーフレット視認による『学校給食導入意向』の変化

### ○リーフレット視認により、『学校給食導入意向』は上昇する傾向を示している

- ・次に『給食未導入校』について、リーフレットを視認した後の『給食の導入意向』をリーフレット視認前と比較すると、「ぜひ検討したい/まあ検討したい」は+2.8ポイントの上昇、「どちらともいえない」が+12.7ポイント、「あまり検討したくない/全く検討したくない」は-13.1ポイントの減少で、学校給食用牛乳供給事業の仕組みや、展開しているサポート事業、牛乳飲用の効用、重要性などの情報を認知してもらい、それによって関心が高まることで学校給食導入意向が上昇する傾向が示されている。



○具体的には、リーフレット視認により、給食未導入校全体の約3割で『学校給食導入意向』が上昇している

- ・そこで、リーフレット視認前後で『学校給食の導入意向』がどのように変化したかを具体的に見るために、（視認前）×（視認後）の集計を行ったところ、「リーフレット視認により、給食導入意向がUPした人」は136名で、給食未導入校全体の31.0%という結果である。

| 給食導入についての<br>考え（給食導入意向） |                    | リーフレット視認前 |             |             |               |                    |                    |     |
|-------------------------|--------------------|-----------|-------------|-------------|---------------|--------------------|--------------------|-----|
|                         |                    | 合計        | ぜひ検討<br>したい | まあ検討<br>したい | どちらと<br>もいえない | あまり検<br>討したく<br>ない | 全く検討<br>したくなく<br>い | 無回答 |
| リーフレット<br>視認後           | 全体                 | 457       | 9           | 13          | 148           | 90                 | 182                | 15  |
|                         | ぜひ検討<br>したい        | 6         | 5           | 0           | 1             | 0                  | 0                  | 0   |
|                         | まあ検討<br>したい        | 29        | 3           | 9           | 11            | 4                  | 1                  | 1   |
|                         | どちらと<br>もいえない      | 206       | 1           | 4           | 118           | 36                 | 41                 | 6   |
|                         | あまり検<br>討したく<br>ない | 103       | 0           | 0           | 13            | 45                 | 42                 | 3   |
|                         | 全く検討<br>したくなく<br>い | 109       | 0           | 0           | 5             | 4                  | 96                 | 4   |
|                         | 無回答                | 4         | 0           | 0           | 0             | 1                  | 2                  | 1   |

136名（31.0%） ・リーフレット視認により、給食導入意向がUPした人

273名（62.2%） ・リーフレット視認前後で変化なし

30名（6.8%） ・リーフレット視認により、給食導入意向がDownした人

※N=439（無回答除く）



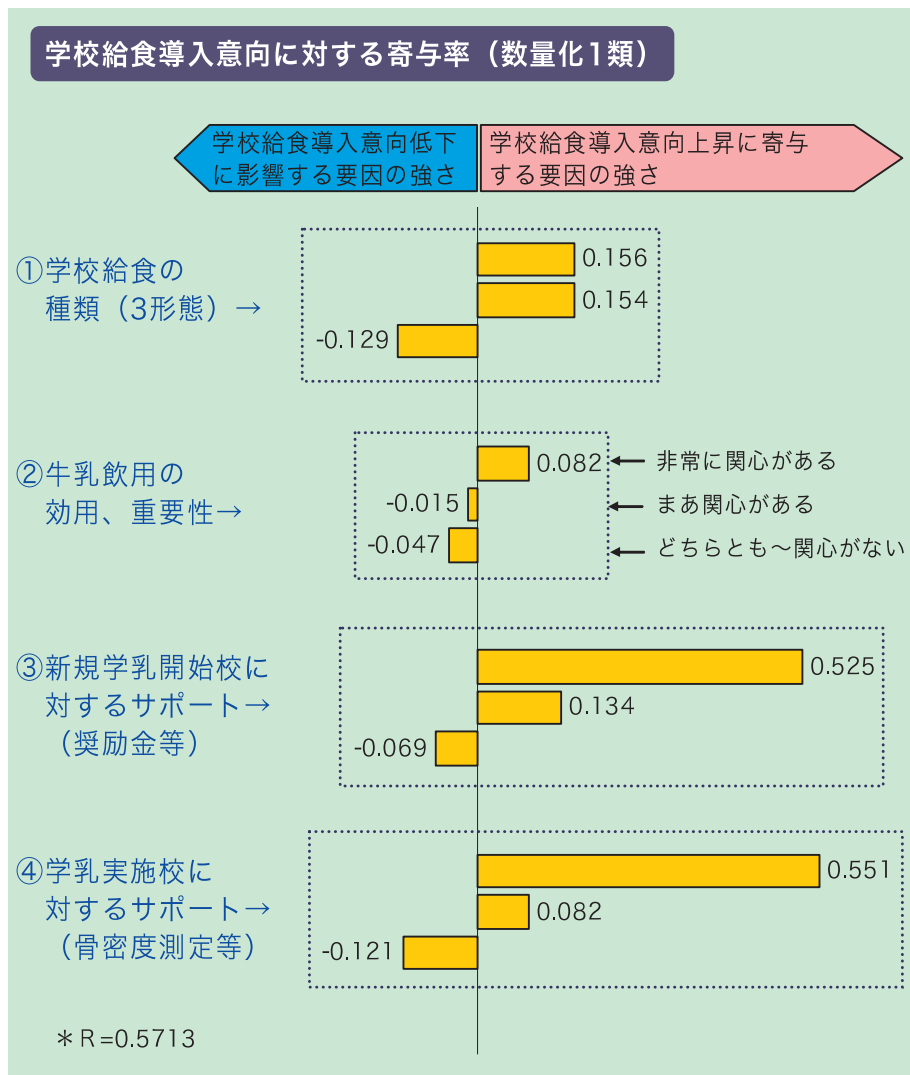
## 7. 『学校給食導入意向』UPに寄与する要因（数量化1類）

- 「学乳実施校に対するサポート（骨密度測定等）」、「新規学乳開始校に対するサポート（奨励金等）」が『学校給食導入意向』上昇に大きく寄与している

・前項「リーフレット視認により、給食導入意向がUPした人（136名）」を対象に、『学校給食の導入意向』の回答結果を目的変数とし、『学校給食の種類（3形態）』、『児童生徒の牛乳飲用の効用、重要性』、『新規学乳開始校に対するサポート（奨励金等）』、『学乳実施校に対するサポート（骨密度測定等）』それぞれの関心度を説明変数（4要因）としたときの、目的変数に対する各要因の寄与率を数量化1類で算出した。

※「学乳事業」要因は目的変数である『学校給食の導入意向』との相関が低いため除外した

- ・その結果を見ると、『学校給食の導入意向』に最も寄与している要因は「学乳実施校に対するサポート（骨密度測定等）」で、ほぼ同程度で「新規学乳開始校に対するサポート（奨励金等）」が続いている。これらの要因に対する関心度が「非常に関心がある」と回答されることにより『学校給食の導入意向』上昇に大きく寄与するという結果である。
- ・一方、『牛乳飲用の効用、重要性』は寄与率が最も低いという結果で、このような結果となった理由は、『牛乳飲用の効用、重要性』は関心度は高いものの、すでにある程度認知されているためと考えられる。一方、「学乳実施校に対するサポート（骨密度測定等）」、「新規学乳開始校に対するサポート（奨励金等）」は認知率が低いため、新たにそれを知ることによる効果が大きいものと推察される。

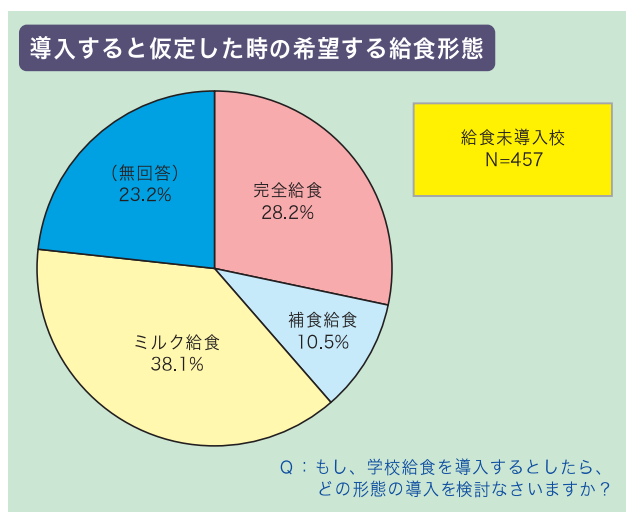


## 8. 導入すると仮定した場合に希望する給食形態

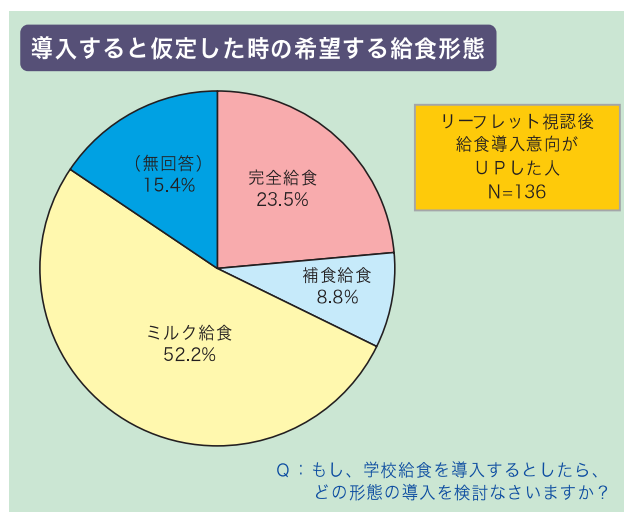
### ○「ミルク給食」の導入希望が強い (特にリーフレット視認後に給食導入意向が上昇した人)

- ・「学校給食を導入する」と仮定した場合の希望する給食形態を見ると、給食未導入校全体では「完全給食」28.2%、「補食給食」10.5%、「ミルク給食」38.1%、「無回答」23.2%である。
- ・一方、リーフレット視認後に給食導入意向がUPした人(136名)に限定してみると、「完全給食」23.5%、「補食給食」8.8%、「ミルク給食」52.2%、「無回答」15.4%で、「ミルク給食」の回答が多い。
- ・これは、学校給食未導入の主要因である「給食設備の経費負担、設備に要するスペースの問題」が、ミルク給食の場合はそれほど大きな負担とならないためと考えられる。

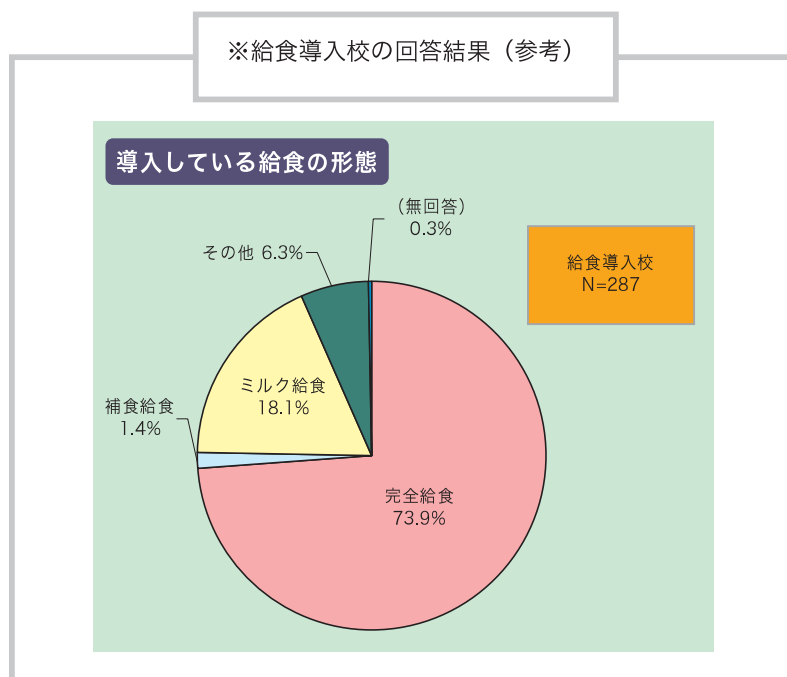
＜給食未導入校全体＞



＜リーフレット視認後給食導入意向がUPした人＞



※給食導入校の回答結果（参考）



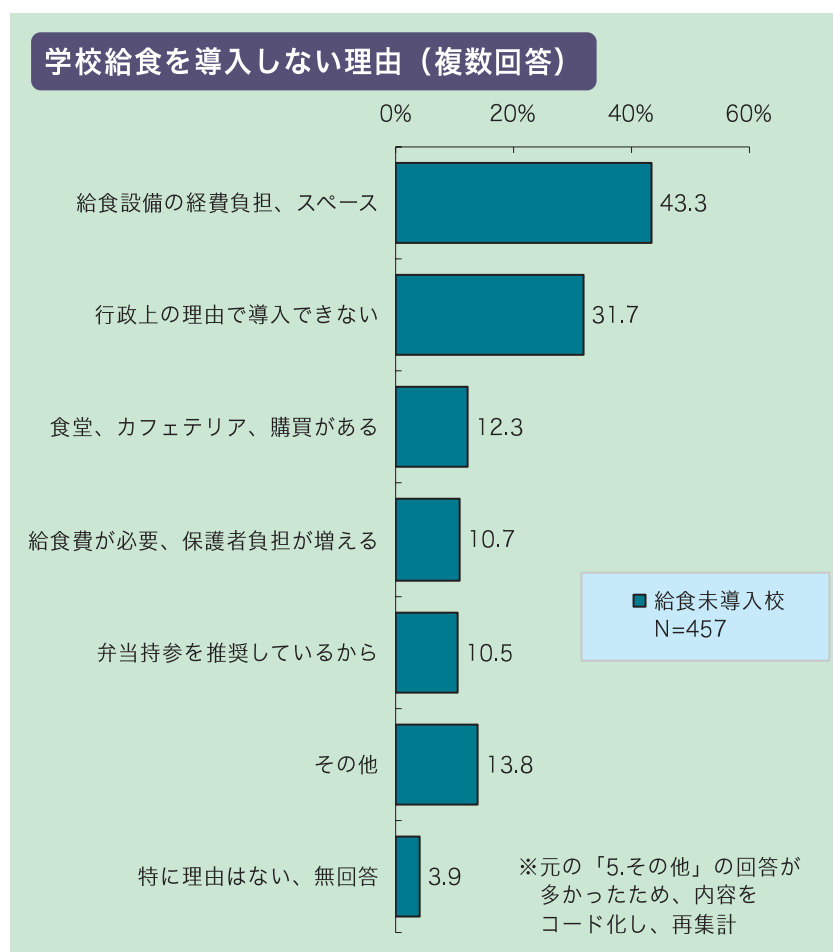
## Ⅱ

### 調査結果の詳細

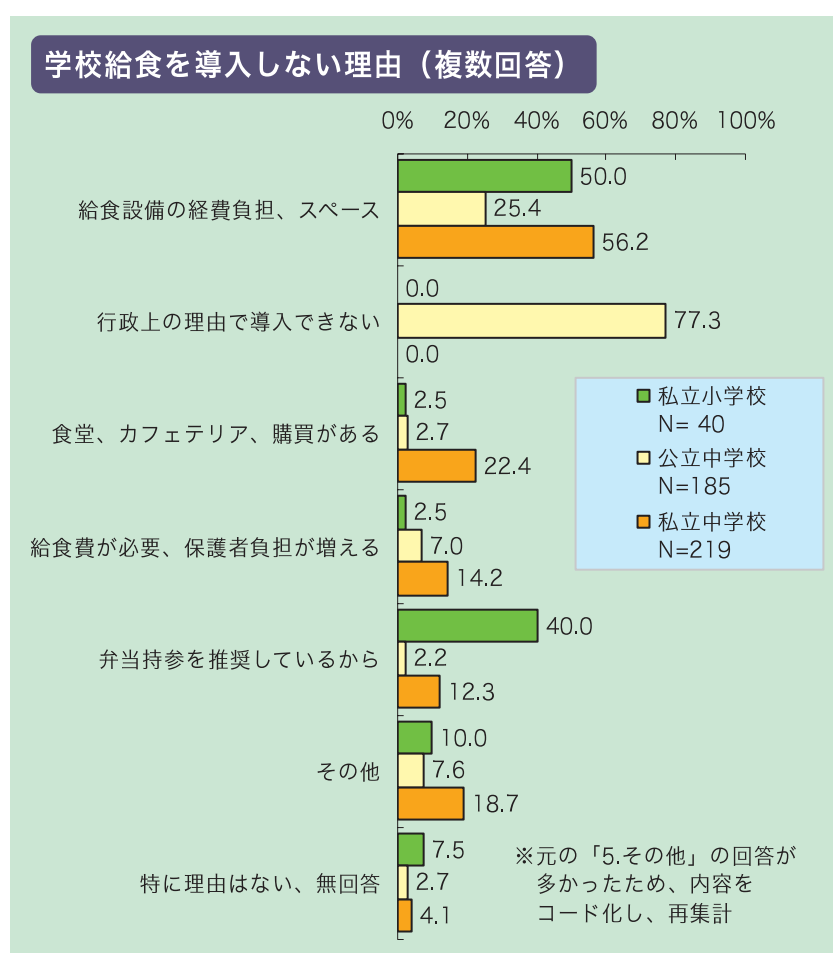
## 1. 学校給食未導入校の実態

### (1) 学校給食を導入しない理由 (Q1SQ2-①)

- ・学校給食未導入校に対し『学校給食を導入していない理由』について質問したところ、最も多い回答は「給食設備の経費負担、スペース」で 43.3%。次いで「行政上の理由で導入できない」31.7%の順で、この2つの要因が学校給食導入を妨げている様子が伺える。

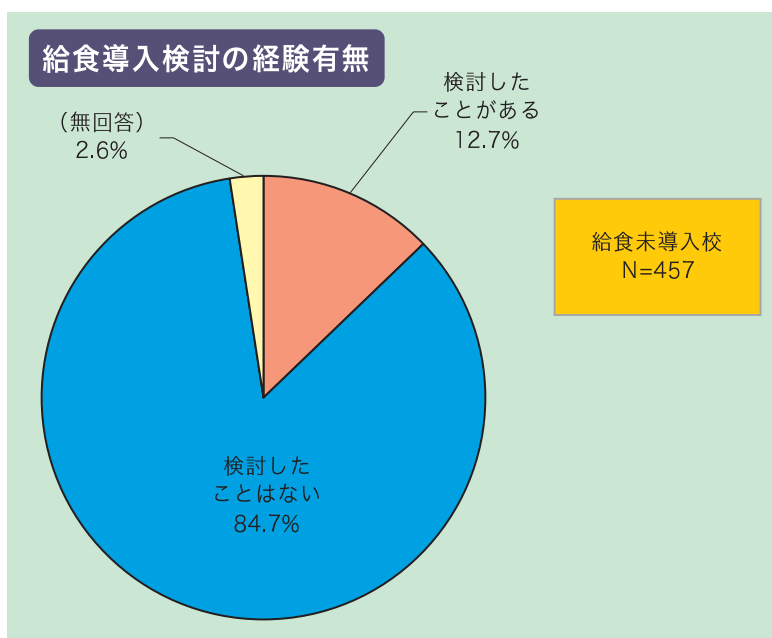


- ・次に学校種類別に比較すると、「給食設備の経費負担、スペース」は私立の小・中学校で多く、給食設備を完備するための経費負担、スペース確保の問題などが給食導入を阻害する要因となっている。
- ・一方、「行政上の理由で導入できない」は公立中学校特有の回答となっている。公立中学校の場合は、給食導入の検討に際し、学校だけでなく市や教育委員会等の意向も強く反映され、学校単独では意思決定できない様子が伺える。
- ・なお、私立小学校に多く見られた回答として「弁当持参を推奨している」があげられる。“親の愛情のこもった手作り弁当の持参”を推奨しているという回答や、“親子のコミュニケーション手段の1つとして重視している”との回答も見られた。

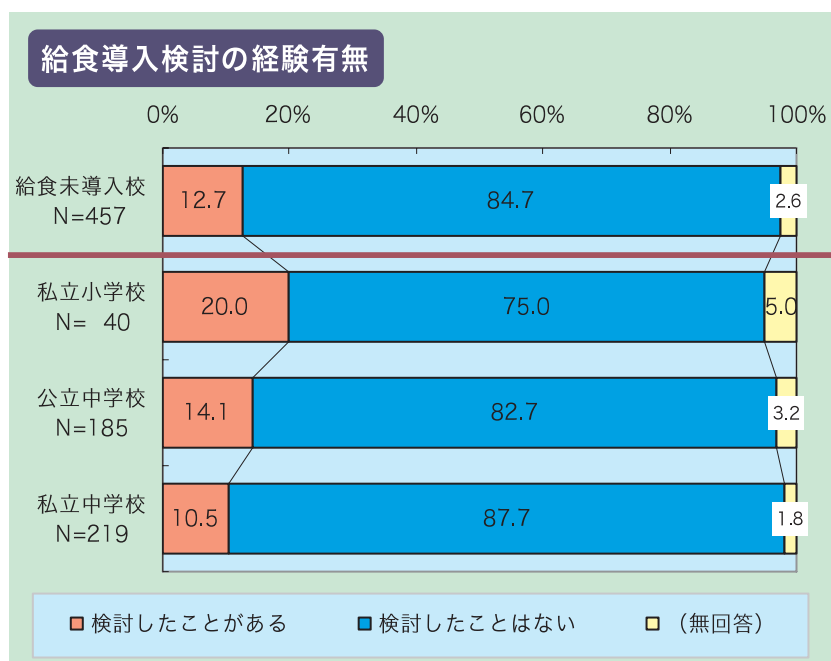


## (2) これまでの給食導入検討の経験有無 (Q1SQ2-②)

- ・『学校給食の導入』について、これまでに検討したことがあるかとの質問をしたところ、「検討したことがある」は12.7%にとどまり、多くの学校は給食導入の検討それ自体をしていないとの結果である。

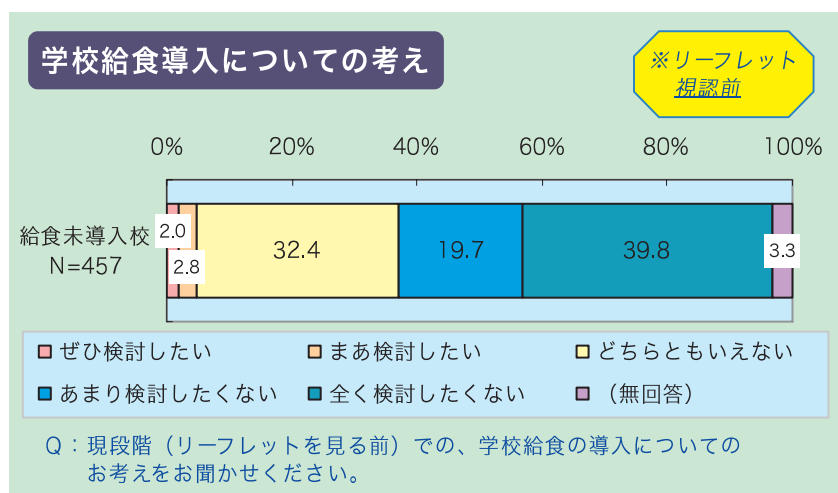


- ・学校種類別に比較すると、私立小学校で「検討したことがある」がやや多いが、それでも 20.0%にとどまっている。

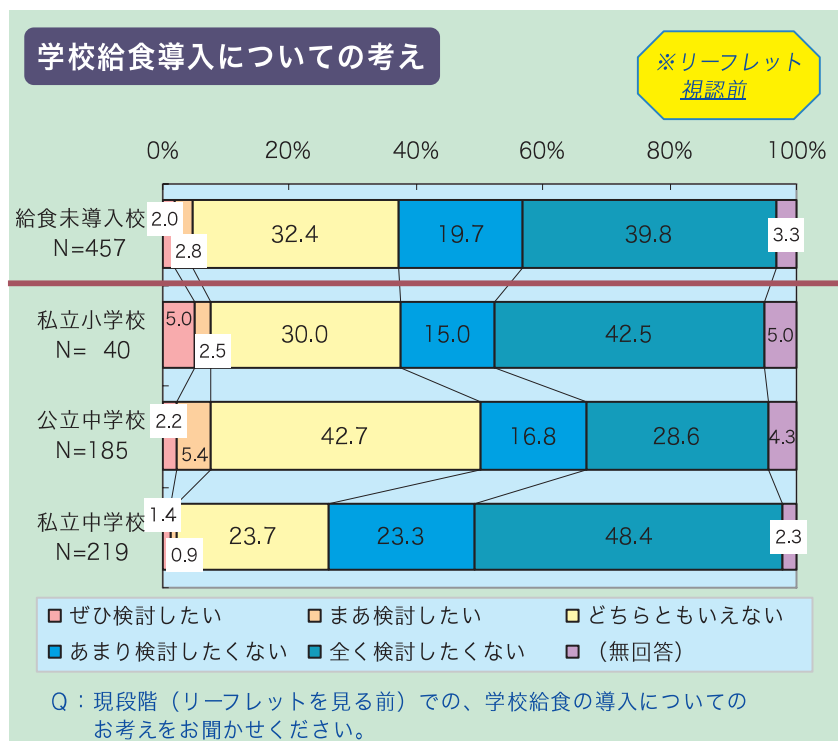


### (3) 現段階（リーフレット視認前）での学校給食導入意向（Q1SQ2-③）

- ・現段階（リーフレット視認前）での学校給食導入について、「ぜひ検討したい」は 2.0%、「まあ検討したい」も 2.8%で、合計してもわずか 4.8%である。
- ・一方、「全く検討したくない」は 39.8%と約 4 割に達している。

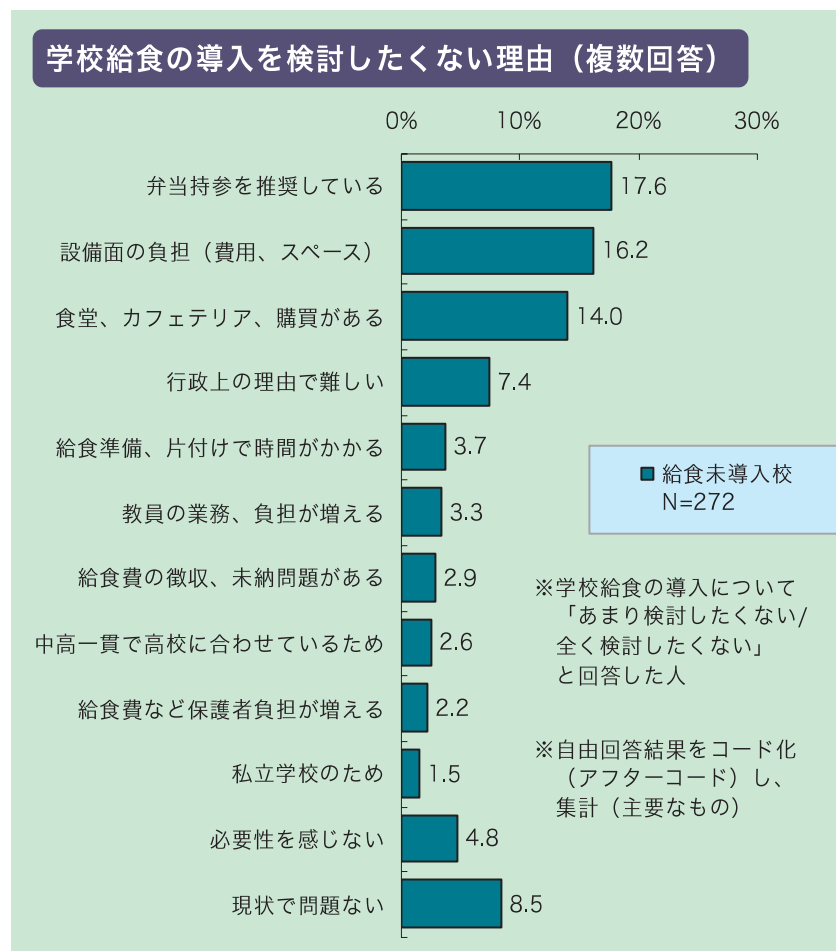


- ・学校種類別に比較すると、「あまり検討したくない/全く検討したくない」は私立中学校が最も多く、次いで私立小学校、公立中学校の順。一方、「ぜひ検討したい/まあ検討したい」は公立中学校、私立小学校、私立中学校の順で多い。



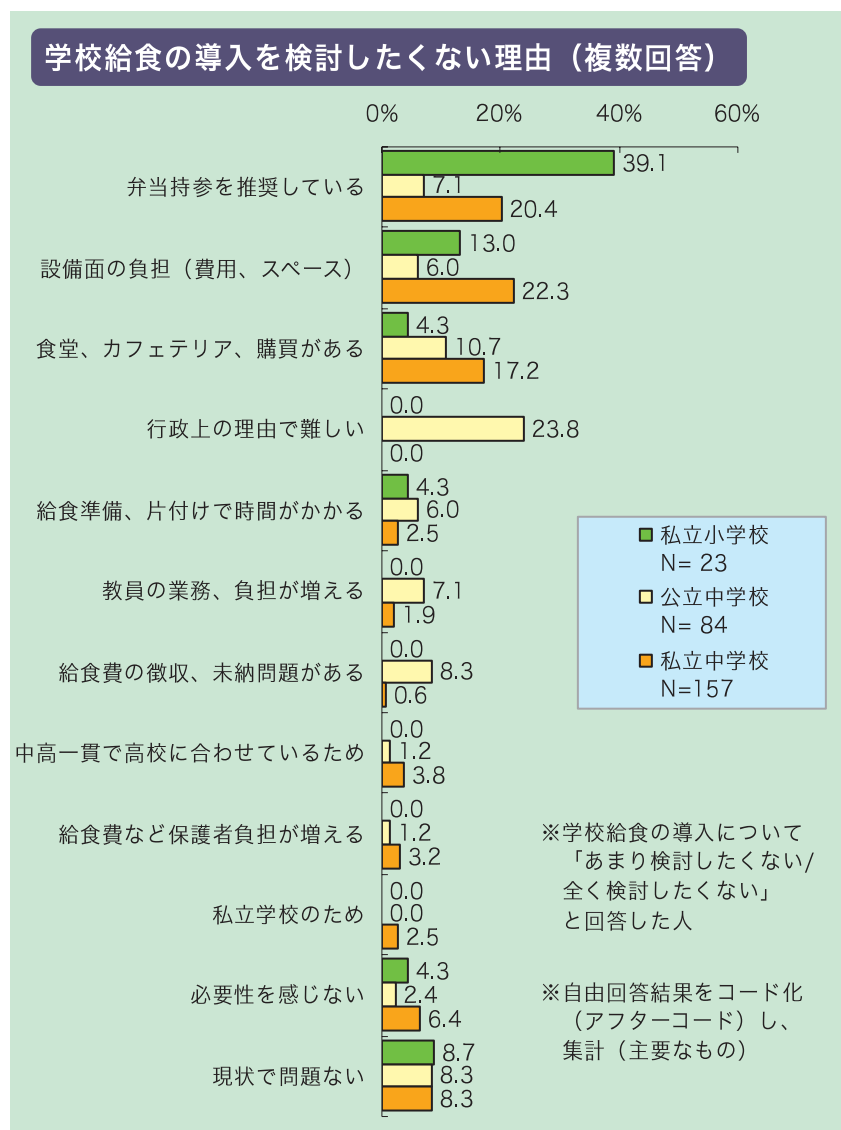
#### (4) 学校給食の導入を検討したくない理由 (Q1SQ2-③-SQ)

- ・学校給食の導入を検討したくない理由を見ると（※自由回答結果をアフターコードし集計）、「弁当持参を推奨している」17.6%、「設備面の負担（費用、スペース）」16.2%、「食堂、カフェテリア、購買がある」14.0%との理由が多く、次いで「行政上の理由で難しい」7.4%である。
- ・その他の理由としては「給食準備、片づけで時間がかかる」3.7%、「教員の業務、負担が増える」3.3%など、授業時間などに影響することや、教員の負担が増加することなどの理由が見られる。





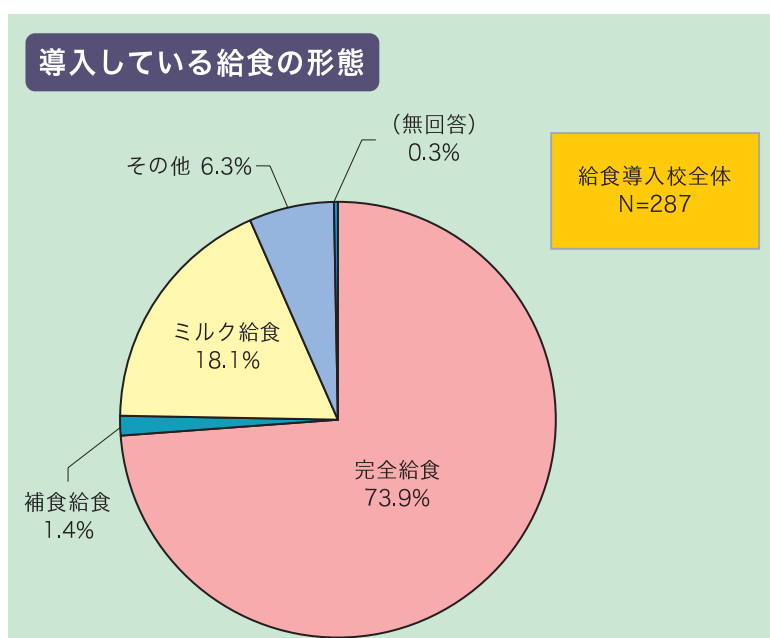
- ・学校種類別に比較すると、私立小学校は「弁当持参を推奨している」が39.1%と多い。公立中学校は「行政上の理由で難しい」が多く23.8%。私立中学校は「設備面の負担（費用、スペース）」22.3%、「食堂、カフェテリア、購買がある」17.2%が多い。



## 2. 学校給食導入校の実態

### (1) 導入している学校給食の形態（Q1SQ1-①）

- ・学校給食導入校の給食形態の種類を見ると、「完全給食」が最も多く 73.9%。次いで「ミルク給食」18.1%、「補食給食」1.4%、「その他」6.3%であった。
- ・「その他」の具体的回答内容としては、「希望者のみに実施」「週に何回か実施」「ランチプレートを提供」などの回答が見られ、主に私立の小・中学校に多い。



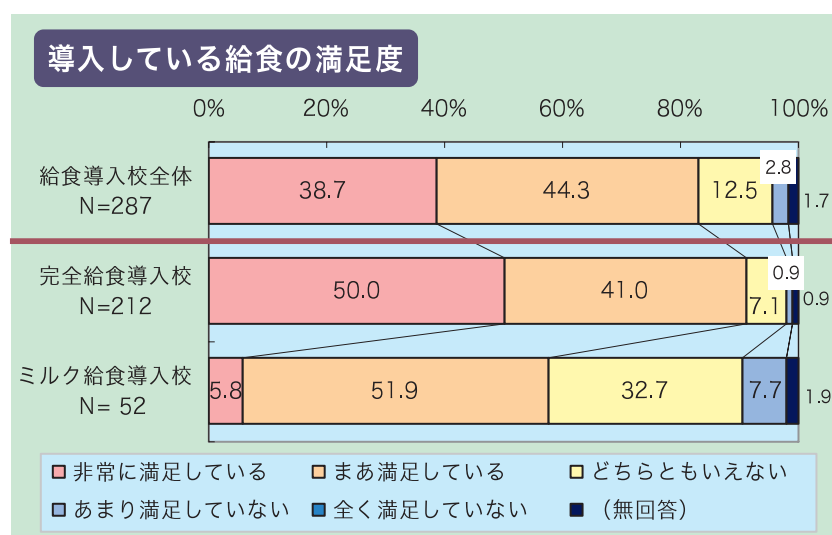
### <その他の回答内容>

| SNO | その他の具体的回答内容（無回答除く）                     | 都道府県 | 学校区分 | 設立区分 |
|-----|----------------------------------------|------|------|------|
| 343 | おかずとごはん希望制。                            | 京都府  | 中学   | 公立   |
| 543 | スクールランチ                                | 滋賀県  | 中学   | 公立   |
| 686 | 学校法人と密接に関係する法人が食堂で全生徒、職員が食べる。          | 京都府  | 両方   | 私立   |
| 714 | 完全給食であるが、飲用の牛乳は外している。                  | 福岡県  | 小学   | 私立   |
| 288 | 希望による弁当制。                              | 兵庫県  | 中学   | 公立   |
| 552 | 希望給食                                   | 茨城県  | 中学   | 私立   |
| 383 | 希望者のみ。                                 | 兵庫県  | 中学   | 公立   |
| 174 | 希望者のみ実施。                               | 大阪府  | 中学   | 公立   |
| 728 | 希望生徒へ、業者のランチプレートを準備している。（ミルクなし。）       | 茨城県  | 中学   | 私立   |
| 1   | 給食は月金のみ、牛乳を月水金、ヨーグルト火木土と毎日飲む。          | 東京都  | 小学   | 私立   |
| 155 | 月・水・金のみ給食。                             | 三重県  | 小学   | 私立   |
| 372 | 週1回。                                   | 奈良県  | 小学   | 私立   |
| 291 | 週2日給食                                  | 東京都  | 小学   | 私立   |
| 627 | 週3回の完全給食。                              | 東京都  | 中学   | 私立   |
| 352 | 中1のみ完全給食。                              | 東京都  | 中学   | 私立   |
| 497 | 中学1、2年生に週1回食育を実施。その際に200mlの牛乳を1本付けている。 | 東京都  | 中学   | 私立   |
| 339 | 寮は完全給食、通学生は補食給食。                       | 千葉県  | 中学   | 私立   |

※その他回答者 N=17（無回答1名除く）

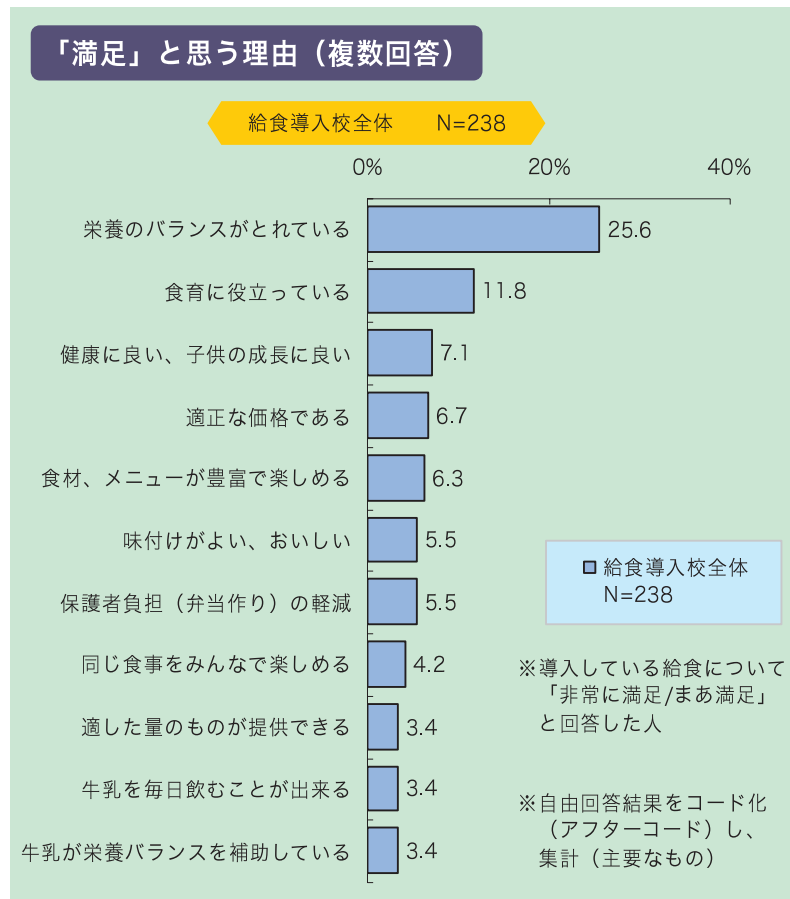
## (2) 学校給食導入についての満足度 (Q1SQ1-②)

- ・学校給食導入の満足度を見ると、給食導入校全体では「非常に満足している」38.7%、「まあ満足している」44.3%で、合わせて83.0%に達し、満足度は高い。
- ・『完全給食導入校』と『ミルク給食導入校』を比較すると、『完全給食導入校』は「非常に満足/まあ満足」の合計が91.0%と高いのに対し、『ミルク給食導入校』では57.7%と低く、特に「非常に満足している」が5.8%にとどまっている。

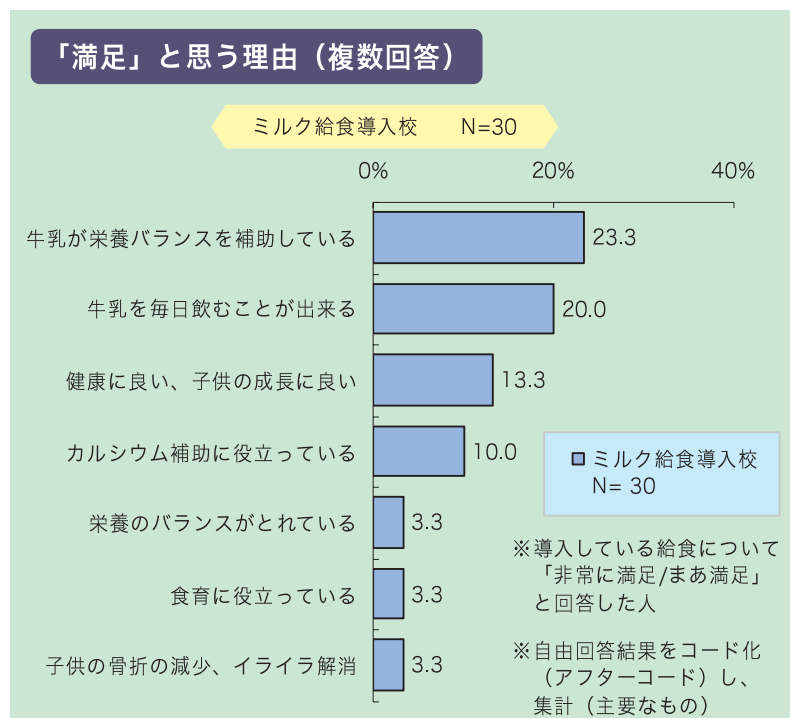
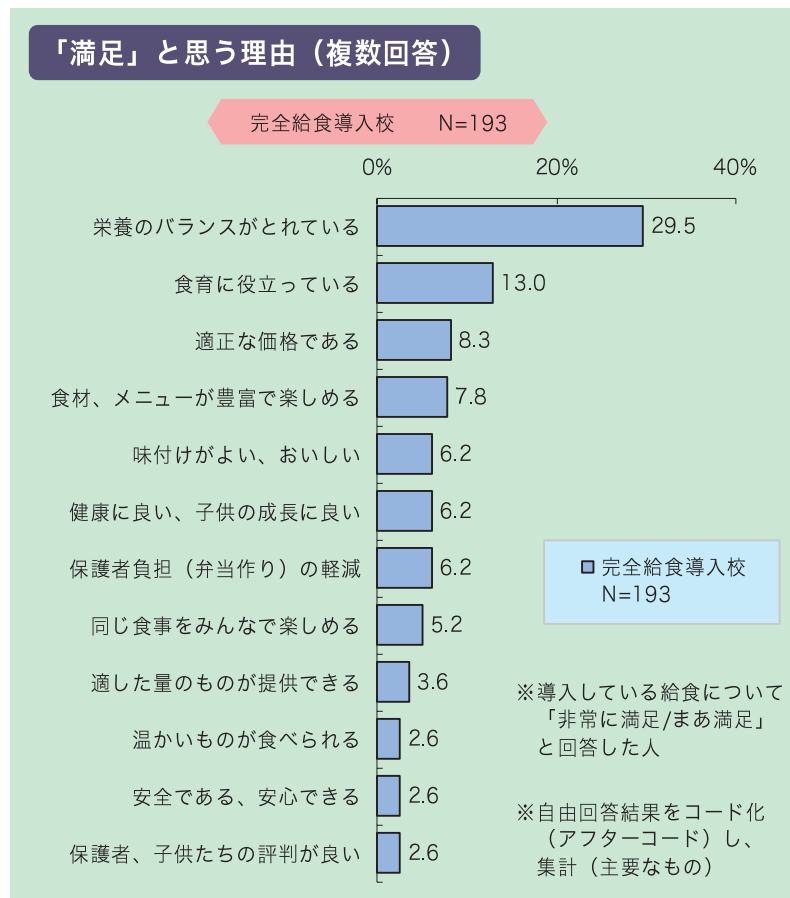


### (3) 学校給食導入に「満足している」理由 (Q1SQ1-②-SQ)

- ・導入している給食について、『満足している理由』の自由回答結果を見ると（アフターコードし、集計）、  
「栄養のバランスがとれている」が最も多く 25.6%。次いで「食育に役立っている」11.8%、「健康に  
良い、子供の成長に良い」7.1%、「適正な価格である」6.7%、「食材、メニューが豊富で楽しめる」6.3%  
などが主な理由で、“栄養バランスが良く、子供の健康・成長に良いこと”、“食育に役立つこと”が  
満足につながっている。



- ・次に『完全給食導入校』と『ミルク給食導入校』を比較すると、『ミルク給食導入校』は「牛乳が栄養バランスを補助している」23.3%、「牛乳を毎日飲むことが出来る」20.0%が1位、2位を占め、牛乳の“栄養補助”の側面が高く評価され、それを習慣として飲用できることが満足につながっている。



#### (4) ミルク給食導入校の「どちらともいえない/あまり満足していない」理由 (Q1SQ1-②-SQ)

- ・『完全給食導入校』に比べ、『ミルク給食導入校』の方が満足度の低い理由を見るために、「どちらともいえない/あまり満足していない」と回答した人の自由回答結果を見ると、『アレルギーで牛乳を飲めない生徒がいる』、『牛乳の飲み残しが多い（特に冬場）』などの理由が多く、また『牛乳パックリサイクルに手間がかかる』などの意見も見られる。

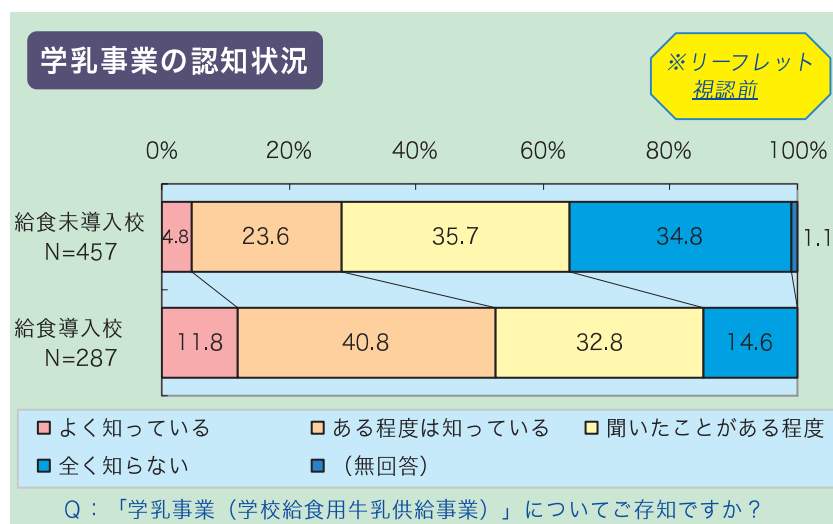
| SNO | 導入給食の満足度   | その理由（無回答は除く）                                                                              |
|-----|------------|-------------------------------------------------------------------------------------------|
| 3   | どちらともいえない  | アレルギーにより、牛乳を飲めない生徒が多いため。                                                                  |
| 160 | どちらともいえない  | 学校給食といっても牛乳のみで、主にお弁当持参なので。                                                                |
| 188 | どちらともいえない  | 現在はミルク給食であるが、H22年度より完全給食に移行するので、現状の給食については③を選ぶことにした。                                      |
| 321 | どちらともいえない  | 冬場になると、牛乳を飲まない生徒がいくらかいるため。                                                                |
| 325 | どちらともいえない  | 冬季の牛乳飲用について、飲まない生徒が多い。                                                                    |
| 356 | どちらともいえない  | 弁当持参のため、パンを毎日食べている子どもにとっては、給食のほうがバランスがしっかりとれると思う。一方で、母親のお弁当が、中学生期の子どもたちにとっては、最高の愛情表現だと思う。 |
| 430 | どちらともいえない  | 昼食時に生徒の「団らん」を作る上で必要です（本校は食堂もあるので）。ただし、牛乳パックをリサイクルするために展開して洗わせるなど手間もかかっています。               |
| 498 | どちらともいえない  | 今は満足しているが、来年度から牛乳パックを回収（そのまま）していただけないことが気がかり。学校で、パックを開いて洗うという作業をさせるのが難しそうである。             |
| 515 | どちらともいえない  | アレルギー等、飲まない、飲めない生徒が増えている。                                                                 |
| 518 | どちらともいえない  | 但し、希望者のみの購入のため実際は給食として扱ってません。                                                             |
| 617 | どちらともいえない  | 給食（完全）を望むが、経費負担が大きい。でも、栄養のバランス面から見ると、完全給食が良いと思う。                                          |
| 739 | どちらともいえない  | 将来的に完全給食も導入したいと思っているが、近年アレルギー児童が増えてきて、その対応も心配である。                                         |
| 5   | あまり満足していない | 完全給食が望ましいが、十分時間がとれない。                                                                     |
| 47  | あまり満足していない | 完全給食が望ましい。                                                                                |
| 166 | あまり満足していない | 在校生の数が少ない為に、完全給食を実施できない為。                                                                 |
| 504 | あまり満足していない | 指導の側にも課題があるかもしれないが、残す、あるいは飲まない児童がたいへん多い。アレルギー体質の児童には別途対応しているのでアンケートの対象外である。               |

※学校給食の導入について「どちらともいえない/あまり満足していない」と回答した人  
(16名：無回答の5名を除く)

### 3. リーフレット視認前段階での学乳事業等の認知状況

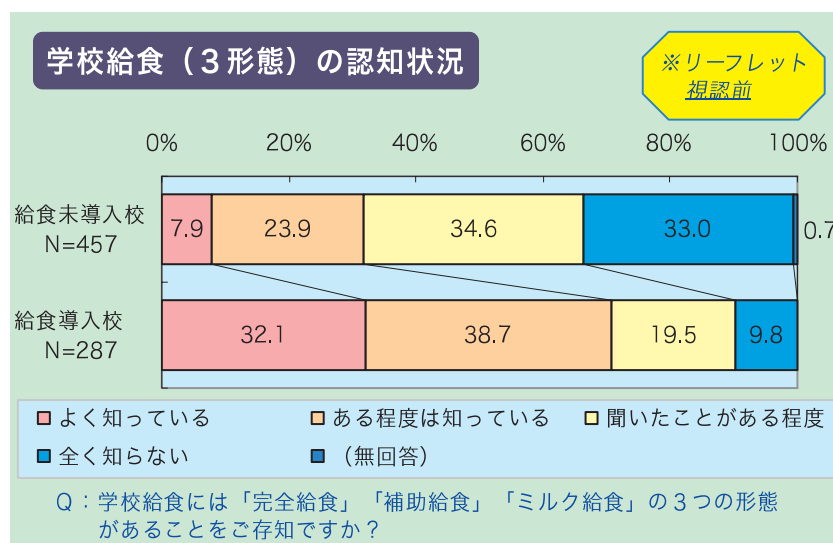
#### (1) 学乳事業の認知率 (Q2-①)

- ・リーフレットを視認する前段階での学乳事業の認知率を見ると、「よく知っている/ある程度は知っている」の合計値は『給食導入校』52.6%に対し、『給食未導入校』は28.4%にとどまっている。
- ・そして、『給食未導入校』は「全く知らない」が34.8%に達し、3人に1人は学乳事業を全く認知していない。



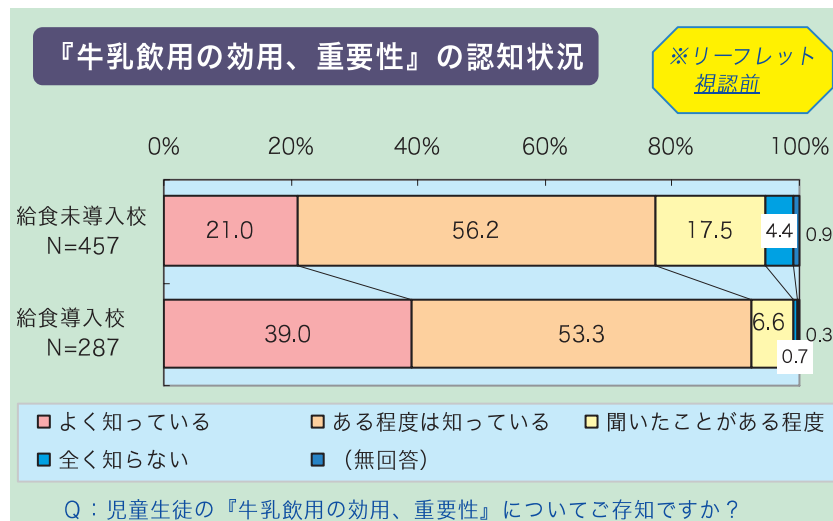
#### (2) 「学校給食に3形態があること」の認知率 (Q2-②)

- ・「学校給食に3形態があること」の認知率を見ると、「よく知っている/ある程度は知っている」の合計値は『給食導入校』70.8%に対し、『給食未導入校』は31.8%である。
- ・そして、『給食未導入校』は「全く知らない」が33.0%に達し、前項同様、3人に1人は「学校給食に3形態があること」を全く認知していない。



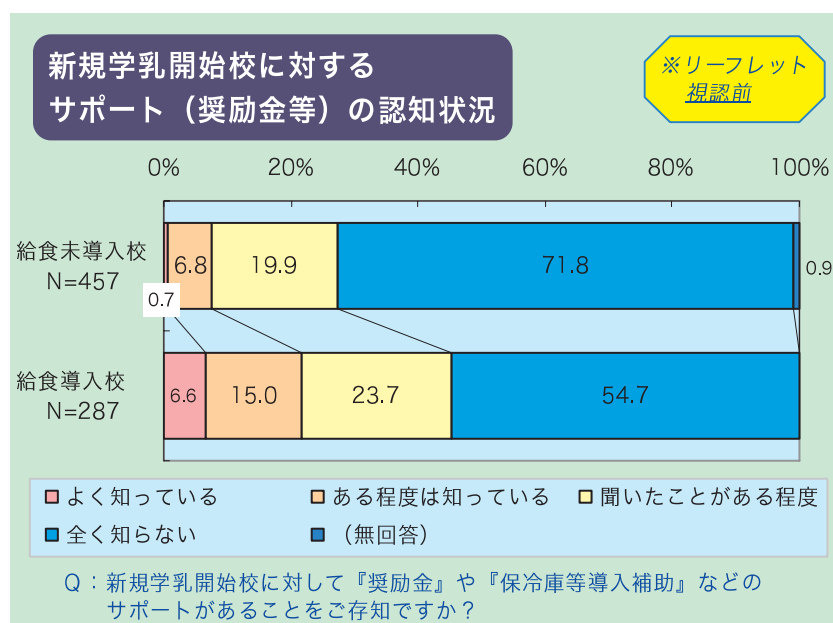
### (3) 「牛乳飲用の効用、重要性」の認知率 (Q2-③)

- ・「牛乳飲用の効用、重要性」の認知率を見ると、「よく知っている/ある程度は知っている」の合計値は『給食導入校』92.3%に対し、『給食未導入校』は77.2%である。前項と比べ認知率は高いものの、『給食未導入校』の約2割が「牛乳飲用の効用、重要性」について「聞いたことがある程度/全く知らない」と回答している。



### (4) 「新規学乳開始校に対するサポート（奨励金等）」の認知率 (Q2-④)

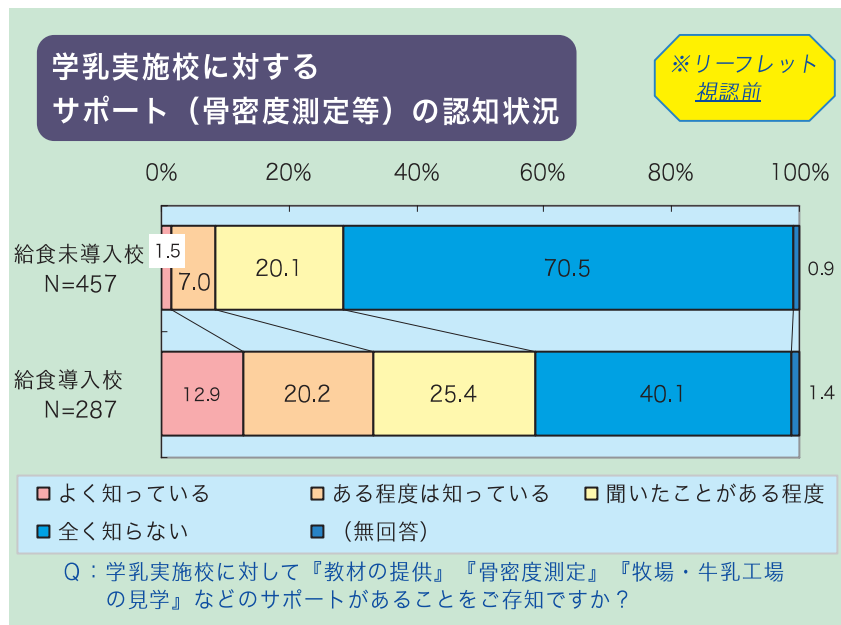
- ・「新規学乳開始校に対するサポート（奨励金等）」の認知率を見ると、「よく知っている/ある程度は知っている」の合計値は『給食導入校』21.6%に対し、『給食未導入校』はわずか7.5%である。
- ・そして、『給食未導入校』は「全く知らない」が71.8%に達し、本来は最も情報が浸透すべき『給食未導入校』に情報が伝わっていない現状が示されている。





## (5) 「学乳実施校に対するサポート（骨密度測定等）」の認知率（Q2-⑤）

- ・「学乳実施校に対するサポート（骨密度測定等）」の認知率を見ると、「よく知っている/ある程度は知っている」の合計値は『給食導入校』33.1%に対し、『給食未導入校』は8.5%である。
- ・また、「全く知らない」は『給食導入校』40.1%に対し、『給食未導入校』は70.5%である。  
『給食未導入校』だけでなく、『給食導入校』も認知率が低い。



## 4. リーフレット視認後の学乳事業等の関心度

- ・同封したリーフレットを視認していただき、その内容についての関心度をたずねた。説明の要旨は以下の通りである。

＜表面：牛乳飲用の大切さについて＞

- ①成長に伴う骨量の変化をグラフで示し、特に10代で骨量を増やすことが重要であること
- ②牛乳はカルシウム含有量、吸収のしやすさで優れていること
- ③牛乳はカルシウムだけでなく「炭水化物」「たんぱく質」「脂肪」「ビタミン」「ミネラル」をバランスよく含んだ補助食品であること

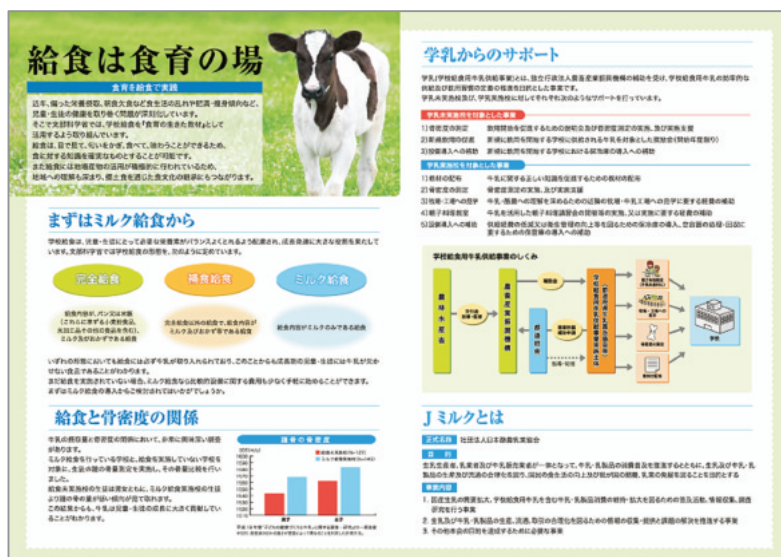
＜裏面：給食の重要性と、学乳事業のサポートについて＞

- ④食育の場としての給食の重要性
- ⑤給食の3形態の説明、およびミルク給食の勧め
- ⑥ミルク給食実施校と給食未実施校の骨密度比較
- ⑦学乳の仕組みとサポート（学乳未実施校対象のサポート事業/学乳実施校対象のサポート事業）



← 表面

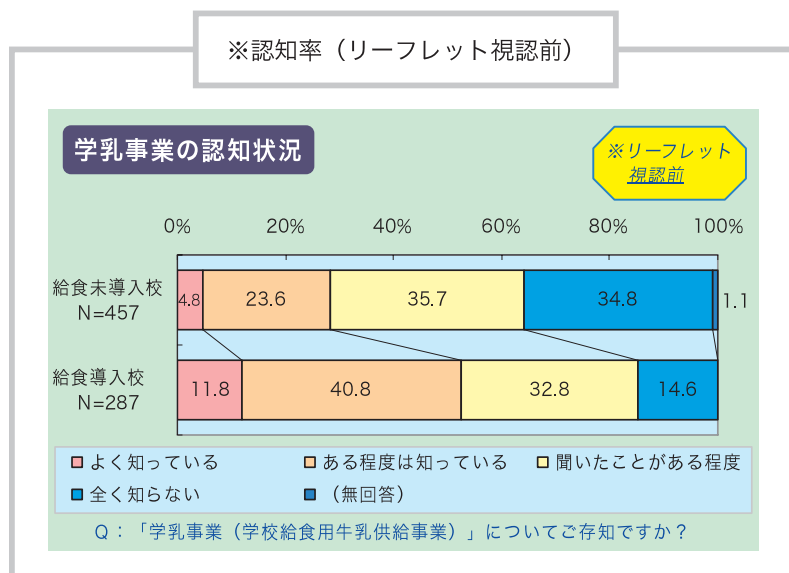
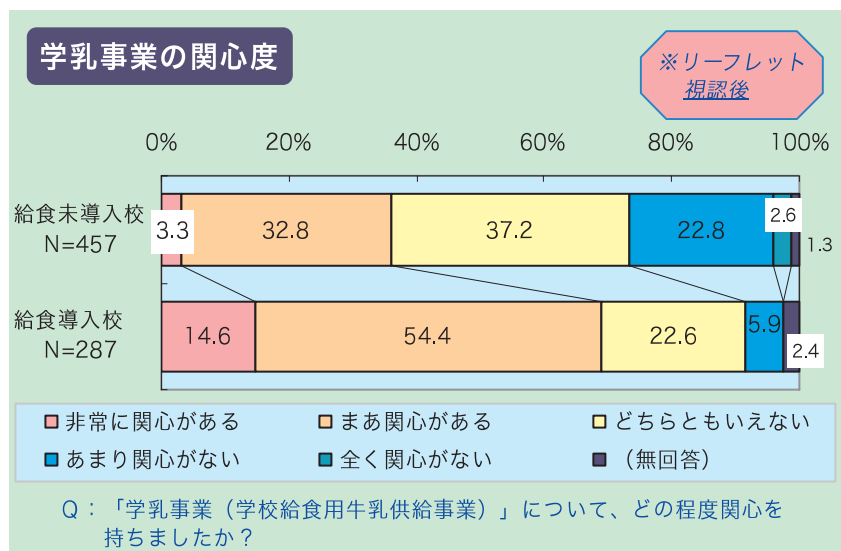
裏面→



※詳細は（付-2）の資料参照

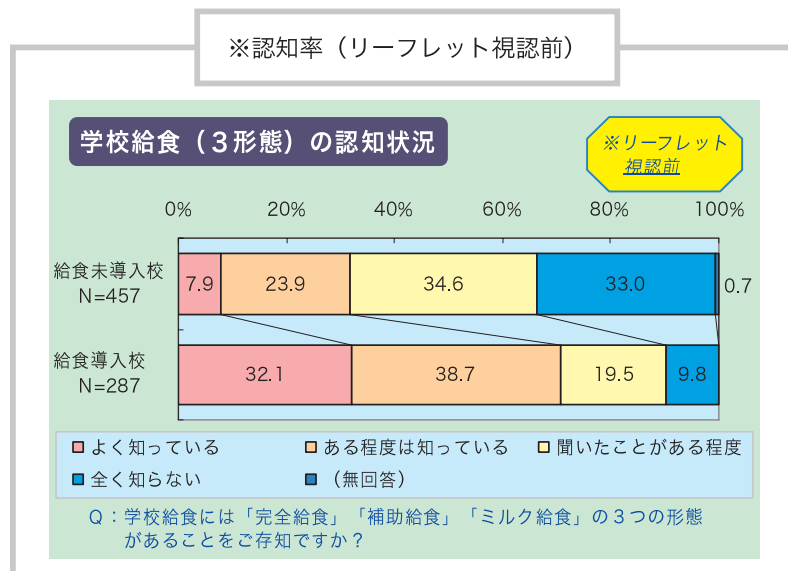
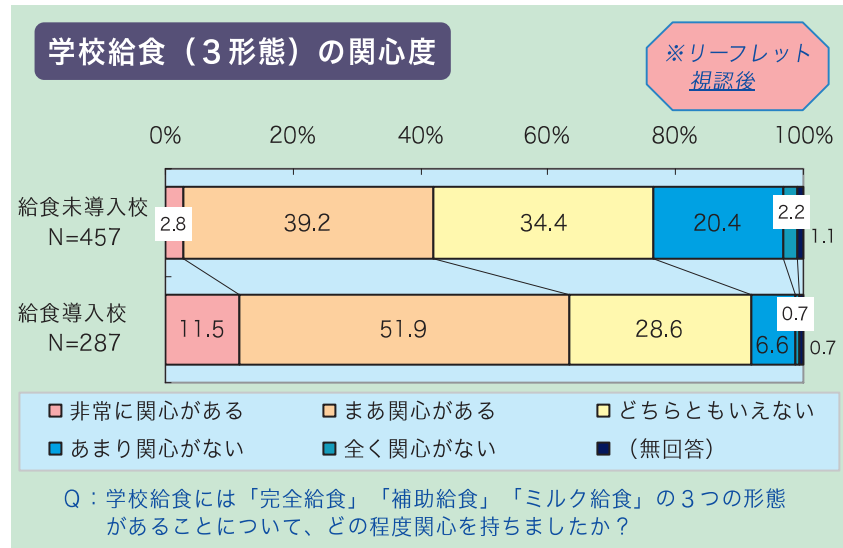
## (1) 学乳事業（学校給食用牛乳供給事業）についての関心度（Q3）

- ・学乳事業に対する関心度（非常に興味がある/まあ興味がある：合計値）は『給食導入校』69.0%に対し、『給食未導入校』は36.1%である。
- ・『給食未導入校』のリーフレット視認前の認知率（よく知っている/ある程度は知っている：合計値）は28.4%で、やや関心度の方が高い数値となっている。



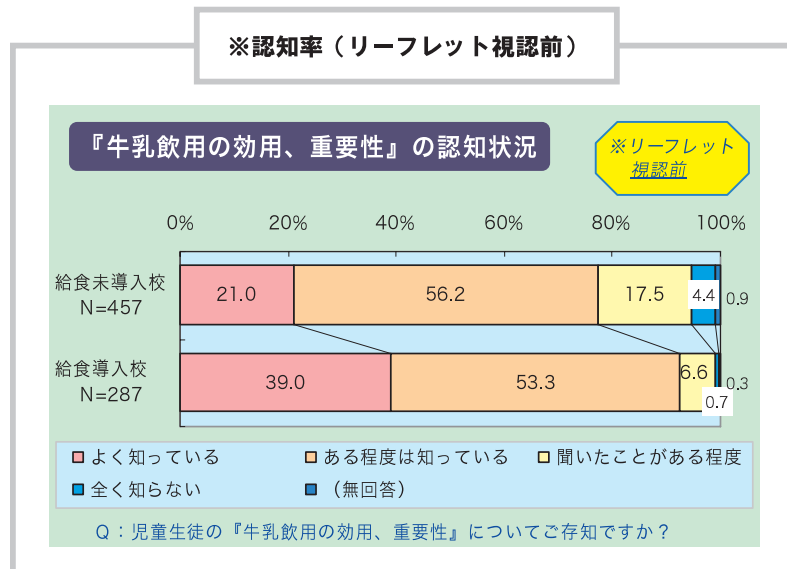
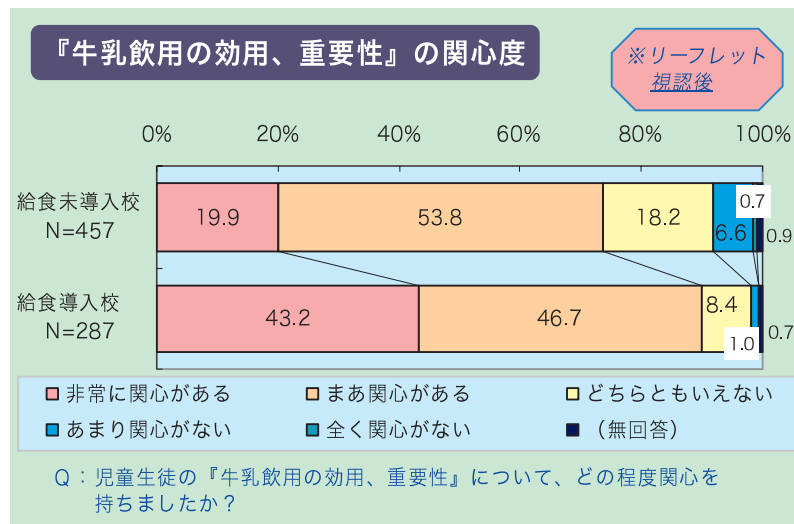
## (2) 「学校給食に3形態があること」についての関心度 (Q4)

- ・「学校給食に3形態があること」についての関心度（非常に関心がある/まあ関心がある：合計値）は『給食導入校』63.4%に対し、『給食未導入校』は42.0%である。
- ・『給食未導入校』のリーフレット視認前の認知率（よく知っている/ある程度は知っている：合計値）は31.8%で、関心度の方が高い。



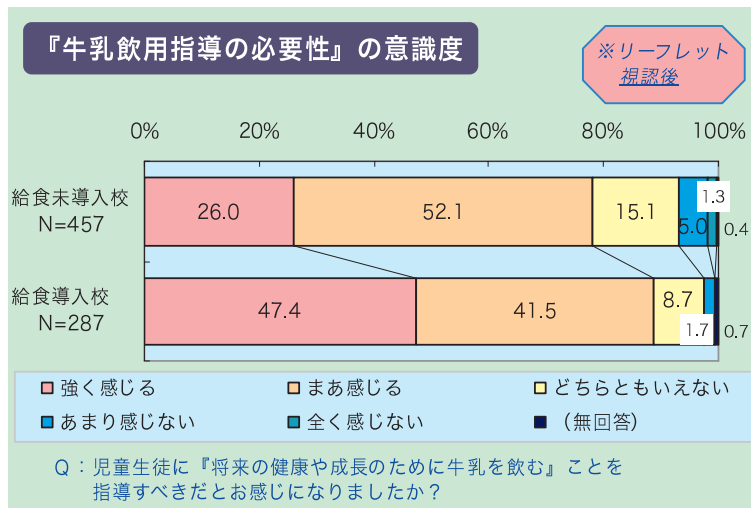
### (3) 「牛乳飲用の効用、重要性」についての関心度 (Q5)

- ・「牛乳飲用の効用、重要性」についての関心度（非常に関心がある/まあ関心がある：合計値）は『給食導入校』89.9%に対し、『給食未導入校』は73.7%で、『給食未導入校』の4人に3人は関心を持っている。
- ・『給食未導入校』のリーフレット視認前の認知率（よく知っている/ある程度は知っている：合計値）は77.2%で、認知率と関心度に大きな差はない。



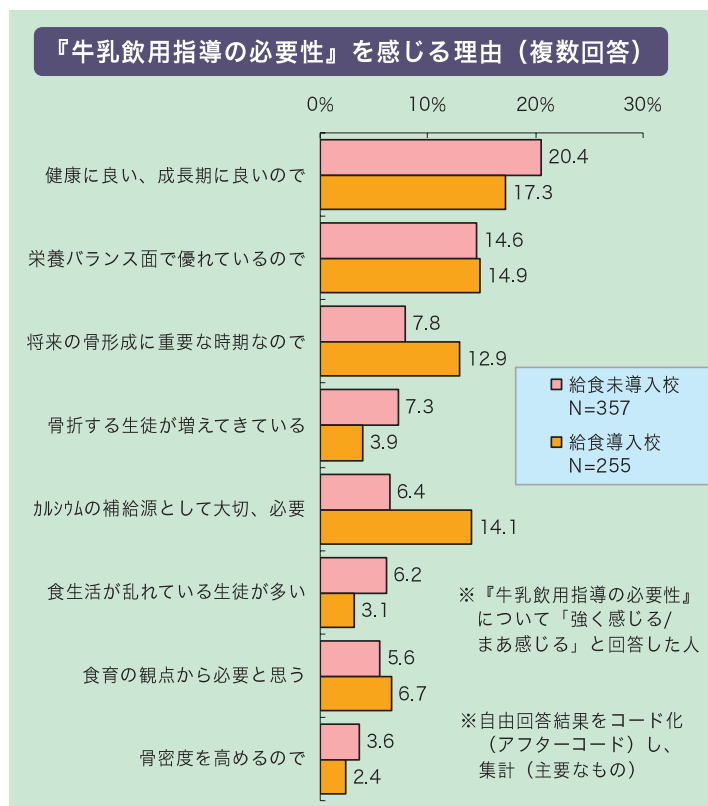
#### (4) 「牛乳飲用指導の必要性」の意識度 (Q6)

- ・「牛乳飲用指導の必要性」について「強く感じる/まあ感じる」と回答した人は『給食導入校』88.9%に対し、『給食未導入校』は 78.1%で、『給食導入校』だけでなく『給食未導入校』も、その多くは「牛乳飲用指導の必要性」を感じている。



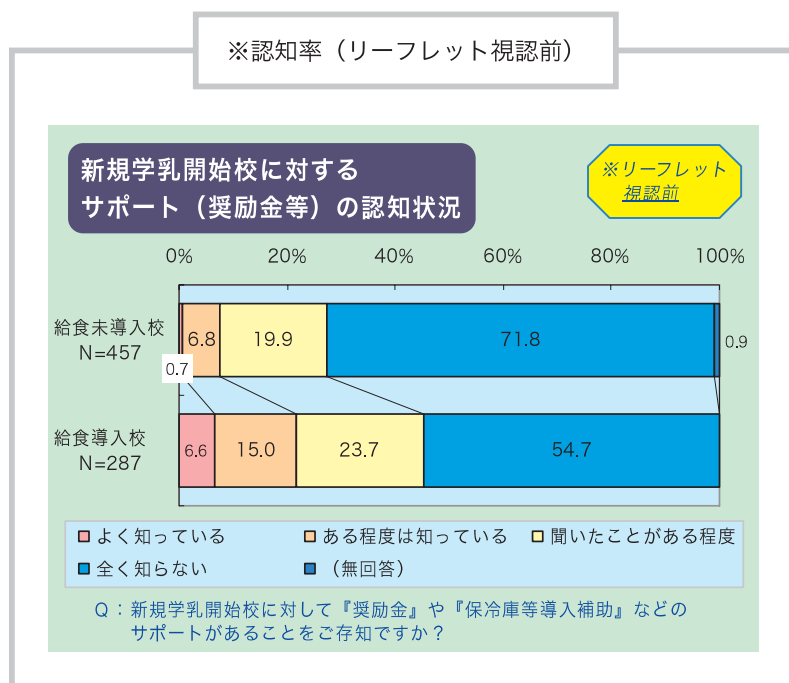
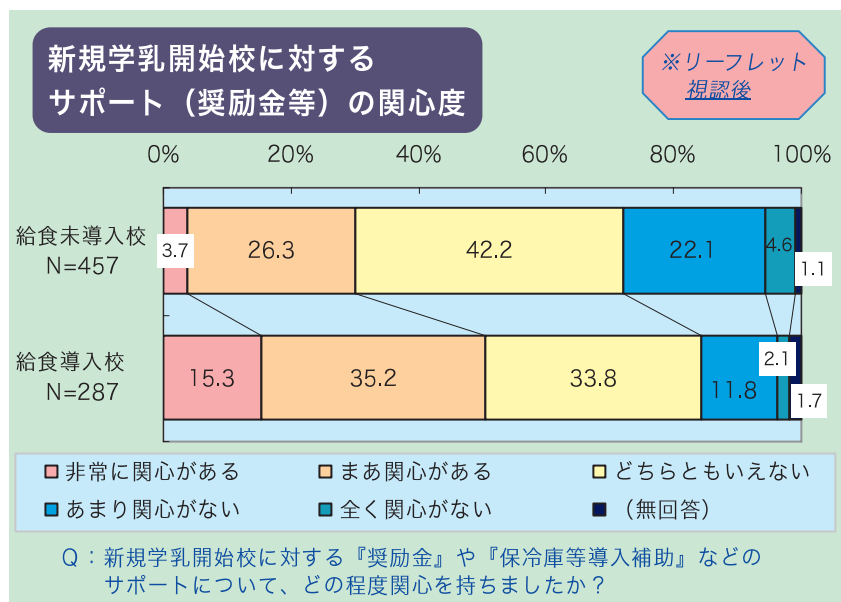
#### (5) 「牛乳飲用指導の必要性」を感じる理由 (Q6-SQ)

- ・「牛乳飲用指導の必要性」について「強く感じる/まあ感じる」と回答した人の理由を見ると（自由回答結果をアフターコードし集計）、『給食未導入校』、『給食導入校』共に「健康に良い、成長期に良いので」「栄養バランス面で優れているので」が1位、2位である。
- ・『給食導入校』に比べ、『給食未導入校』に多い理由は「骨折する生徒が増えてきている」、「食生活が乱れている生徒が多い」で、教育現場でそのように感じる人が『給食未導入校』の方が多くいられる。



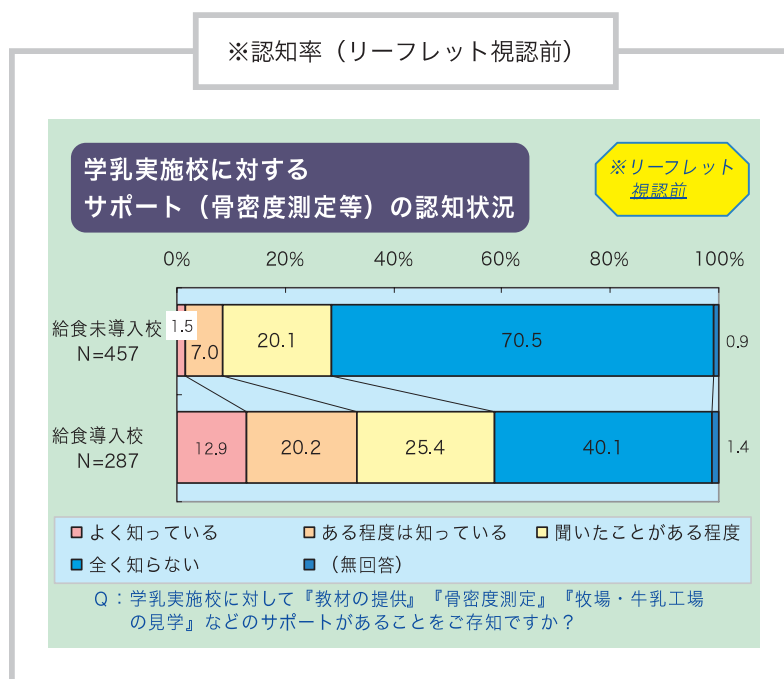
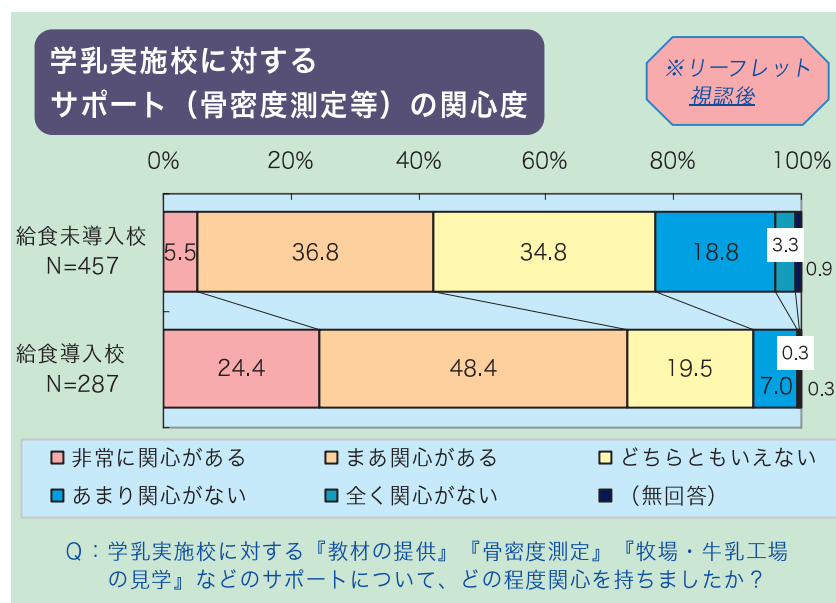
## (6) 「新規学乳開始校に対するサポート（奨励金等）」についての関心度（Q7）

- ・「新規学乳開始校に対するサポート（奨励金等）」についての関心度（非常に関心がある/まあ関心がある：合計値）は『給食導入校』50.5%に対し、『給食未導入校』は30.0%である。
- ・『給食未導入校』のリーフレット視認前の認知率（よく知っている/ある程度は知っている：合計値）は7.5%で、それに比べると関心度の方が大幅に高い。



## (7) 「学乳実施校に対するサポート（骨密度測定等）」についての関心度（Q8）

- ・「学乳実施校に対するサポート（骨密度測定等）」についての関心度（非常に関心がある/まあ関心がある：合計値）は『給食導入校』72.8%に対し、『給食未導入校』は42.3%である。
- ・『給食未導入校』のリーフレット視認前の認知率（よく知っている/ある程度は知っている：合計値）は8.5%で、それに比べると関心度の方が大幅に高い。
- ・なお、既に学乳を実施している『給食導入校』の関心度も高く、リーフレット視認前の認知率が33.1%と低いことを考えると、『給食導入校』に対し、より一層の情報提供が必要と思われる。

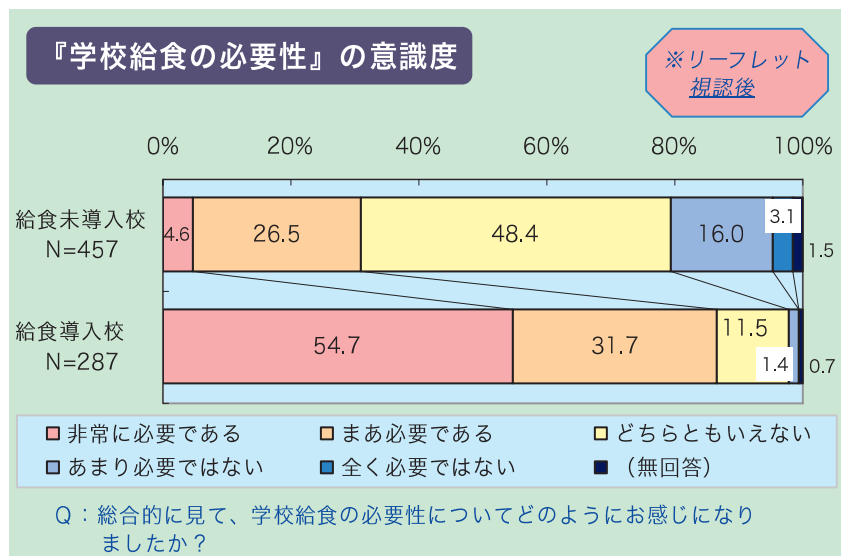




## 5. 学校給食の必要性、導入についての意識（リーフレット視認後）

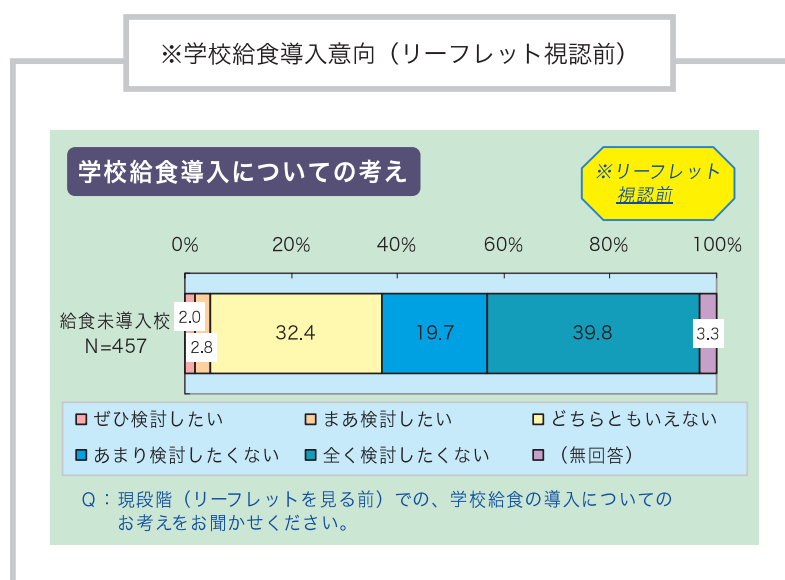
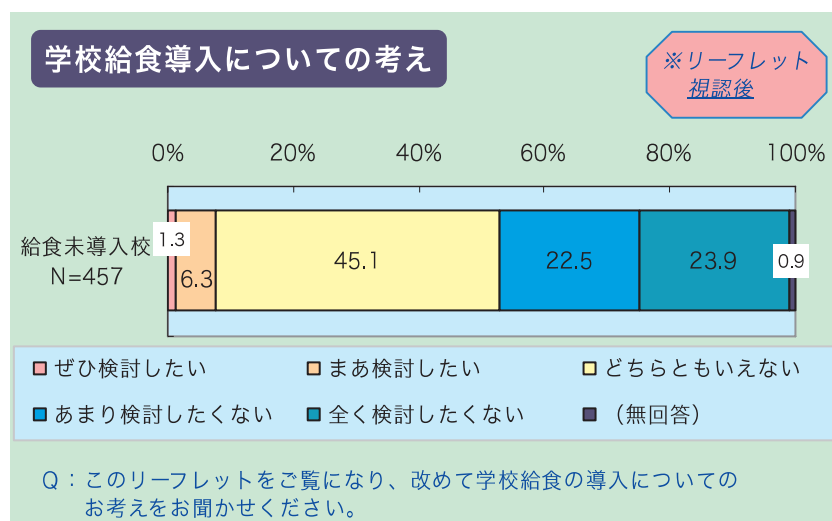
### （1）学校給食の必要性の意識度（Q9）

- ・総合的評価として『学校給食の必要性』をたずねた結果を見ると、『給食未導入校』の最も多い回答は「どちらともいえない」で48.4%と約半数にのぼる。残りの「非常に必要である/まあ必要である」の合計値と「あまり必要ではない/全く必要ではない」の合計値を比較すると、前者は31.1%、後者は19.1%で、必要と感じている人の方が多い。
- ・なお、『給食導入校』の場合は「非常に必要である/まあ必要である」の合計値が86.4%に達している。



## (2) リーフレット視認後の学校給食導入意向 (Q10)

- ・次に『給食未導入校』にリーフレットを視認した後の『学校給食の導入意向』をたずねた結果を見ると、積極的に「ぜひ検討したい/まあ検討したい」と回答した人は合わせて 7.6%。「どちらともいえない」45.1%、「あまり検討したくない/全く検討したくない」46.4%である。
- ・これをリーフレット視認前にたずねた結果と比較すると、「ぜひ検討したい/まあ検討したい」は+2.8ポイントの上昇、「どちらともいえない」が+12.7ポイント、「あまり検討したくない/全く検討したくない」は-13.1ポイントの減少で、総合的には学校用給食供給事業の仕組みや、展開しているサポート事業などの情報を認知してもらい、それによって関心が高まることで学校給食導入意向が上昇する可能性が示されている。



### (3) 学校給食導入意向理由 (Q10-SQ1)

#### ① 「ぜひ検討したい/まあ検討したい」と回答した理由

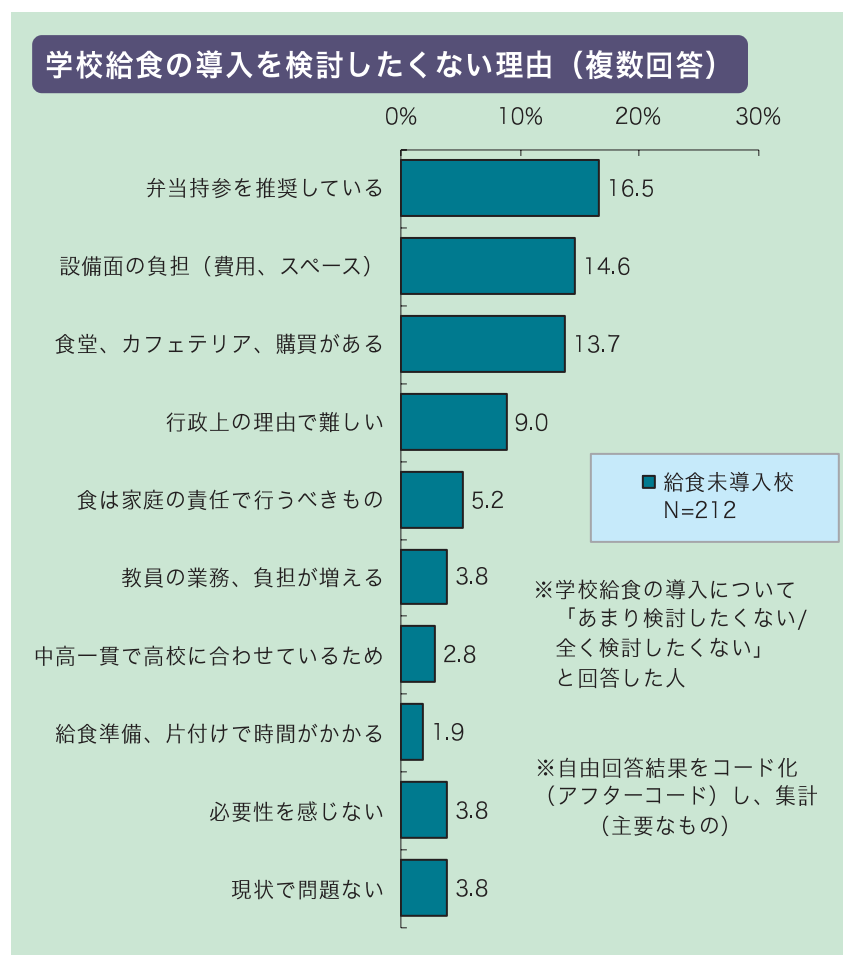
- ・リーフレットを視認した後の『学校給食の導入意向』で、積極的に「ぜひ検討したい/まあ検討したい」と回答した理由を見ると、「食育面から重要」、「子供の成長、栄養バランス面で重要」、「牛乳を飲むことは必要」、「ミルク給食なら導入が容易」、「母親の負担の軽減」などの意見が見られる。

| SNO | 給食導入意向<br>(リーフレット視認後) | その理由 ※無回答は除く                                                      |
|-----|-----------------------|-------------------------------------------------------------------|
| 533 | ぜひ検討したい               | 食育について考えていきたい。保護者の負担を軽減したい。ただし、アレルギーの問題があり、お弁当とせざるをえない子どもが複数あります。 |
| 494 | ぜひ検討したい               | 学校給食でのみバランスのとれた食事をとることができる子ども達がけっこういるため。                          |
| 487 | ぜひ検討したい               | 学校現場から行政に対して強く要望していきたい。                                           |
| 200 | ぜひ検討したい               | 市の政策として給食の完全実施がH24年度より始まる予定のため。                                   |
| 228 | ぜひ検討したい               | 昼食のみで栄養を取っている生徒もいる現実がある。                                          |
| 692 | ぜひ検討したい               | すでに来年度から完全給食の実施が決まっているから。                                         |
| 495 | まあ検討したい               | もっと牛乳について詳しく勉強し提案していきたい。                                          |
| 733 | まあ検討したい               | 学校給食は必要だと思うから。                                                    |
| 274 | まあ検討したい               | 近い将来学校給食をとり入れた学校経営を考えているから。                                       |
| 189 | まあ検討したい               | 現在導入を検討しているがむずかしい事も多い。アレルギー、費用、設備等。                               |
| 231 | まあ検討したい               | カルシウム等の補足。                                                        |
| 315 | まあ検討したい               | しかし、行政サイドの問題が大きいと考える。                                             |
| 196 | まあ検討したい               | とにかく、前述の理由（極小規模の学校）で、存続そのものに関心のほとんどがいているから。                       |
| 611 | まあ検討したい               | 栄養面と家庭の格差の是正のため。                                                  |
| 308 | まあ検討したい               | 学校給食が導入される予定だから。                                                  |
| 561 | まあ検討したい               | 今のままで。                                                            |
| 24  | まあ検討したい               | 子どもの成長を考えると、とても大切なことだと思うから。                                       |
| 392 | まあ検討したい               | 市の現状として、「完全給食」は困難だが、子どもたちの食育の一貫として考えてみたい。                         |
| 190 | まあ検討したい               | 集中して授業を受けるための、体の準備として必要。（朝食も不安定な生徒が多い。）                           |
| 180 | まあ検討したい               | 中学生にとって毎日、牛乳をのむことは大切である。                                          |
| 76  | まあ検討したい               | 必要性は感じるが1校ではどうにもならない。                                             |
| 313 | まあ検討したい               | 本校でも食育については重要と考えているので。                                            |
| 130 | まあ検討したい               | 「ミルク給食」ならば、実施が容易だから。                                              |
| 411 | まあ検討したい               | 10年程前に、缶、ペットボトル自販機を導入してから、牛乳購入者が減っているため。                          |
| 73  | まあ検討したい               | バランスの良い食事をさせたい為。                                                  |
| 657 | まあ検討したい               | ミルク給食という方法がある事を知ったから。                                             |
| 605 | まあ検討したい               | 栄養の偏りを防ぐ。母親の労力の軽減。                                                |
| 538 | まあ検討したい               | 検討したことがあります。しかし、費用の問題で実施には至っていません。                                |
| 595 | まあ検討したい               | 現在ミルク給食について、2010年度中学において実施する事を決定している。                             |
| 545 | まあ検討したい               | 食育は大きな問題であると考えている。                                                |
| 546 | まあ検討したい               | 設備面での条件が満たされ保護者の同意が得られれば導入も可能だから。                                 |

※学校給食の導入について「ぜひ検討したい/まあ検討したい」と回答した人（31名：無回答の4名を除く）

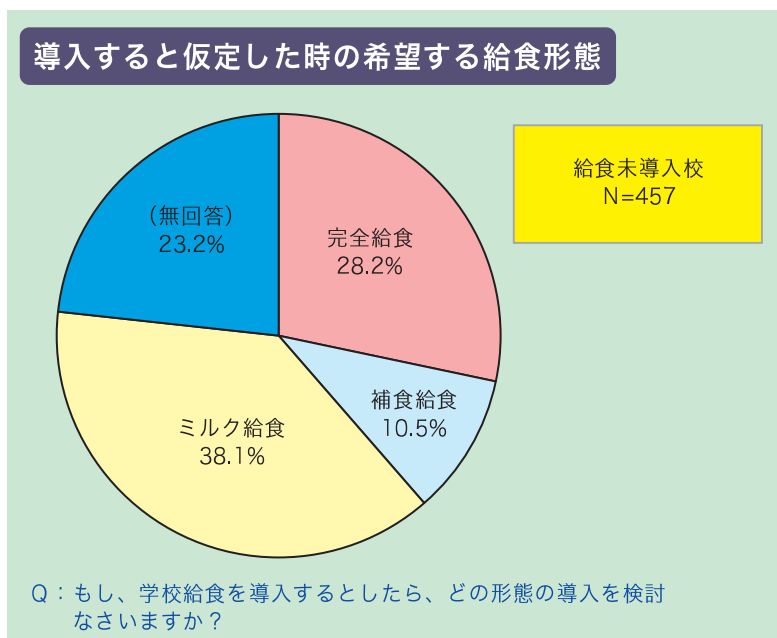
## ② 「あまり検討したくない/全く検討したくない」と回答した理由

- ・次に「あまり検討したくない/全く検討したくない」と回答した理由を見ると（自由回答結果をアフターコードし、集計）、「弁当持参を推奨している」16.5%、「設備面の負担（費用、スペース）」14.6%、「食堂、カフェテリア、購買がある」13.7%、「行政上の理由で難しい」9.0%が主なものである。

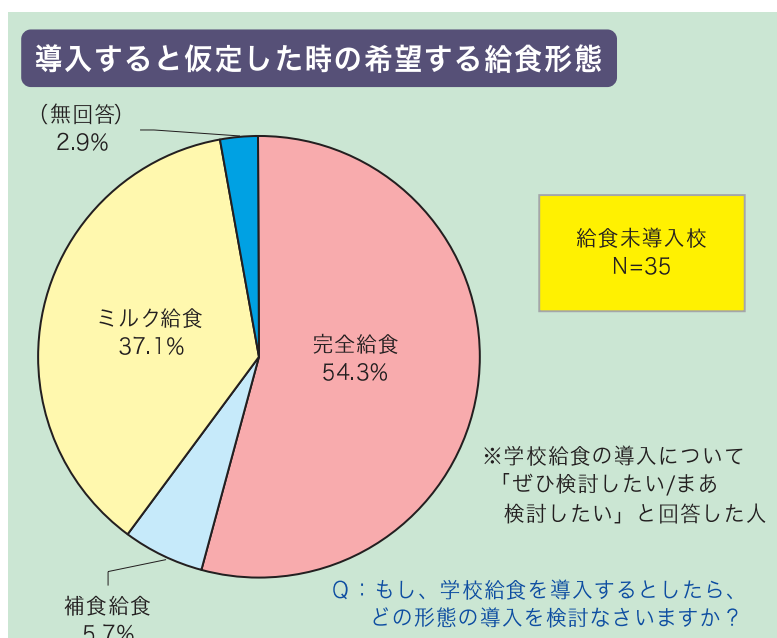


#### (4) 「学校給食を導入する」と仮定した場合の希望する給食形態 (Q10-SQ2)

- ・「学校給食を導入する」と仮定した場合の希望する給食形態を見ると、給食未導入校全体では「完全給食」28.2%、「補食給食」10.5%、「ミルク給食」38.1%、「無回答」23.2%である。



- ・次に『ぜひ検討したい/まあ検討したい』と回答した人に限定すると、「完全給食」54.3%、「補食給食」5.7%、「ミルク給食」37.1%、「無回答」2.9%である。



# 学校給食、及び 学乳事業に関する アンケート

このアンケートは資料における給食状況や、学校給食の導入意識、及び学乳事業（学校給食用牛乳供給事業）の認知等についてお尋ねし、より詳細に愛され、楽しんでいただける学乳事業を展開するために、ご意見を伺います。出来たら、原食の供給、給食導入の是非等に関係する責任者の方（又はそれに関する方）にご回答いただきますよう、よろしくお願いいたします。なお、このアンケートの回答結果は上記目的のために使用され、回答者全体の傾向を把握するために数値データとして集計分析されます。個人の回答内容として使用されることはありません。

このアンケートは左ページのAの回答欄と、右ページのBの回答欄の2つに分かれております。左ページのAの回答欄は同封したリーフレットをご覧になる前にご回答いただきます（※既にご覧になった方は、ご覧になる前の時点でのご回答をお願いします）。一方、右ページのBの回答欄は、リーフレットをご覧になってからご回答いただきますよう、お願いいたします。

## 回答欄 A 同封したリーフレットをご覧になる前にご回答ください。

Q1. 貴校の給食の供給状況についてお尋ねします。現在、貴校では学校給食を導入していますか。(1つに○)

1. 導入している 2. 導入していない

### 学校給食を導入している方のみ、お答えください。

Q1-①. 導入している学校給食の形態は次のどれですか。(1つに○)

1. 完全給食 2. 給食給食 3. ミルク給食  
4. その他( )

Q1-②. 学校給食の導入に満足なさっていますか。(1つに○)

1. 非常に満足している 2. まあ満足している 3. どちらともいえない  
4. あまり満足していない 5. 全く満足していない

SQ. 理由をお聞かせください。

[ ]

### 学校給食を導入していない方のみ、お答えください。

SQ2-①. 学校給食を導入していない理由をお聞かせください。(いくつでも○)

1. 給食費が必要、保護者負担が増える  
2. 給食設備など、学校の経費負担が大きい  
3. 保護者の理解が得られない(具体的に: )  
4. 行政上の理由で導入できない  
5. その他(具体的に: )

SQ2-②. これまで、学校給食の導入を検討したことがありますか。(1つに○)

1. 検討したことがある 2. 検討したことはない

SQ2-③. 現段階(リーフレットを見る前)での、学校給食の導入についてのお考えをお聞かせください。(1つに○)

1. ぜひ検討したい 2. まあ検討したい 3. どちらともいえない  
4. あまり検討したくない 5. 全く検討したくない

SQ. そのように思われる理由をお聞かせください。

[ ]

### ※全員の方へ

Q2. 学校給食の現状や、学乳事業についてお尋ねします。同封のリーフレットはご覧になりましたか。既にご覧になった方は、ご覧になる前の時点でのことについてお答えください。

①「学乳事業(学校給食用牛乳供給事業)」についてご存知ですか。(1つに○)

1. よく知っている 2. ある程度は知っている 3. 聞いた事がある程度 4. 全く知らない

②学校給食には「完全給食」、「給食給食」、「ミルク給食」の3つの形態があることをご存知ですか。(1つに○)

1. よく知っている 2. ある程度は知っている 3. 聞いた事がある程度 4. 全く知らない

③児童・生徒の「牛乳飲用の効用、重要性」についてご存知ですか。(1つに○)

1. よく知っている 2. ある程度は知っている 3. 聞いた事がある程度 4. 全く知らない

④新規学乳開始校に対して「奨励金」や「保育費導入補助」などのサポートがあることをご存知ですか。(1つに○)

1. よく知っている 2. ある程度は知っている 3. 聞いた事がある程度 4. 全く知らない

⑤学乳事業校に対して「教材の提供」、「保護者調査」、「牧場・牛乳工場の見学」などのサポートがあることをご存知ですか。(1つに○)

1. よく知っている 2. ある程度は知っている 3. 聞いた事がある程度 4. 全く知らない

## 回答欄 B ここからは同封したリーフレットをご覧になってからご回答ください。

Q3. 「学乳事業(学校給食用牛乳供給事業)」について、どの程度関心を持ちましたか。(1つに○)

1. 非常に関心がある 2. まあ関心がある 3. どちらともいえない 4. あまり関心がない 5. 全く関心がない

Q4. 学校給食には「完全給食」、「給食給食」、「ミルク給食」の3つの形態があることについて、どの程度関心を持ちましたか。(1つに○)

1. 非常に関心がある 2. まあ関心がある 3. どちらともいえない 4. あまり関心がない 5. 全く関心がない

Q5. 児童・生徒の「牛乳飲用の効用、重要性」について、どの程度関心を持ちましたか。(1つに○)

1. 非常に関心がある 2. まあ関心がある 3. どちらともいえない 4. あまり関心がない 5. 全く関心がない

Q6. 児童・生徒に「将来の健康や成長のために牛乳を飲む」ことを指導すべきだと思いませんか。(1つに○)

1. 強く感じる 2. まあ感じる 3. どちらともいえない 4. あまり感じない 5. 全く感じない

SQ. そのように思われる理由をお聞かせください。

- [ ]

Q7. 新規学乳開始校に対する「奨励金」や「保育費導入補助」などのサポートについて、どの程度関心を持ちましたか。(1つに○)

1. 非常に関心がある 2. まあ関心がある 3. どちらともいえない 4. あまり関心がない 5. 全く関心がない

Q8. 学乳事業校に対する「教材の提供」、「牧場・牛乳工場の見学」などのサポートについて、どの程度関心を持ちましたか。(1つに○)

1. 非常に関心がある 2. まあ関心がある 3. どちらともいえない 4. あまり関心がない 5. 全く関心がない

Q9. 総合的に見て、学校給食の必要性についてどのようにお感じになりましたか。(1つに○)

1. 非常に必要である 2. まあ必要である 3. どちらともいえない 4. あまり必要ではない 5. 全く必要ではない

### ※学校を導入していない学校の方にはお尋ねします

Q10. このリーフレットをご覧になり、改めて学校給食の導入についてのお考えをお聞かせください。(1つに○)

1. ぜひ検討したい 2. まあ検討したい 3. どちらともいえない 4. あまり検討したくない 5. 全く検討したくない

SQ1. そのように思われる理由をお聞かせください。

- [ ]

SQ2. もし、学校給食を導入したら、どの形態の導入を検討なさいますか。(1つに○)

1. 完全給食 2. 給食給食 3. ミルク給食

### ※全員の方にお尋ねします

Q11. 学乳事業(学校給食用牛乳供給事業)について、ご意見・ご要望がございましたらお聞かせください。

[ ]

Q12. 最後に、貴校、及びご回答いただいたお尋ねした事項の整理についてお尋ねします。

| 貴校所在地<br>(都道府県) | 市町村 | 学校区分 | 1. 小学校(または小等部)       | 2. 中学校(または中等部) | 設立団体          | 1. 公立   | 2. 私立 |
|-----------------|-----|------|----------------------|----------------|---------------|---------|-------|
|                 |     |      | 1. 学校経営(理事長・校長・教頭など) | 2. 管理職         | 3. 一般教員(科目: ) | 4. 栄養教諭 |       |
|                 |     |      | 5. 学校栄養職員            | 6. その他( )      |               |         |       |

以上でアンケートは終了です。ご協力ありがとうございました。

●ご記入いただきましたアンケート用紙は同封の返信用封筒に入れ、12月22日(火)頃までに、ご返置ください。

●郵送以外に、FAXでの返送も受け付けております。どうぞよろしくお願いいたします。

FAX番号

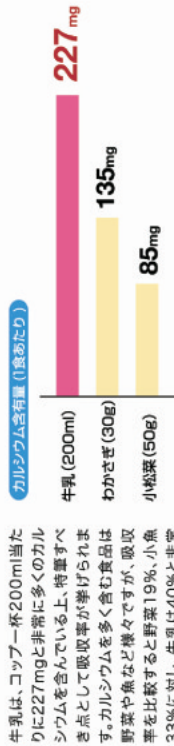
★学校給食用牛乳の導入について、  
詳しくお知らせしたい方のみ、ご記入ください。  
後日、学乳事業担当者からご連絡申し上げます。

|     |     |      |
|-----|-----|------|
| 学校名 | お名前 | ご連絡先 |
|     |     | ( )  |



## 牛乳の栄養素

### カルシウムをとるなら牛乳



※計量単位は日本食品標準成分表より算出

### カルシウム吸収率



日本食品標準成分表 Vol.51 No.5 2590-2605 1993 年

## 牛乳はバランス補助食品

牛乳はからだに必要なたんぱく質、炭水化物、たんぱく質、脂質、ビタミン、ミネラルをバランスよく含む食品です。そのため毎日の食事でも不足しがちな栄養素を牛乳で補うことができます。



## ※アンケートをご一読頂いてからご覧下さい。

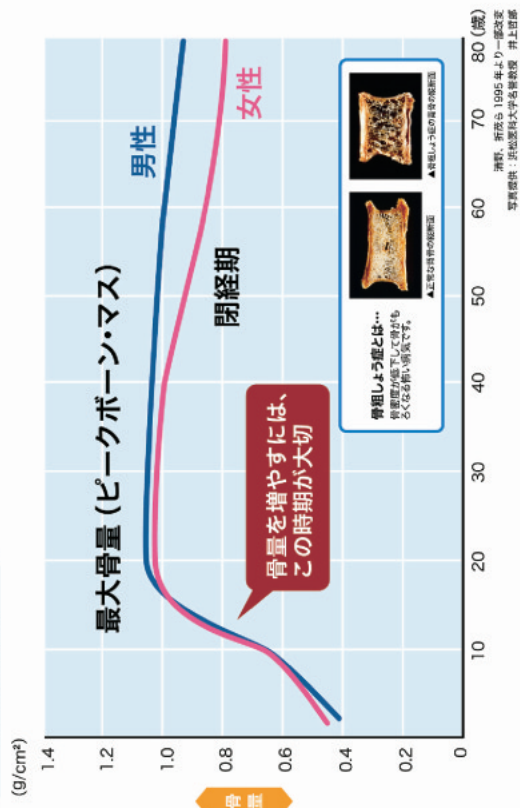
# 牛乳飲用の大切さと学乳事業に関するご案内

このリーフレットは学校給食用牛乳供給事業についての理解の促進及び牛乳に関する正しい知識の推進を目的としたものです。  
『学校給食、及び学乳事業に関するアンケート』も同封されており、まずは、アンケート用紙の左側【回答欄A】をご回答いただきました上で、こちらのリーフレットをご覧下さい。

## 骨は10代でつくられる

下図は、年齢による骨量の変化を示したグラフ(ピーク・ボーン・マス[peak bone mass])です。人間の骨量は男性で30歳頃、女性で25歳頃に最大になるといわれていますが、骨量が最大になる時期と骨が成長する時期には差異があり、実際には男子は13歳～17歳頃、女子は11歳～15歳頃に成長期を迎えます。骨の成長期には、1日に男子で約900mg、女子で約700mgのカルシウム摂取が必要とされ、この時期に栄養素が不足すると最大骨量が適正値に達せず全体として骨量の曲線が下がってしまいます。そのため、成長期に十分なカルシウムや栄養素を蓄える必要があるのです。

### 年齢と骨量の変化



# 給食は食育の場

## 食育を給食で実践

近年、偏った栄養摂取、朝食欠食など食生活の乱れや肥満・瘦身傾向など、児童・生徒の健康を取り巻く問題が深刻化しています。  
そこで文部科学省では、学校給食を『食育の生きた教材』として活用するよう取り組んでいます。  
給食は、目で見て、匂いをかぎ、食べて、味わうことができます。食に対する知識を確実なものとし、食の活用が積極的に行われているため、地域への理解も深まり、郷土食を通じた食文化の継承にもつながります。



## まずはミルク給食から

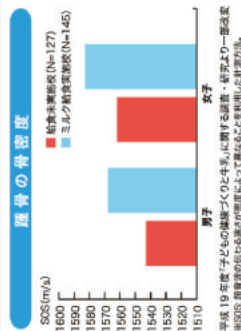
学校給食は、児童・生徒にとって必要な栄養素がバランスよくとれるよう配慮され、成長発達に大きな役割を果たしています。文部科学省では学校給食の形態を、次のように定めています。



いずれの形態においても給食には必ず牛乳が取り入れられており、このことから成長期の児童・生徒には牛乳が欠かせない食品であることがわかります。  
また給食を実施されていない場合、ミルク給食なら比較的設備に関する費用も少なく手軽に始めることができます。  
まずはミルク給食の導入からご検討されてはいかがでしょうか。

## 給食と骨密度の関係

牛乳の摂取量と骨密度の関係において、非常に興味深い調査があります。  
ミルク給食を行っている学校と、給食を実施していない学校を対象に、生徒の足の骨量測定を実施し、その骨量比較を行いました。  
給食未実施校の生徒は男女ともに、ミルク給食実施校の生徒より足の骨の量が低い傾向が見取れます。  
この結果からも、牛乳は児童・生徒の成長に大きく貢献していることがわかります。



## 学乳からのサポート

学乳(学校給食用牛乳供給事業)とは、独立行政法人農畜産業振興機構の補助を受け、学校給食用牛乳の効率的な供給及び飲用習慣の定着の推進を目的とした事業です。  
学乳未実施校及び、学乳実施校に対してそれぞれ次のようなサポートを行っています。

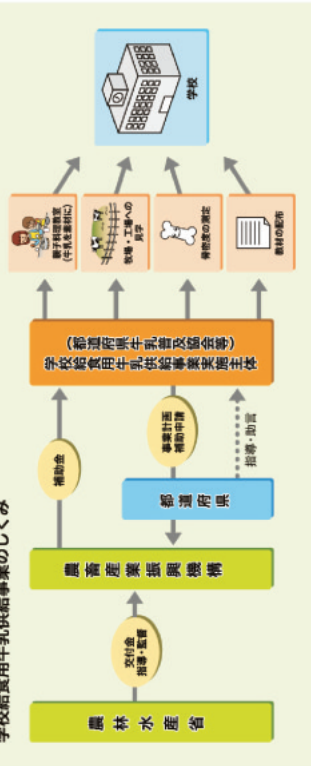
### 学乳未実施校を対象とした事業

- 1) 骨密度測定 飲用開始を促進するための説明会及び骨密度測定の実施、及び実施支援
- 2) 新規飲用の促進 新規に飲用を開始する学校に供給される牛乳を対象とした奨励金(開始年度限り)
- 3) 設備導入への補助 新規に飲用を開始する学校における保冷庫の導入への補助

### 学乳実施校を対象とした事業

- 1) 教材の配布 牛乳に関する正しい知識を促進するための教材の配布
- 2) 骨密度測定 骨密度測定の実施、及び実施支援
- 3) 牧場・工場への見学 牛乳・酪農への理解を深めるための近隣の牧場・牛乳工場への見学に要する経費の補助
- 4) 親子料理教室 牛乳を活用した親子料理講習会の開催等の実施、又は実施に要する経費の補助
- 5) 設備導入への補助 供給経費の低減又は衛生管理の向上等を図るための保冷庫の導入、空容器の処理・回収に要するための保管庫の導入への補助

### 学校給食用牛乳供給事業のしくみ



## Jミルクとは

正式名称 社団法人日本酪農乳業協会

### 目的

牛乳生産者、乳業者及び牛乳販売業者が一体となって、牛乳・乳製品の消費普及を推進するとともに、牛乳及び牛乳・乳製品の生産及び流通の合理化を図り、国民の食生活の向上及び我が国の酪農・乳業の発展を図ることを目的とする

### 事業内容

1. 国産牛乳の需要拡大、学校給食用牛乳を含む牛乳・乳製品消費の維持・拡大を図るための普及活動、情報収集、調査研究を行う事業
2. 生乳及び牛乳・乳製品の生産、流通、取引の合理化を図るための情報の収集・提供と課題の解決を推進する事業
3. その他本会の目的を達成するために必要な事業





# 【Ⅱ】

## 保護者対象調査

## 一 調査概要 一

### 【調査目的】

- ・学校給食、およびそこで提供される牛乳（学校給食用牛乳）に対するニーズを、実際に利用する児童生徒の保護者の視点から捉えることを目的とする。

### 【調査方法】

#### ①調査対象者

- ・小学校入学を控えた幼稚園年長の母親……100 サンプル
- ・小学校高学年（5～6年生）の母親……100 サンプル
- ・学校給食未導入校の中学生の母親……100 サンプル

合計 300 サンプル

#### ②調査地域……全国

#### ③調査手法……web アンケート調査

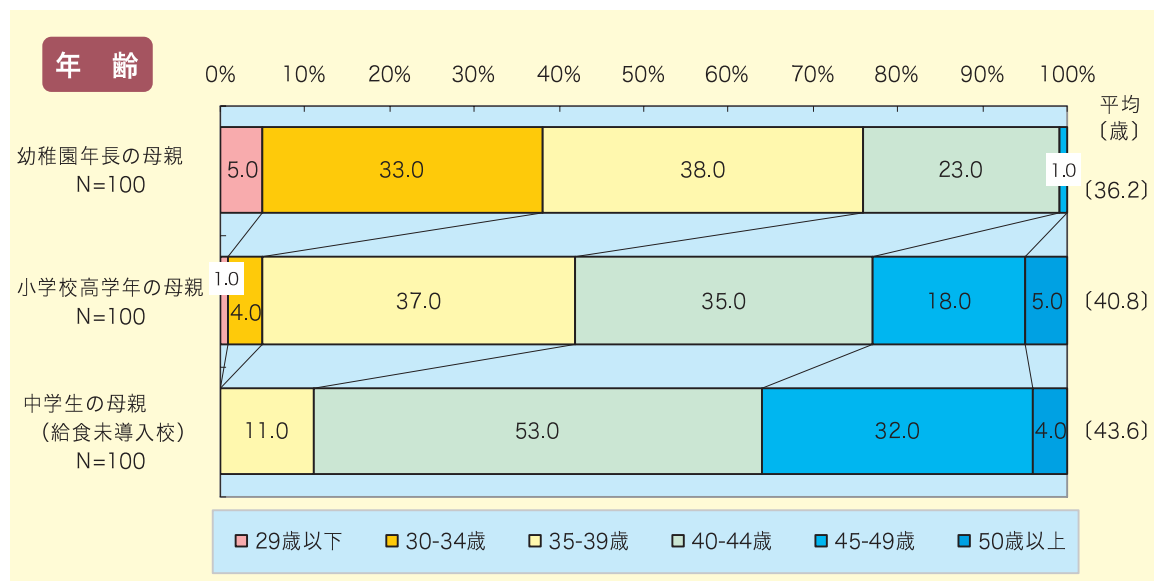
#### ④調査期間……2009 年 11 月 27 日（金）～30 日（月）

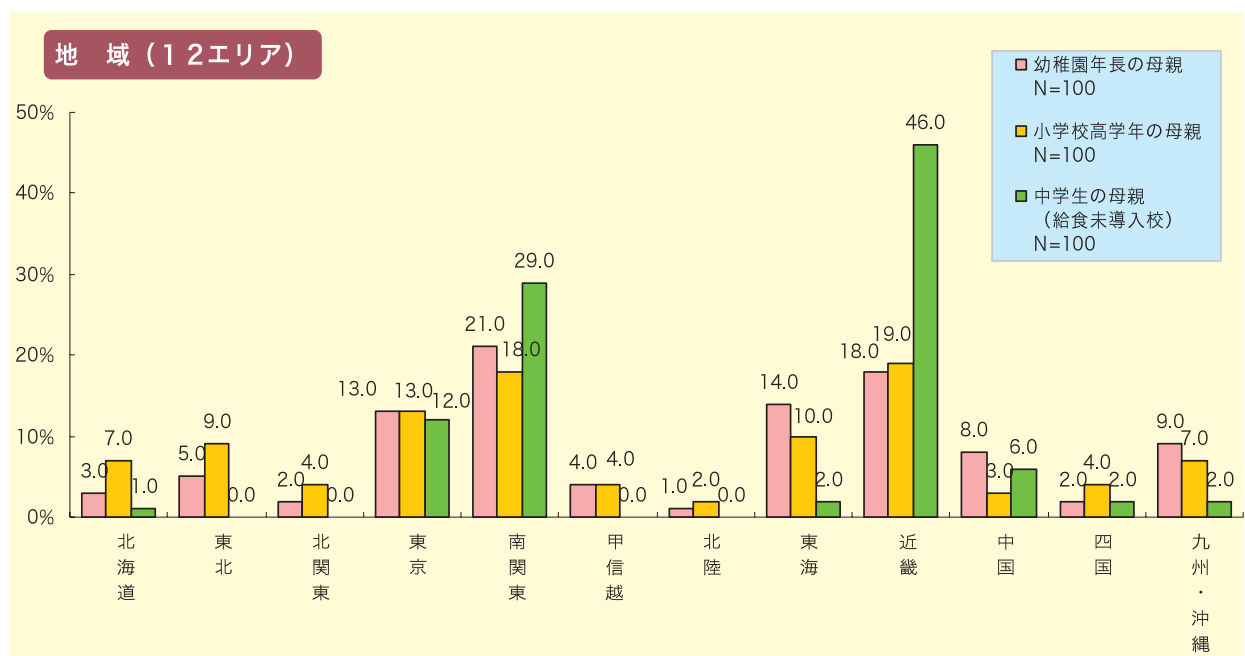
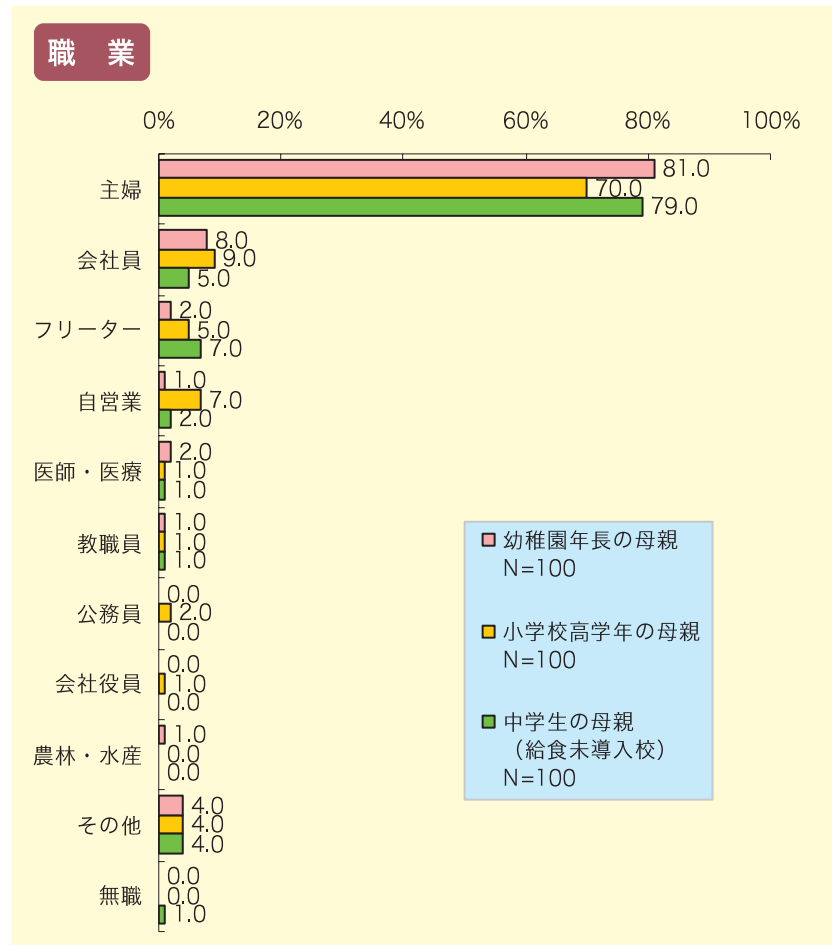
#### ⑤調査実施機関

企画……株式会社 学研パブリッシング

実施……株式会社 メグ

### 【回答者のプロフィール】





# I

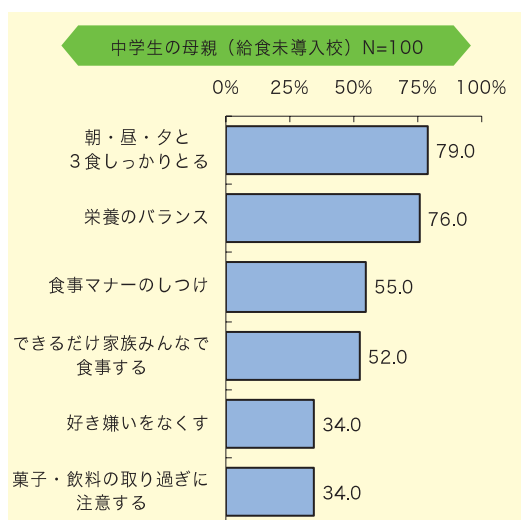
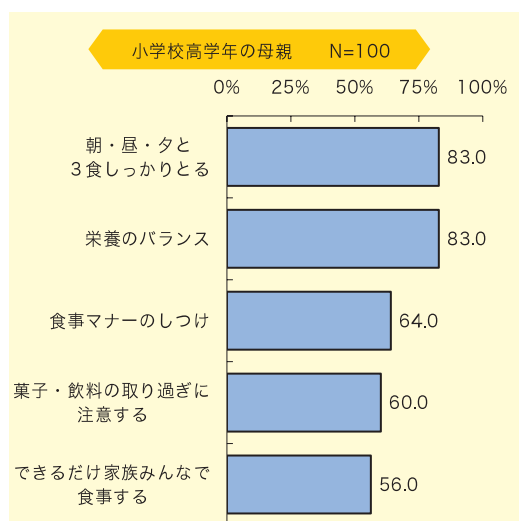
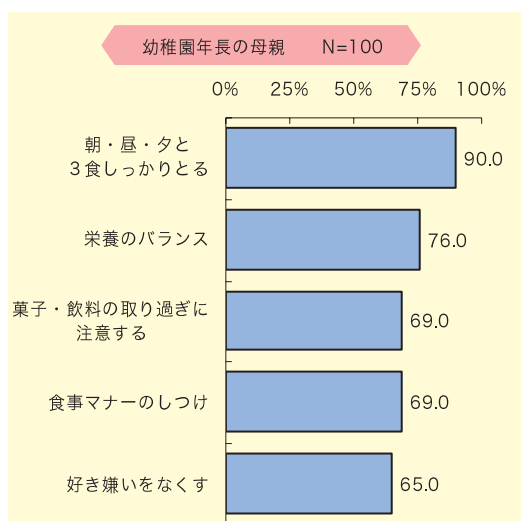
## 調査結果の要約

## 1. 子供の食事で普段心がけていること

○子供の食事で普段心がけていることは「3食しっかりとること」、そして「栄養のバランス」である

- ・『子供の食事で普段心がけていること』について質問したところ、幼稚園年長の母親、小学校高学年の母親、中学生（給食未導入校）の母親のいずれも「朝・昼・夕と3食しっかりとる」「栄養のバランス」が1位、2位を占めており、子供の成育に重要な“栄養のバランスを重視した食事を3食しっかりとる”ことが最大の心がけとなっている。

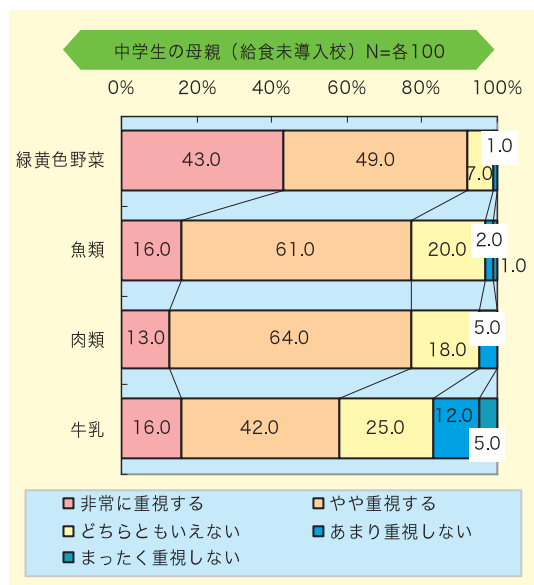
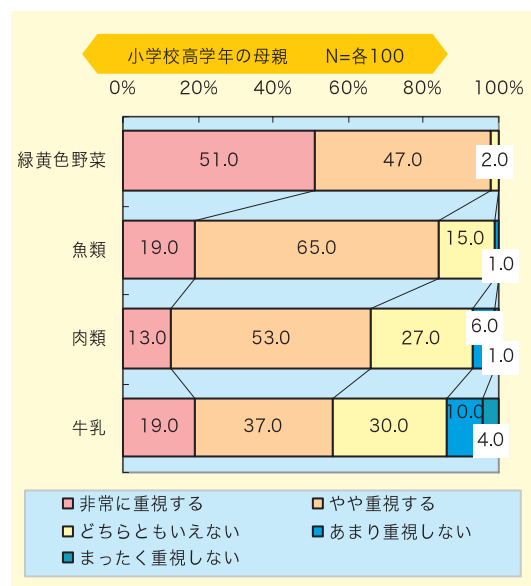
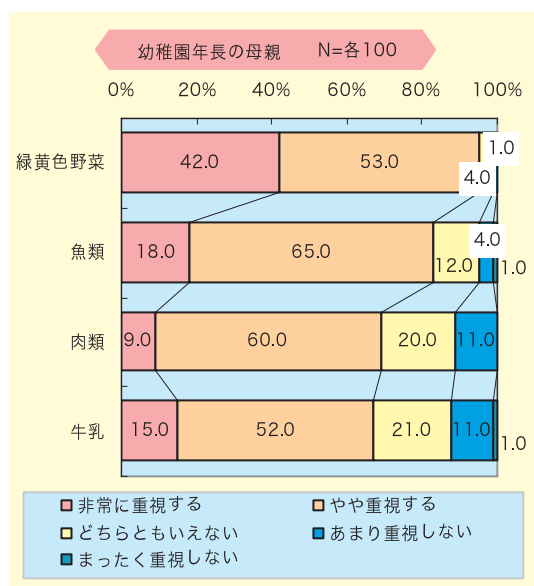
### 子供の食事で普段心がけていること（複数回答）



## ○食材としては何よりも「緑黄色野菜」の摂取を重視している

- ・食材 10 品目を提示し、『子供の食事ですれぞれどの程度重視しているか』を質問したところ、幼稚園年長の母親、小学校高学年の母親、中学生（給食未導入校）の母親のいずれも「緑黄色野菜」の重視度が圧倒的に高く、『非常に重視する』だけでも 40%を超え、『やや重視する』も含めると 90%を超えている。

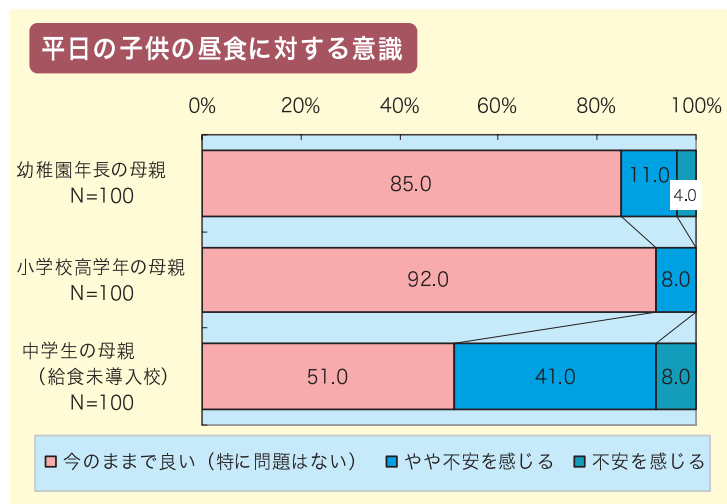
### 子供の食事における食材重視度



## 2. 平日の子供の昼食に対する意識と学校給食の利用意向

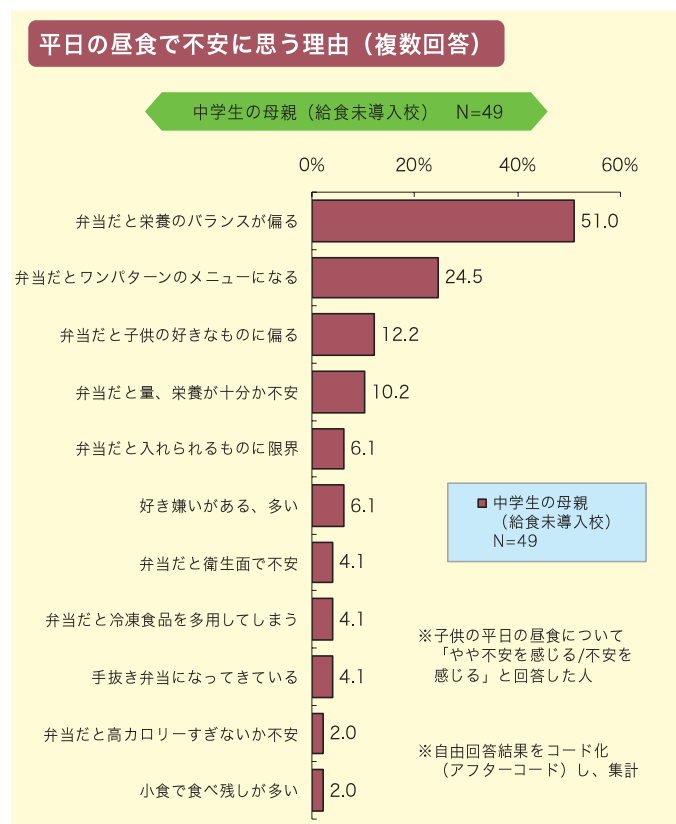
### ○給食未導入の中学生の母親は、平日の子供の昼食に「不安を感じている」人が多い

- ・『あなたは平日のお子様の昼食についてどのようにお感じですか?』との質問に対し、「今のままで良い（特に問題はない）」と回答した人は幼稚園年長の母親は85.0%、小学校高学年の母親は92.0%と高いが、中学生（給食未導入校）の母親は51.0%にとどまり、「やや不安を感じる」41.0%、「不安を感じる」8.0%と、不安を感じている人が半数近くに上っている。



### ○手作り弁当だと「栄養のバランスが偏る」ことが最大の不安要因となっている

- ・中学生（給食未導入校）の母親について、『不安に思う理由』の自由回答結果を見ると、「弁当だと栄養のバランスが偏る」51.0%、「弁当だとワンパターンのメニューになる」24.5%、「弁当だと子供の好きなものに偏る」12.2%、「弁当だと量、栄養が十分か不安」10.2%などが主な理由で、“栄養バランスや量が適切で、かつバラエティ豊かな弁当を作ることの難しさ”、“それがちゃんと出来ているかどうかの不安”が強く意識されており、給食未導入のため、手作り弁当を作らなければならないことそのものに起因した理由が多数を占めている。



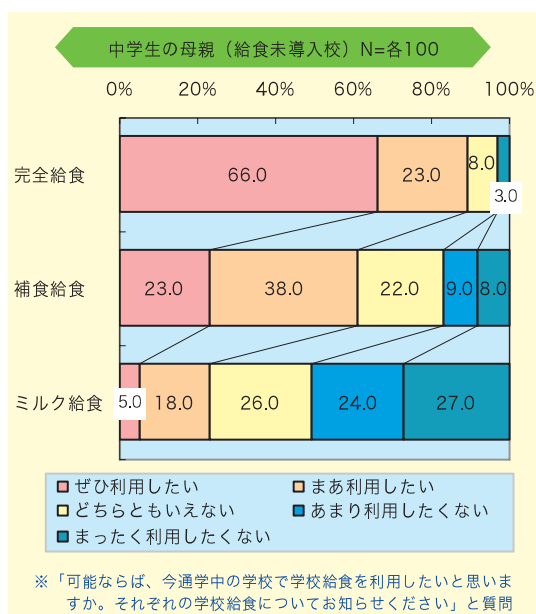
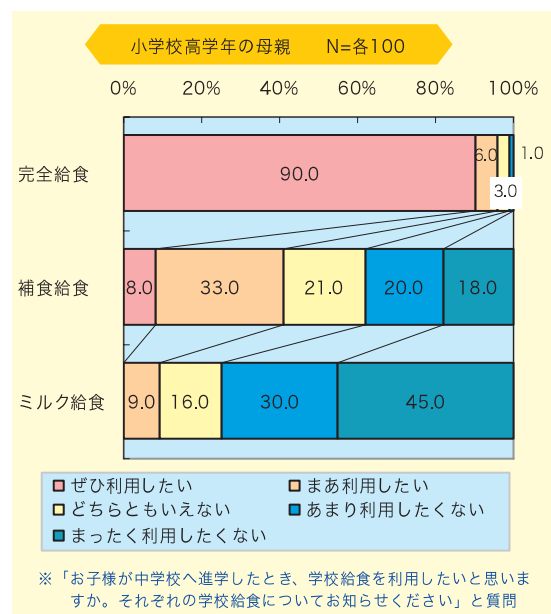
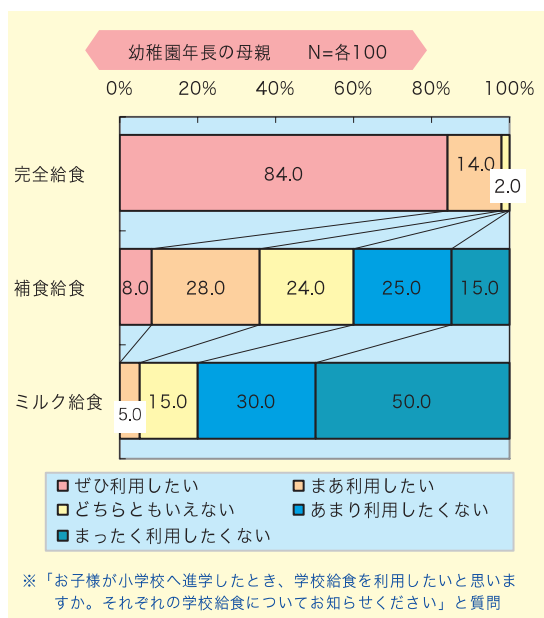


○『完全給食』に対するニーズは高く、「ぜひ利用したい/まあ利用したい」の合計で、およそ9割に達する

- ・『学校給食と牛乳』についての説明を読んでもらった後、完全給食、補食給食、ミルク給食それぞれの利用意向を質問したところ、幼稚園年長の母親、小学校高学年の母親、中学生（給食未導入校）の母親のいずれも「完全給食」の利用意向が非常に高く、「ぜひ利用したい/まあ利用したい」の合計でおよそ9割に達している。

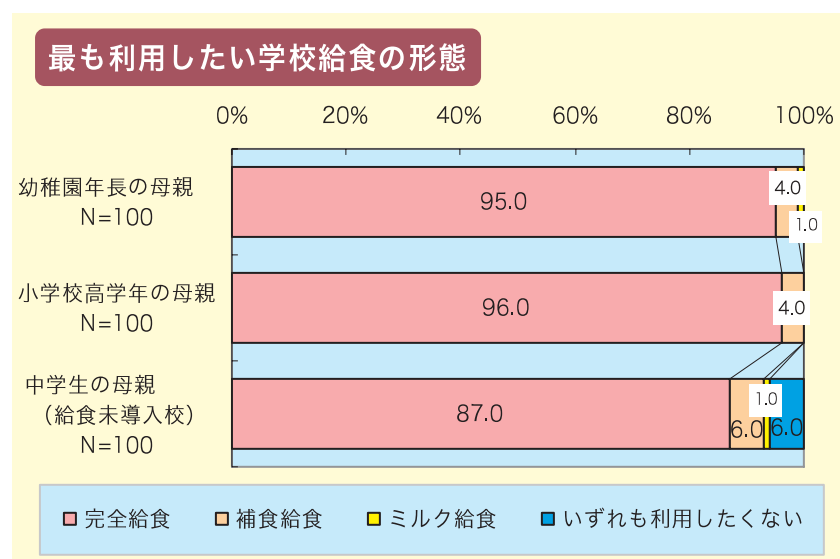
※『学校給食と牛乳』の具体的内容は、（付）調査票を参照

### 学校給食の利用意向



## ○最も利用したい給食も『完全給食』が圧倒的に選択されている

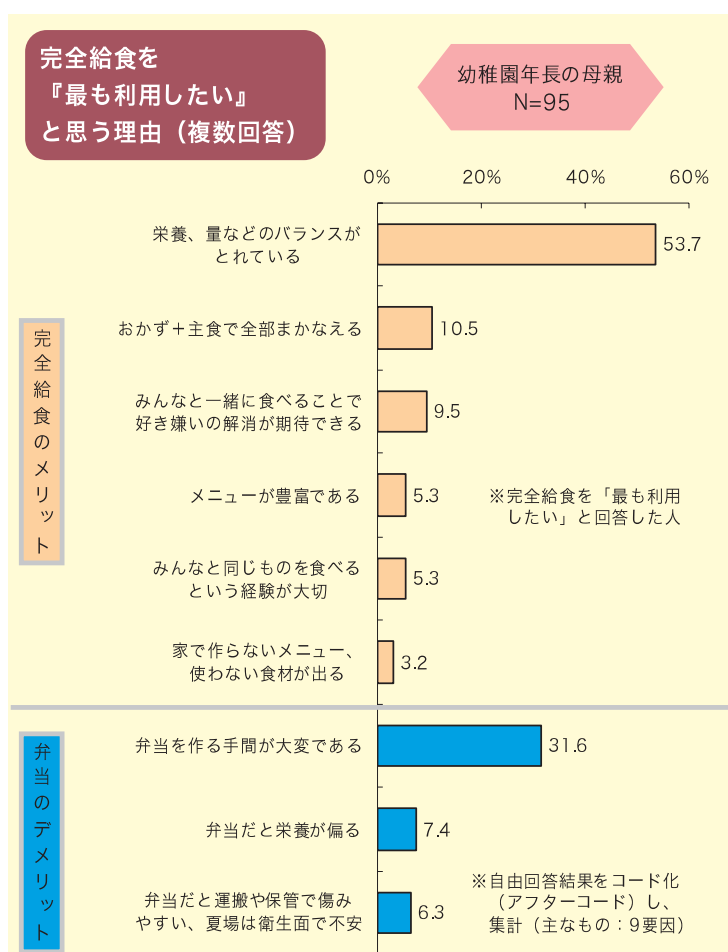
- ・また、完全給食、補食給食、ミルク給食を比較して、最も利用したい給食形態を選んでもらったところ、「完全給食」が圧倒的に高く、幼稚園年長の母親 95.0%、小学校高学年の母親 96.0%、中学生（給食未導入校）の母親 87.0%という結果である。

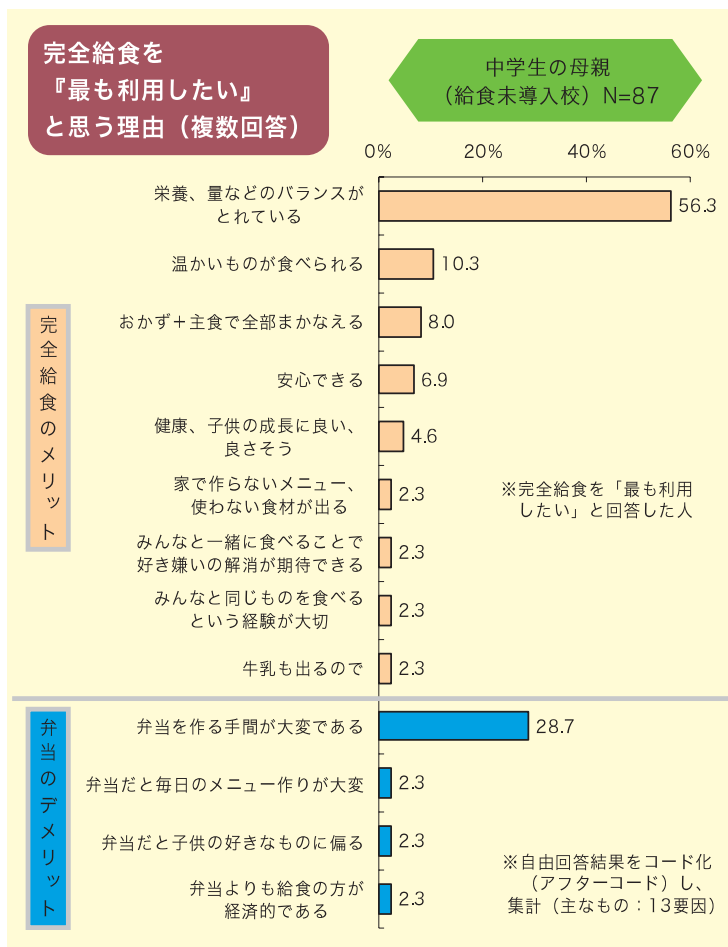
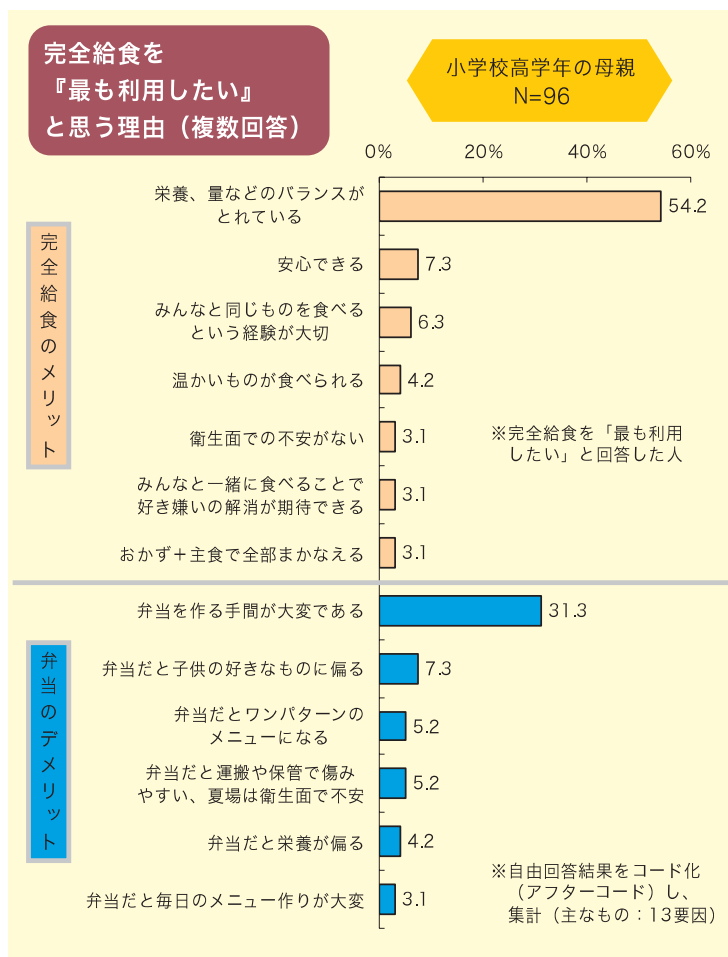


### 3. 学校給食（完全給食）を希望する理由

○「栄養バランスの点で優れていること」が『完全給食』を希望する最大の理由。また、「弁当を作る手間の解消」にも大きなメリットを感じている

- ・完全給食を最も利用したいと回答した人の理由を見ると、『完全給食にすることのメリット要因』と、『弁当を作ることのデメリット要因』に大別され、前者は「栄養・量などのバランスがとれている」が、後者は「弁当を作る手間が大変である」との回答が多い。これは幼稚園年長の母親、小学校高学年の母親、中学生（給食未導入校）の母親共通の傾向である。
- ・『完全給食にすることのメリット要因』としては、このほかにも「みんなと一緒に食べることで好き嫌いの解消が期待できる」、「みんなと同じものを食べるという経験が大切」など、集団生活の貴重な経験、それによる相乗効果を期待する意見などが上がっている。
- ・また、『弁当を作ることのデメリット要因』としては、「弁当だと子供の好きなものに偏る」、「弁当だとワンパターンのメニューになる」、「弁当だと栄養が偏る」や、「弁当だと運搬や保管で傷みやすい、夏場は衛生面で不安」などが上がっている。





## 4. 説明提示後の牛乳に対する意識変化

○学校給食用牛乳の役割とその必要性、重要性を認知してもらうことで、『牛乳重視度』を向上させる効果が期待できる(特に小学校高学年の母親)

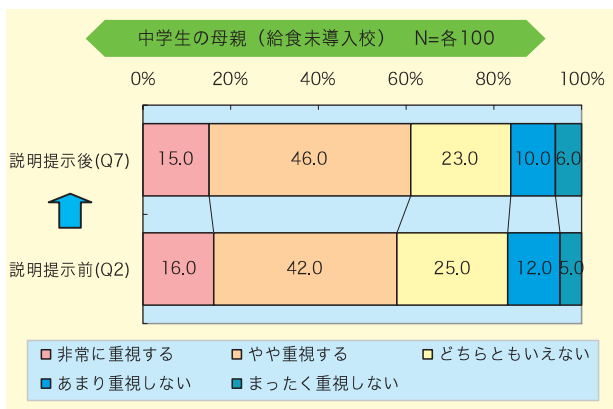
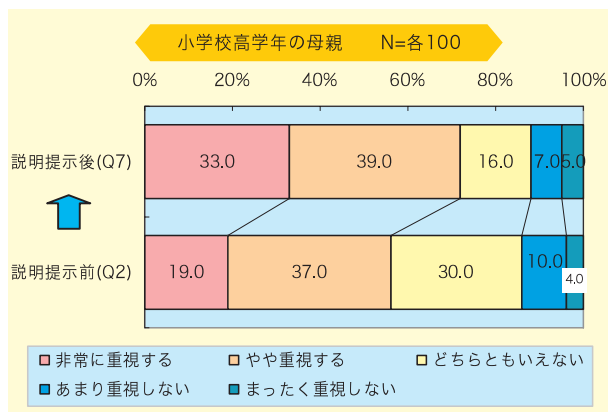
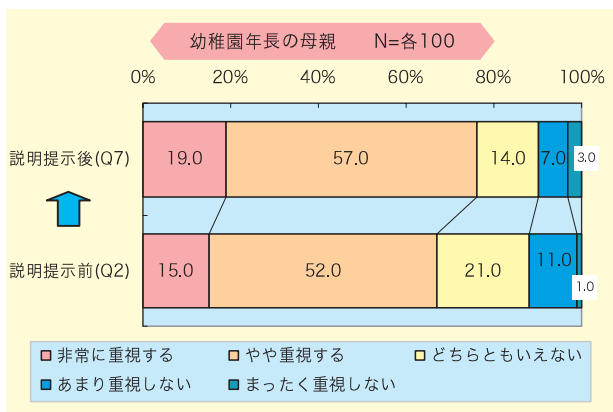
・『学校給食と牛乳』についての説明を読んでもらったあと、もう一度「今後、牛乳をどの程度重視するか」の質問を行い、説明提示前に質問したときの結果(Q2)と比較したところ、『非常に重視する/やや重視する』の合計は次のように推移している。

※『学校給食と牛乳』の具体的内容は、(付)調査票を参照

- ①幼稚園年長の母親……………説明提示前 67.0% → 説明提示後 76.0% ( 9 ポイント上昇)
- ②小学校高学年の母親……………説明提示前 56.0% → 説明提示後 72.0% (16 ポイント上昇)
- ③中学生(給食未導入校)の母親……説明提示前 58.0% → 説明提示後 61.0% ( 3 ポイント上昇)

・幼稚園年長の母親、小学校高学年の母親で牛乳重視度が上昇し、特に小学校高学年の母親で顕著である。

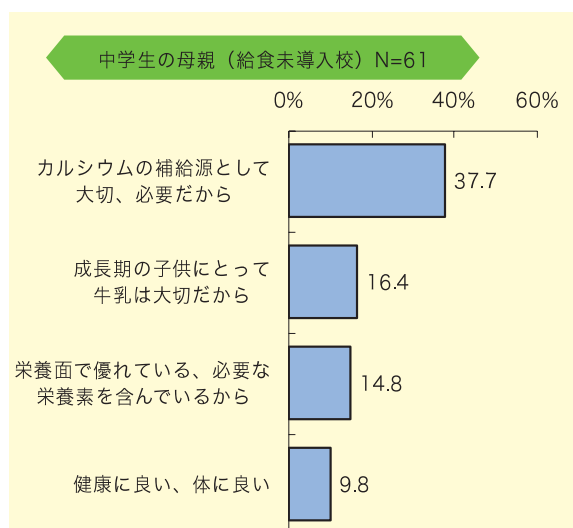
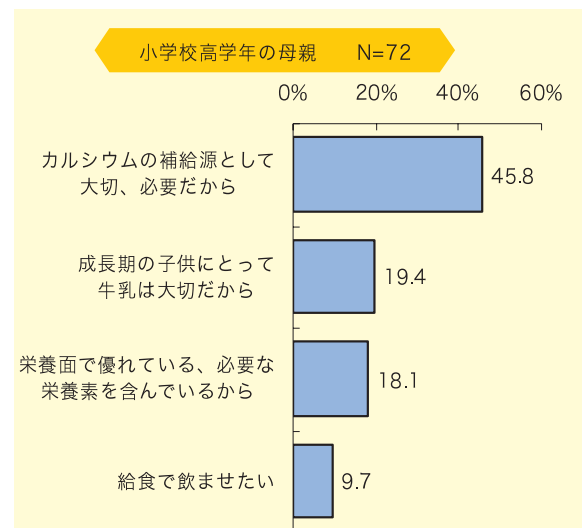
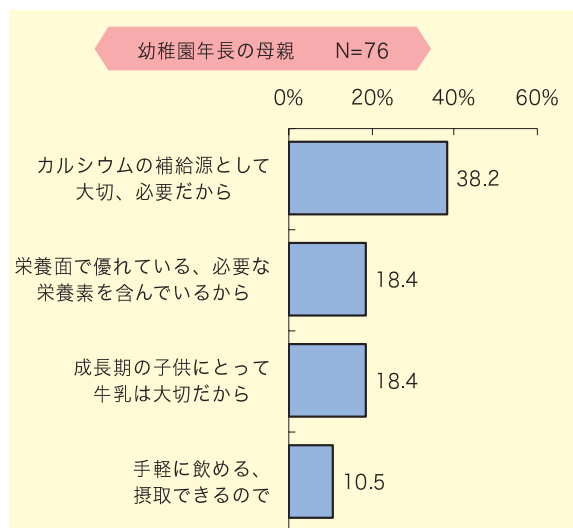
### 説明提示による牛乳重視意向の変化 (提示前との比較)



○「カルシウム補給源としての牛乳の優れた特性」と「この年代の子供にとってのカルシウム摂取の重要性」のアピールが『牛乳重視度』の向上に寄与する可能性が高い

- ・『非常に重視する/やや重視する』と回答した人の理由を見ると、幼稚園年長の母親、小学校高学年の母親、中学生の母親（給食未導入校）のいずれも同じ傾向を示しており、「カルシウムの補給源として大切、必要だから」が最も多く、それぞれ38.2%、45.8%、37.7%である。
- ・次いで多いのが「成長期の子供にとって牛乳は大切だから」（16～19%）、「栄養面で優れている、必要な栄養素を含んでいるから」（15～18%）で、“子供の成長におけるカルシウム補給の重要性と、カルシウムを多く含んだ牛乳摂取の必要性”が説明提示によって意識付けられたものと推察される。

今後、牛乳を『非常に重視する/やや重視する』と回答した理由（複数回答）



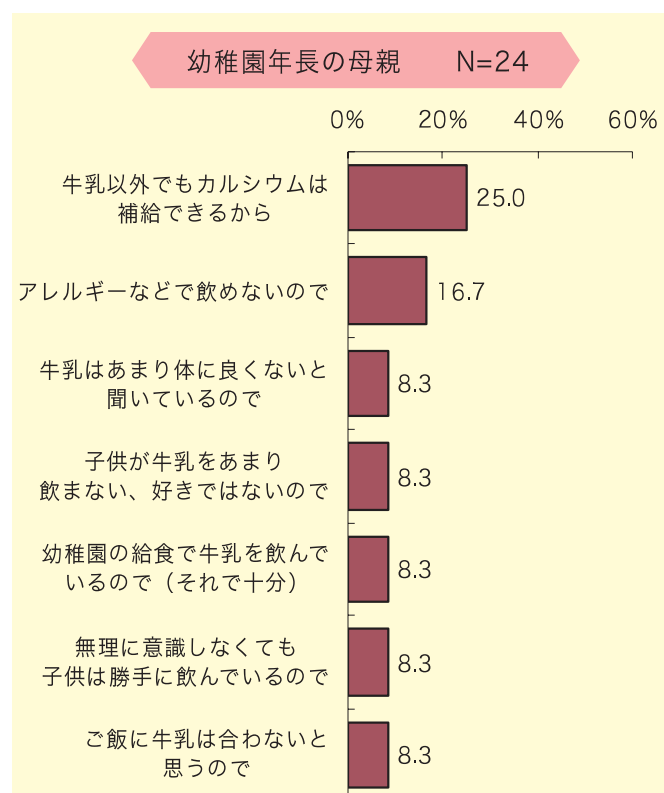
※今後、子供の食事として牛乳を「非常に重視する/やや重視する」と回答した人

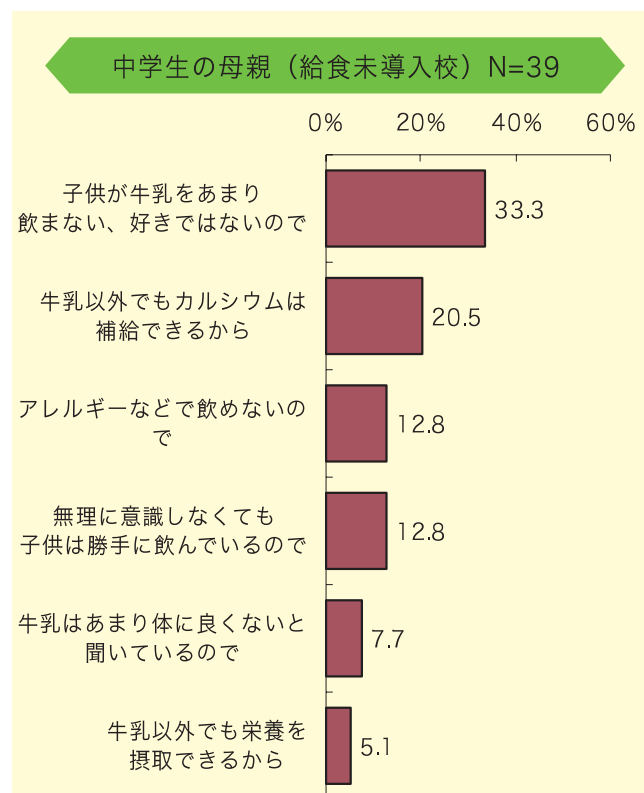
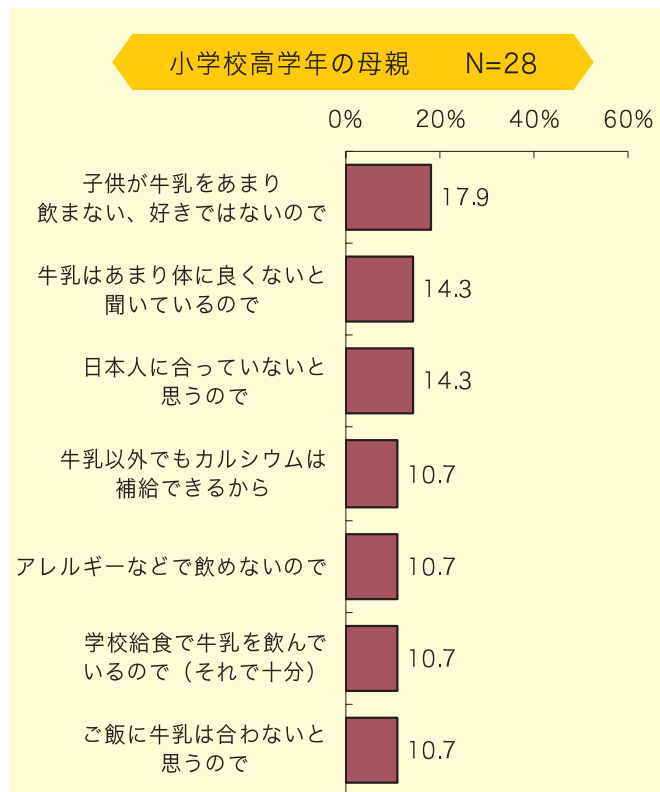
※自由回答結果をコード化（アフターコード）し、集計（主なもの：4要因）

## ○但し、牛乳に対してネガティブな認識を持つ人も出現してきており、これへの対応が今後の課題である

- ・次に、『どちらともいえない/あまり重視しない/まったく重視しない』と回答した人の理由を見ると、「牛乳以外でもカルシウムは補給できるから」、「子供が牛乳をあまり飲まない、好きではないので」「アレルギーなどで飲めないの」などの理由が多いが、そのほか「牛乳はあまり体に良くないと聞いているので」、「日本人に合っていないと思うので」などの理由も見られ、牛乳に対してネガティブな認識を持つ人も出現してきている。
- ・具体的には……
  - 通院している歯医者さんから、牛乳で摂取できるカルシウムはわずかで、小魚などのほうが効率が良いと聞いたので。(46歳、主婦、東京都)
  - 今は、医学博士や医師の中でも、牛乳は体を冷やす飲み物として推薦されていない方が多いです。カルシウムをとりたいなら小魚の方が良いです。私もそれを知ってから、子供たちには家では冷たい牛乳は飲まさないようになりました。(40歳、主婦、大阪府)
  - 最近、牛乳が健康によくないという話を耳にしたので(42歳、主婦、神奈川県)
  - もともと牛乳は日本人の体質には合っていないくて、消化しにくい成分も含んでいて、人によってはそれが体に消化しないまま残ってしまい、行動など体に悪影響を及ぼす話を聞いたことがあるから。(42歳、主婦、愛知県)
- ・今後は、このようなネガティブな認識に対する対応も課題である。

### 今後、牛乳を『どちらともいえない～まったく重視しない』と回答した理由





※今後、子供の食事として牛乳を「どちらともいえない/あまり重視しない/まったく重視しない」と回答した人  
 ※自由回答結果をコード化（アフターコード）し、集計（主なもの：6-7 要因）





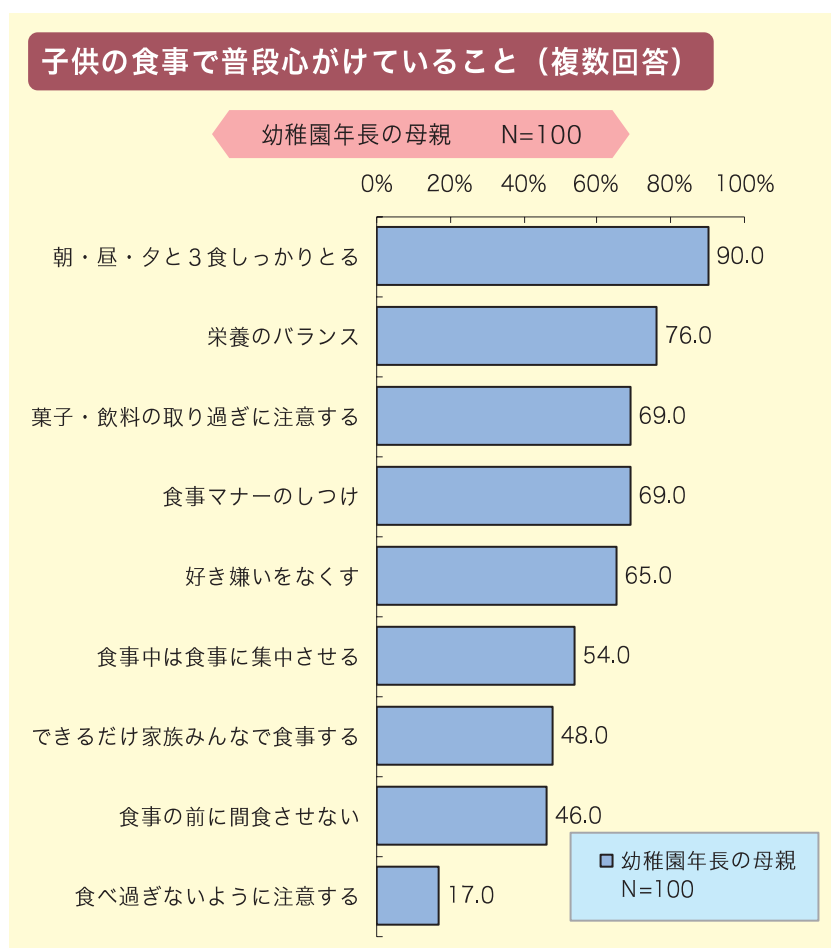
## Ⅱ

### 調査結果の詳細

## 1. 家庭での食事に対する意識

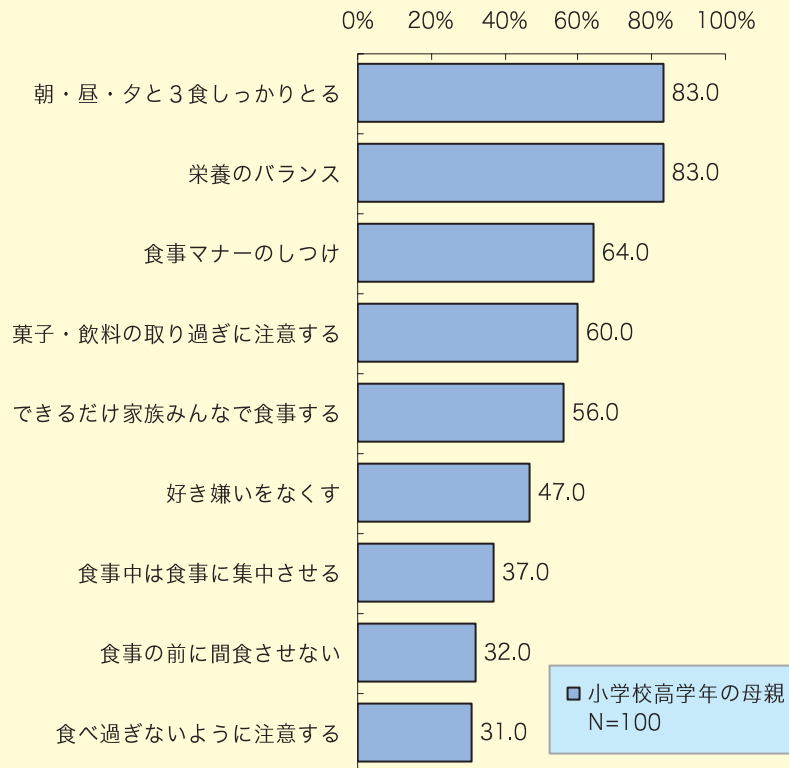
### (1) 子供の食事で普段心がけていること(Q1)

- ・『子供の食事で普段心がけていること』について質問したところ、幼稚園年長の母親、小学校高学年の母親、中学生（給食未導入校）の母親のいずれも「朝・昼・夕と3食しっかりとる」「栄養のバランス」が1位、2位を占めており、子供の成育に重要な“栄養のバランスを重視した食事を3食しっかりとる”ことが最大の心がけとなっている。
- ・3位以降は子供の年齢により差が見られ「菓子・飲料の取り過ぎに注意する」「食事マナーのしつけ」「好き嫌いをなくす」「食事中は食事に集中させる」「食事の前に間食させない」など“食に関するしつけ、教育”は子供の年齢の低い母親ほど強く心がけられている。



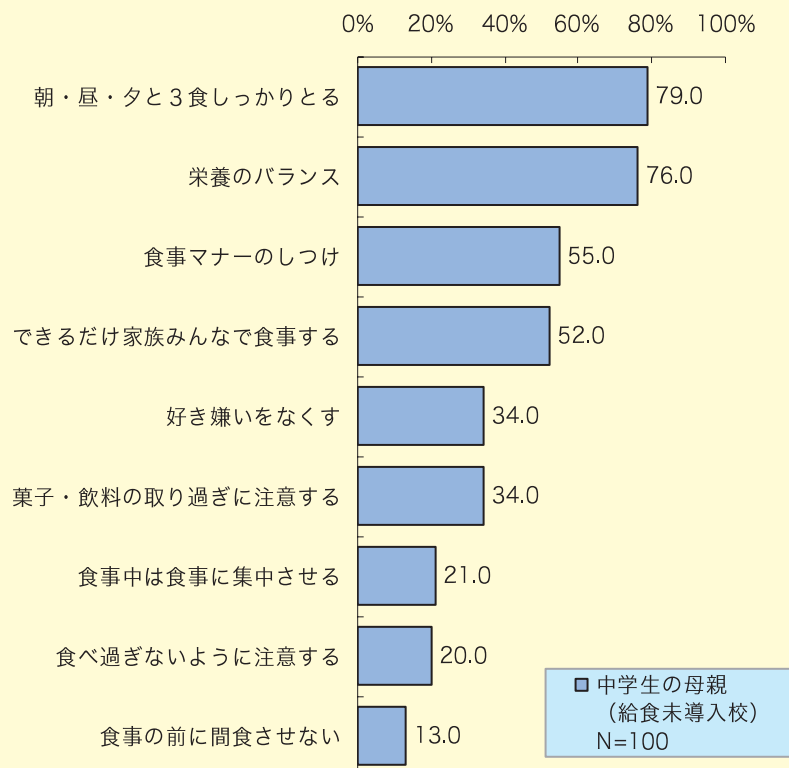
### 子供の食事で普段心がけていること（複数回答）

小学校高学年の母親 N=100



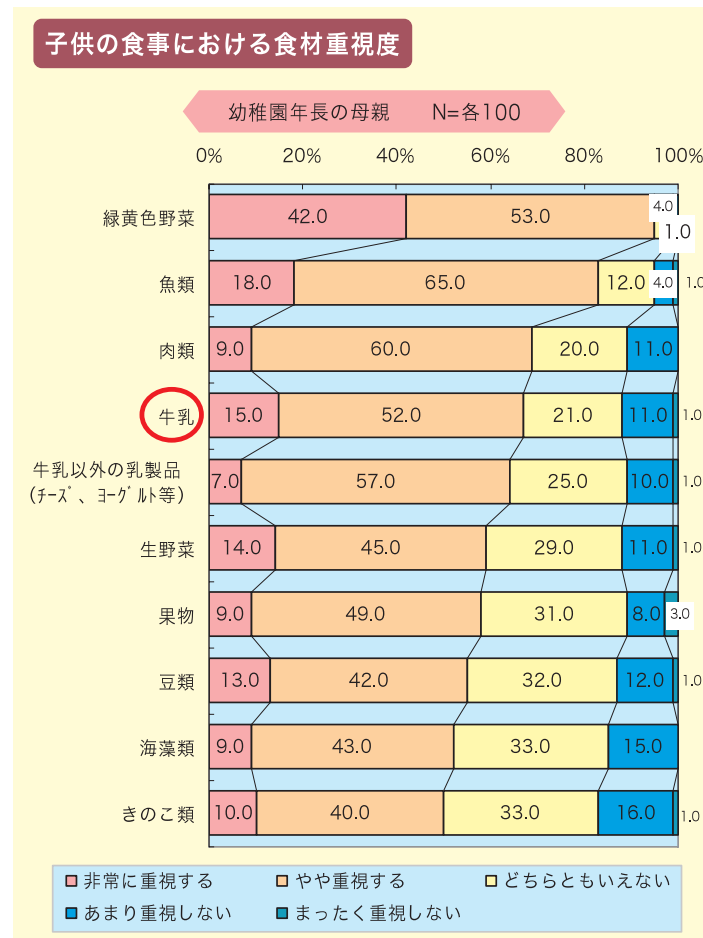
### 子供の食事で普段心がけていること（複数回答）

中学生の母親（給食未導入校） N=100



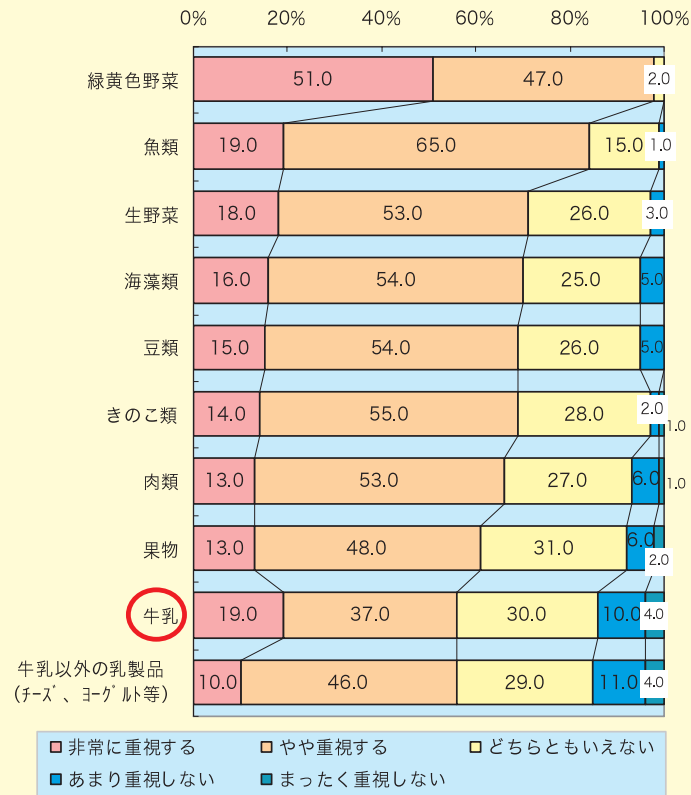
## (2) 子供の食事における、『食材』重視状況(Q2)

- ・食材を10品目提示し、『子供の食事ですれぞれどの程度重視しているか』を質問したところ、幼稚園年長の母親、小学校高学年の母親、中学生（給食未導入校）の母親のいずれも「緑黄色野菜」の重視度が圧倒的に高く、『非常に重視する』だけでも40%を超え、『やや重視する』も含めると90%を超えている。
- ・2位以下を見ると、幼稚園年長の母親は「魚類」「肉類」「牛乳」「牛乳以外の乳製品」など、たんぱく質の多い食材をより重視する傾向が見られる。一方、小学校高学年の母親、中学生（給食未導入校）の母親は「魚類」「肉類」などのたんぱく源だけでなく、「生野菜」「海藻類」「豆類」などを重視する人も多い。
- ・「牛乳」に着目すると、幼稚園年長の母親は『非常に重視する、やや重視する』の合計が67.0%と高いが、小学校高学年の母親は56.0%、中学生（給食未導入校）の母親は58.0%と低く、他の食材に比べそれほど重視されていない。



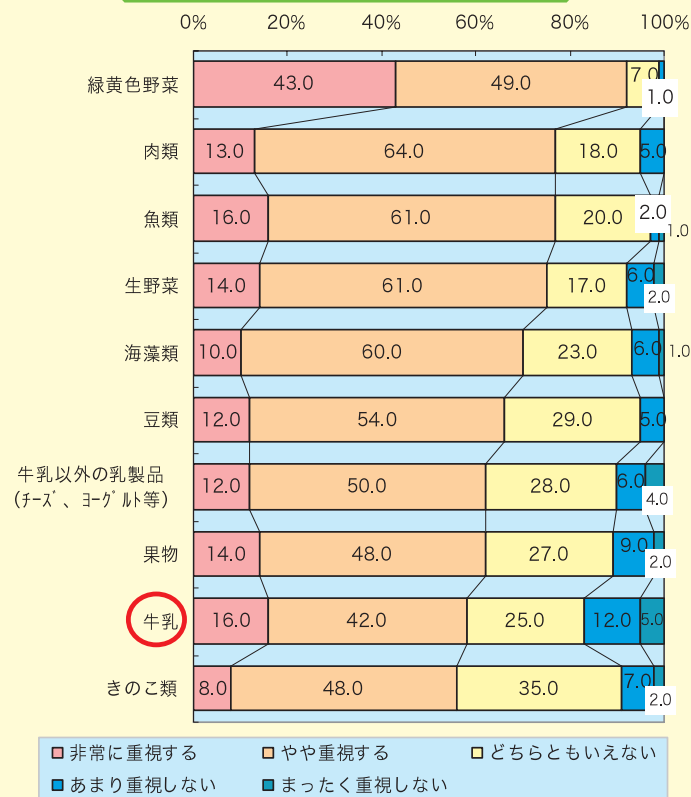
### 子供の食事における食材重視度

小学校高学年の母親 N=各100



### 子供の食事における食材重視度

中学生の母親（給食未導入校） N=各100



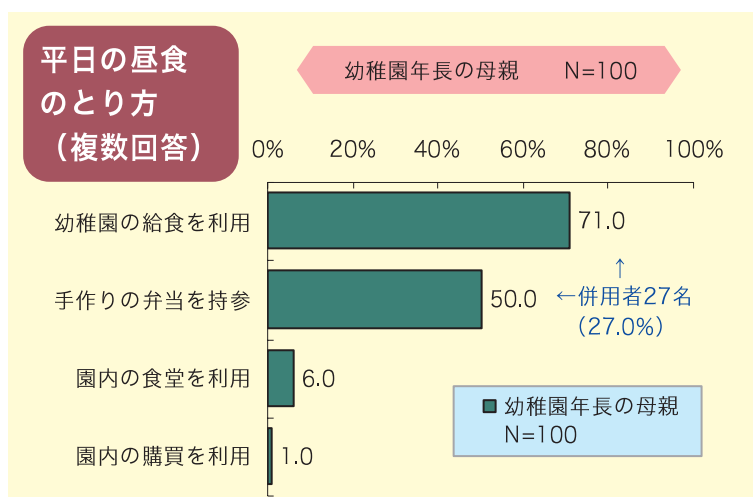
## 2. 平日の昼食の現状と問題意識

### (1) 平日の昼食のとり方(Q3)

・子供の平日の昼食のとり方を見ると、

#### ①幼稚園年長の母親

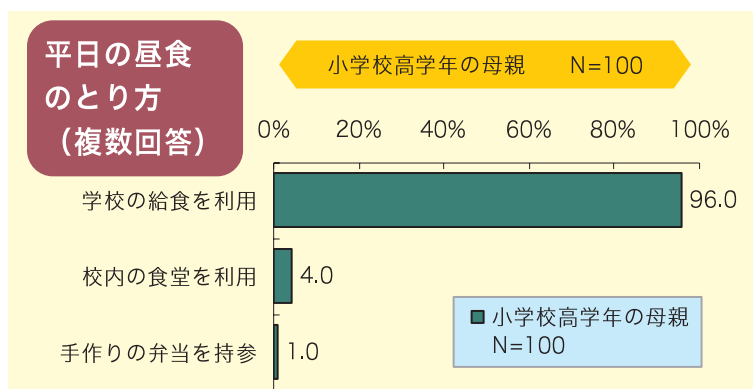
・「幼稚園の給食を利用」が最も多く 71.0%。次いで「手作りの弁当を持参」50.0%の順。このうち併用者は 27 名で全体の 27.0%が併用しているという結果である。



#### ②小学校高学年の母親

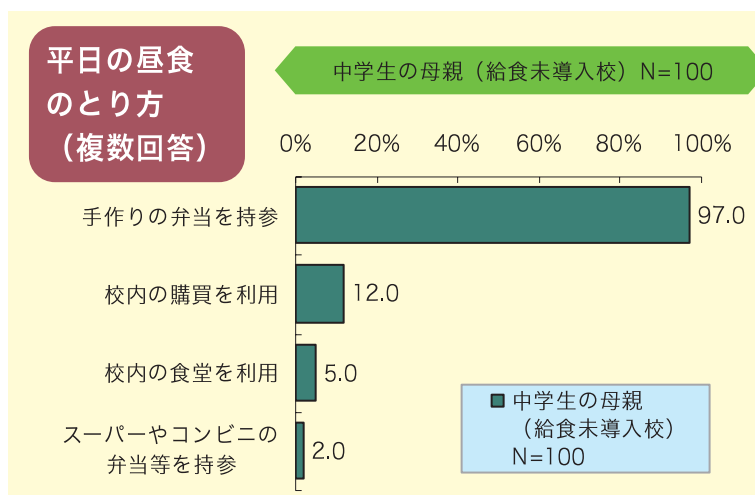
・現在、小学校の完全給食の実施率（国公立計）は 98.8%（児童数ベース）に達しており<sup>(注 1)</sup>、その傾向を反映して「学校の給食を利用」が 96.0%と高く、「校内の食堂を利用」が 4.0%という結果である。

(注 1)……出典：「学校給食実施状況調査（平成 19 年 5 月 1 日現在）」文部科学省



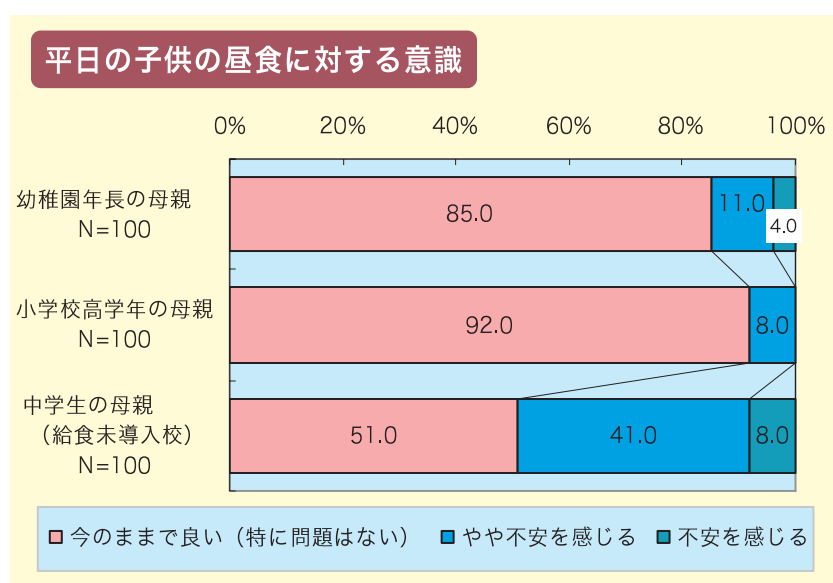
### ③中学生（給食未導入校）の母親

- ・「手作りの弁当を持参」が97.0%と圧倒的に多く、次いで「校内の購買を利用」12.0%、「校内の食堂を利用」5.0%、「スーパーやコンビニの弁当等を持参」2.0%という結果である。



## （2）平日の子供の昼食に対する意識(Q4)

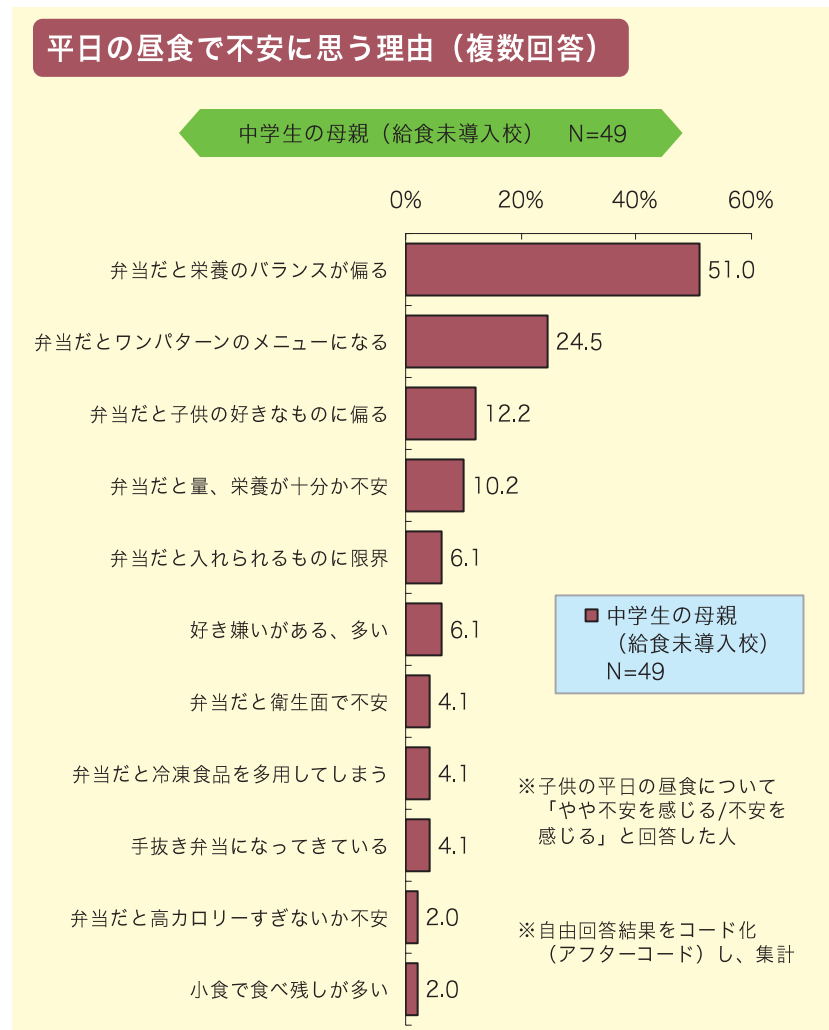
- ・『あなたは平日のお子様の昼食についてどのようにお感じですか？』との質問に対し、「今のままで良い（特に問題はない）」と回答した人は幼稚園年長の母親は85.0%、小学校高学年の母親は92.0%と高いが、中学生（給食未導入校）の母親は51.0%にとどまり、「やや不安を感じる」41.0%、「不安を感じる」8.0%と、不安を感じている人が半数近くに上っている。





### (3) 平日の子供の昼食で、不安に思う理由(Q4-S1)

- ・そこで中学生（給食未導入校）の母親について、『不安に思う理由』の自由回答結果を見ると、「弁当だと栄養のバランスが偏る」51.0%、「弁当だとワンパターンのメニューになる」24.5%、「弁当だと子供の好きなものに偏る」12.2%、「弁当だと量、栄養が十分か不安」10.2%などが主な理由で、“栄養バランスや量が適切で、かつバラエティ豊かな弁当を作ることの難しさ”、“それがちゃんと出来ているかどうかの不安”が強く意識されており、給食未実施のため、手作り弁当を作らなければならないことそのものに起因した理由が多数を占めている。



### 3. 学校給食の利用意向

#### ※『学校給食と牛乳』についての説明提示

- ・学校給食の利用意向を質問する前に、以下の『学校給食と牛乳』についての説明を対象者に提示し、学校給食、および一緒に提供される牛乳についての情報を得てもらった。説明の要旨は以下の通りである。
- ①学校給食（完全給食）が栄養バランスに優れていること
- ②特にカルシウム摂取量の基準値を高く設定していること
- ③その理由として、児童生徒の年代にとってカルシウム摂取が特に重要であること
- ④牛乳がカルシウム補給源として優れていること
- ⑤そのため牛乳が給食に加えられていること
- ⑥給食には、完全給食、補食給食、ミルク給食の3形態があり、いずれも牛乳が提供されていること

●学校給食は戦後、主として貧困や食糧不足から児童生徒を救済するための措置として、アメリカ等からの脱脂粉乳等の援助物資を受けて本格化しました。

●心身ともに成長発達の途上にある児童生徒にとって、学校給食の役割は大きな比重を占めています。学校給食の献立はおいしく食べられると同時に、多様な食品の組み合わせにより栄養バランスがとれるよう配慮されています。それは学校給食の基準を見ればよく分かります。

＜学校給食(完全給食)の基準＞ ※一部抜粋

- ア) エネルギーは1日に必要な量の33%が基準値とされています
- イ) カルシウムは1日に必要な量の50%が基準値とされています
- ウ) ビタミンは1日に必要な量の33～40%が基準値とされています
- エ) 食塩相当量は3g以下に設定されています

●注目すべきは、エネルギーが1日に必要な量の1/3の基準なのに、カルシウムが50%に設定されていることです。これは、人間の骨が最も成長する時期が、女性で11～15歳、男性で13～17歳と言われており、児童生徒にとって、この時期のカルシウムの摂取が非常に重要であるためです。

●牛乳のカルシウムは、含有量が多いことだけでなく、吸収率のよさ、手軽に摂取できることもあり、総合的に見て優れたカルシウム補給源と言えます。そのため、学校給食と牛乳は密接な関係があり、昭和33年には文部省より「学校給食用牛乳取扱要領」が通知され、ここから学校給食に本格的に牛乳が登場するようになりました。

●現在、給食は3つの形態があり、文部科学省による学校給食施行令第一条で下記のように定められています。

- ①完全給食：給食内容がパン又は米飯、ミルク及びおかずである給食  
(特に何も持参する必要はありません)
- ②補食給食：完全給食以外の給食で、給食内容がミルク及びおかず等である給食  
(主食のパン、米飯は児童生徒が持参することになります)
- ③ミルク給食：給食内容がミルクのみである給食  
(基本的に昼食は児童生徒が持参することになります。給食としては牛乳のみの提供です)

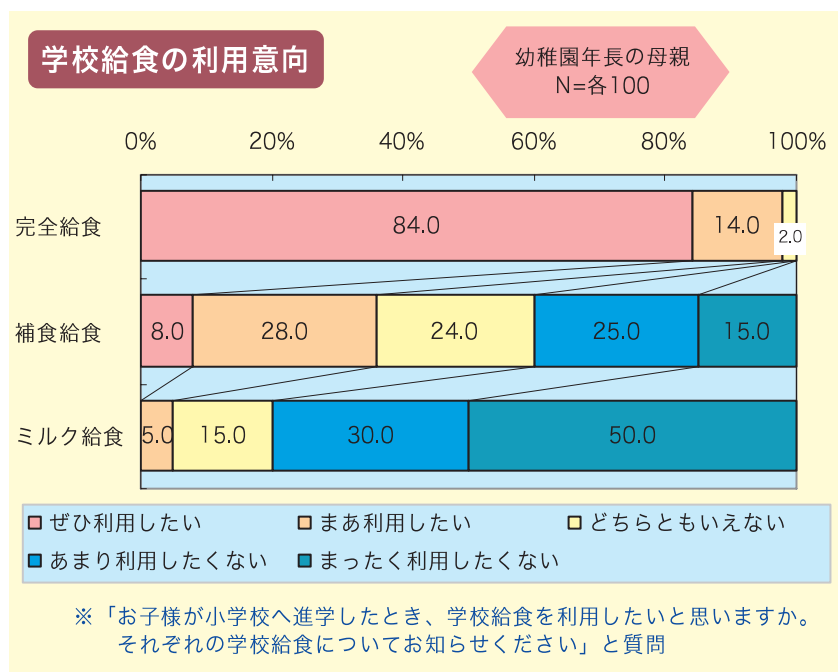
●3形態のいずれもミルク（牛乳）が含まれているのです。

## (1) 各学校給食の利用意向(Q5)

・完全給食、補食給食、ミルク給食それぞれの利用意向を見ると、

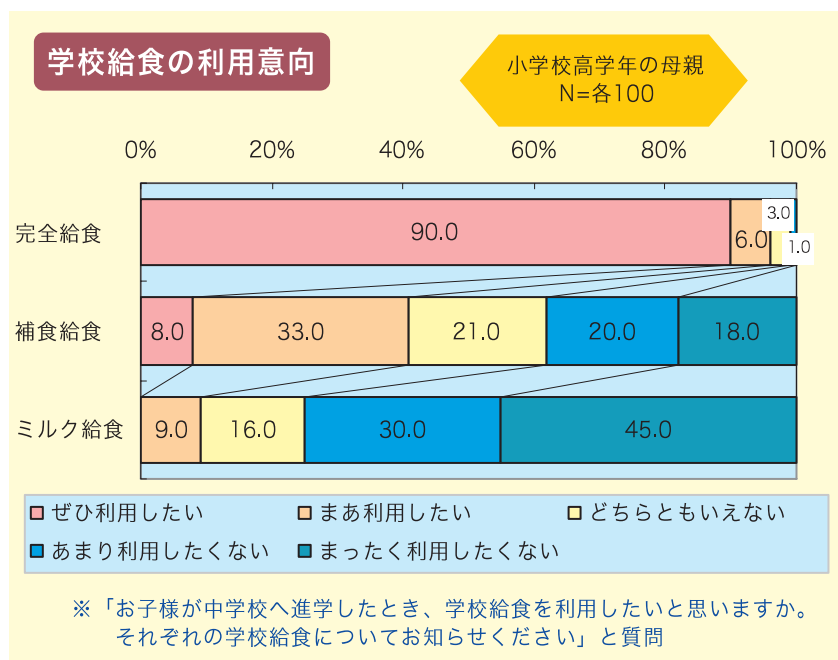
### ①幼稚園年長の母親

・『ぜひ利用したい/まあ利用したい』の合計で比較すると、「完全給食」98.0%に対し、「補食給食」36.0%、「ミルク給食」5.0%で、幼稚園年長の母親のほとんどが、子供が小学校へ進学したときに完全給食の利用を希望している。



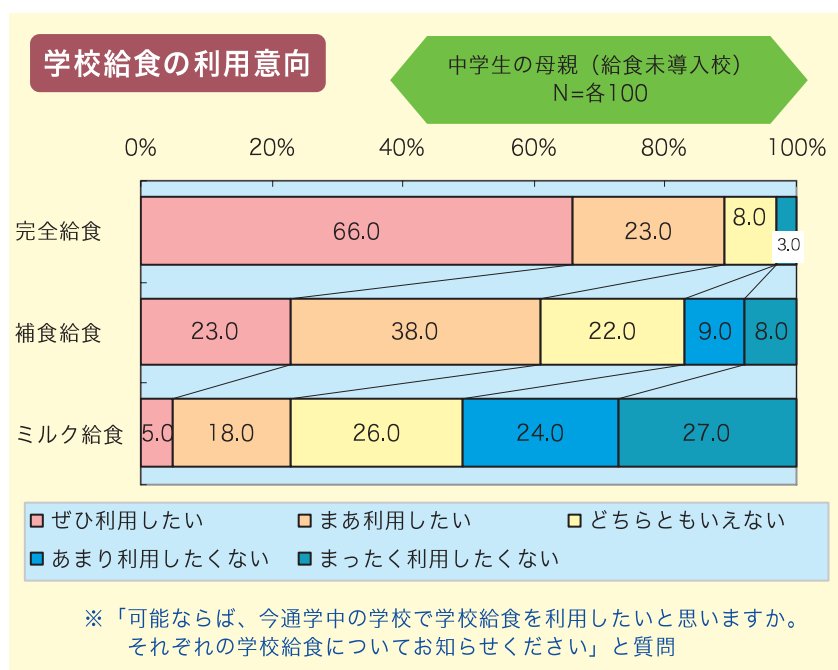
### ②小学校高学年の母親

・『ぜひ利用したい/まあ利用したい』の合計で比較すると、「完全給食」96.0%に対し、「補食給食」41.0%、「ミルク給食」9.0%で、幼稚園年長の母親同様、小学校高学年の母親もほとんどが、子供が中学校へ進学したときに完全給食の利用を希望している。



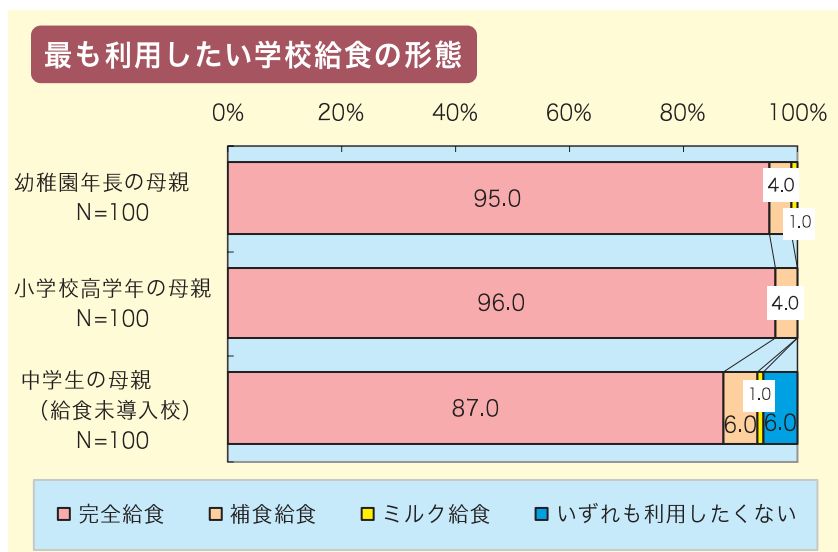
### ③中学生（給食未導入校）の母親

- ・『ぜひ利用したい/まあ利用したい』の合計で比較すると、「完全給食」89.0%に対し、「補食給食」61.0%、「ミルク給食」23.0%である。
- ・「完全給食」に対するニーズは幼稚園年長の母親、小学校高学年の母親ほど強くはないが、それでも子供が給食未導入校という現実とは逆に、約9割が「完全給食」の利用を望んでいる。



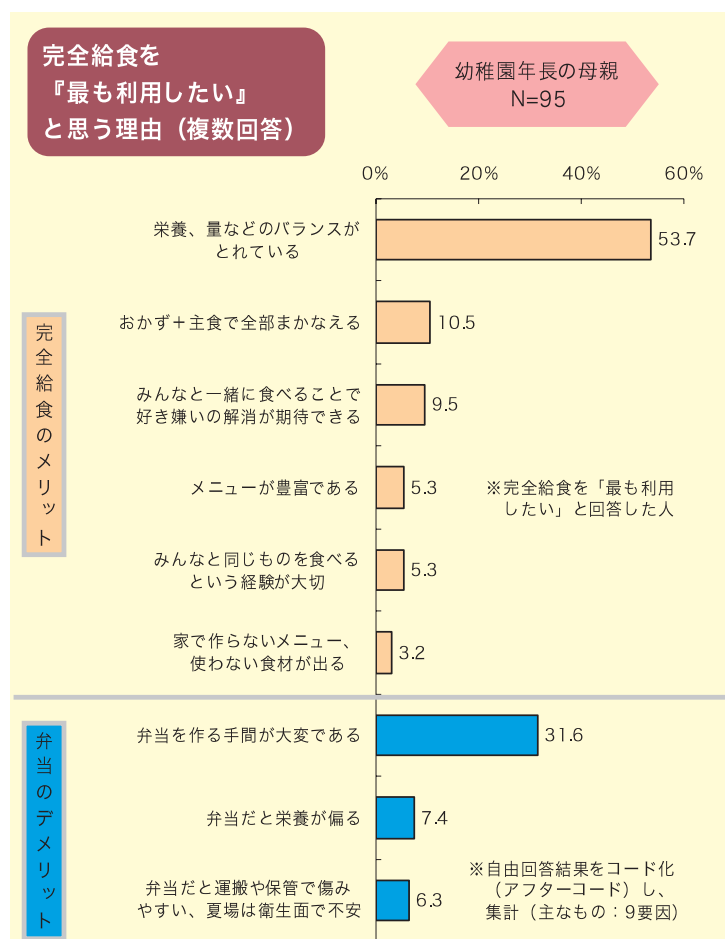
## (2) 最も利用したいと思う給食の形態(Q6)

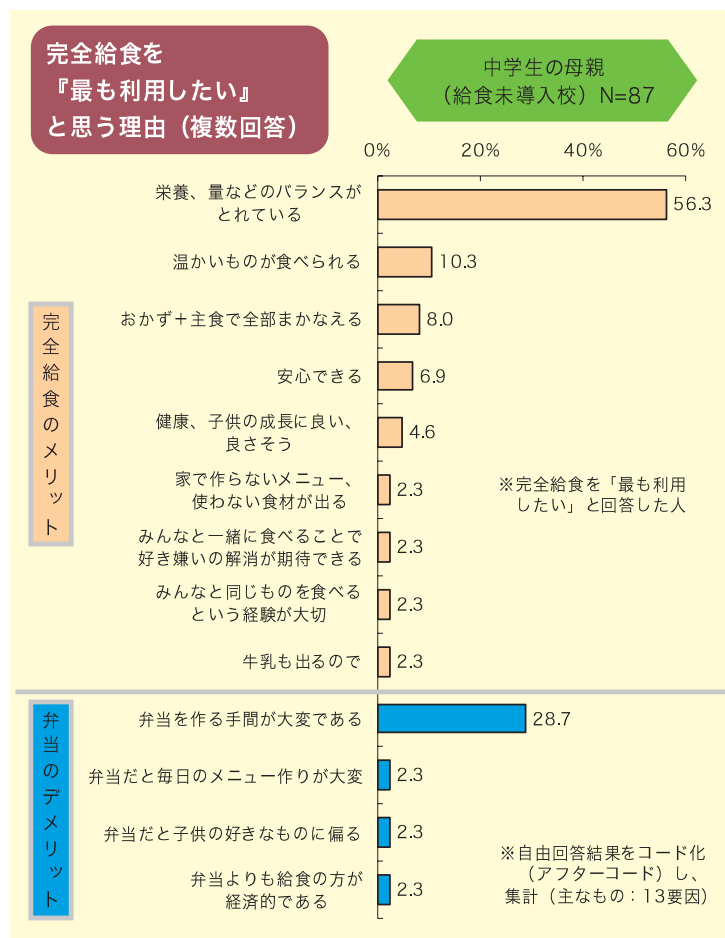
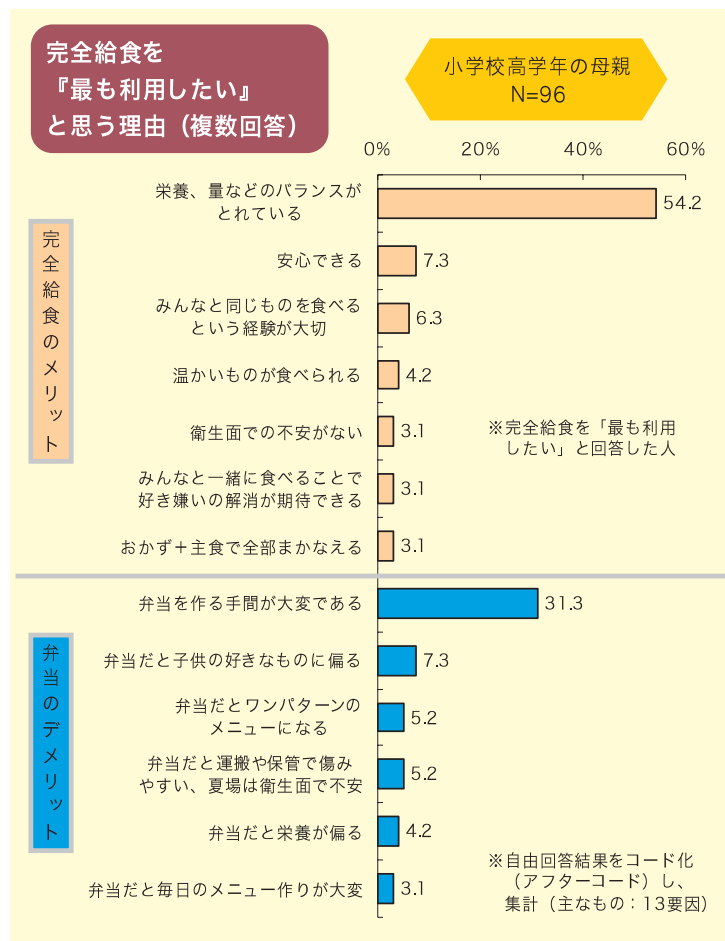
- ・次に「完全給食」「補食給食」「ミルク給食」のうち、どの給食形態を最も利用したいと思うのか、1つを選んでもらった。
- ・その結果を見ると、「完全給食」が圧倒的に多く、幼稚園年長の母親で95.0%、小学校高学年の母親で96.0%、中学生（給食未導入校）の母親で87.0%である。



### (3) 完全給食を『最も利用したい』と思う理由(Q6-S1)

- ・完全給食を最も利用したいと回答した人の理由を見ると、『完全給食にすることのメリット要因』と、『弁当を作ることのデメリット要因』に大別され、前者は「栄養・量などのバランスがとれている」が、後者は「弁当を作る手間が大変である」との回答が多い。これは幼稚園年長の母親、小学校高学年の母親、中学生（給食未導入校）の母親共通の傾向である。
- ・『完全給食にすることのメリット要因』としては、このほかにも「みんなと一緒に食べることで好き嫌いの解消が期待できる」、「みんなと同じものを食べるという経験が大切」など、集団生活の貴重な経験、それによる相乗効果を期待する意見などが上がっている。
- ・また、『弁当を作ることのデメリット要因』としては、「弁当だと子供の好きなものに偏る」、「弁当だとワンパターンのメニューになる」、「弁当だと栄養が偏る」や、「弁当だと運搬や保管で傷みやすい、夏場は衛生面で不安」などが上がっている。





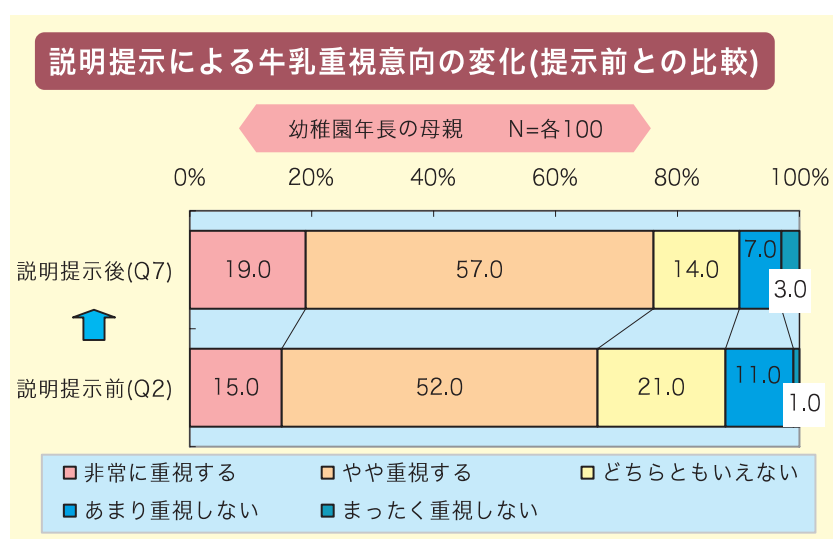
## 4. 今後の牛乳重視意向

### (1) 説明提示後の牛乳重視度(Q7) ～※説明提示前(Q2)との比較～

- ・『学校給食と牛乳』についての説明を読んでもらったあと、もう一度「今後、牛乳をどの程度重視するか」の質問を行い、説明提示前に質問したときの結果(Q2)と比較した。

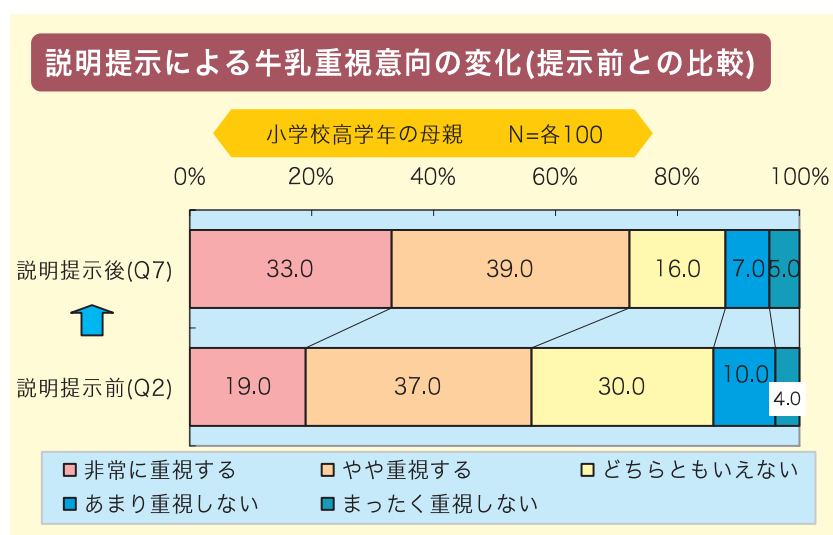
#### ①幼稚園年長の母親

- ・『非常に重視する/やや重視する』の合計で比較すると、説明提示前の 67.0%から説明提示後は 76.0%と9ポイント上昇している。



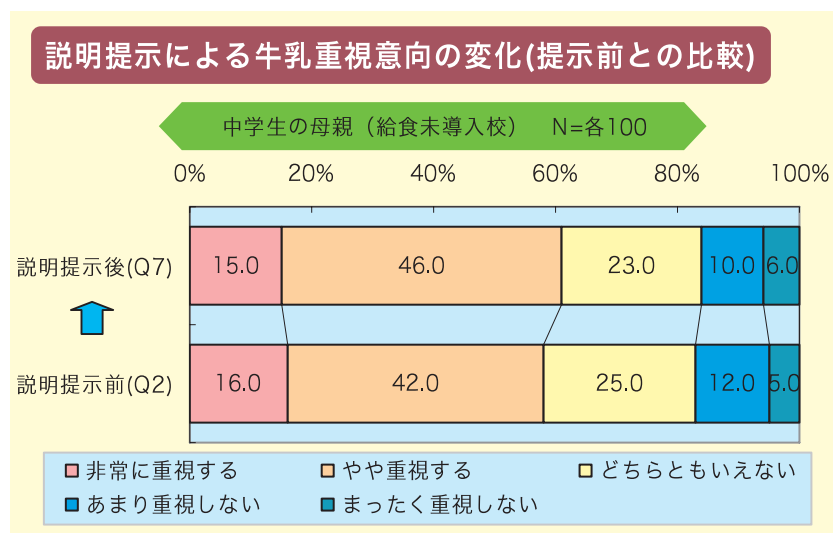
#### ②小学校高学年の母親

- ・『非常に重視する/やや重視する』の合計で比較すると、説明提示前の 56.0%から説明提示後は 72.0%と16ポイント上昇している。特に『非常に重視する』が19.0%から33.0%と大きく上昇しているのが注目される。



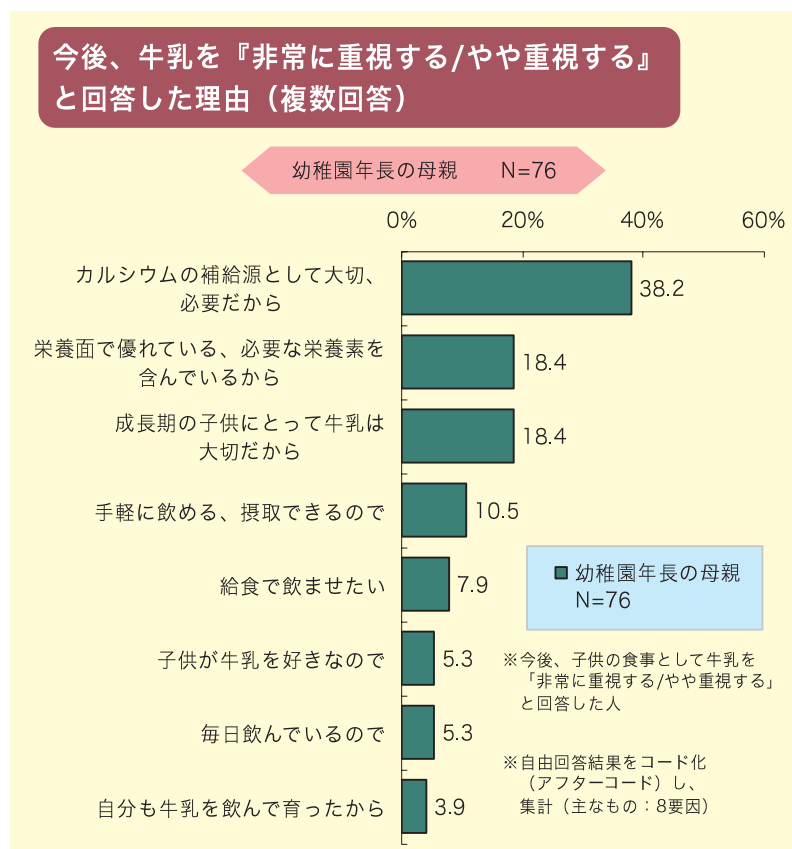
### ③中学生（給食未導入校）の母親

- ・『非常に重視する/やや重視する』の合計で比較すると、説明提示前は58.0%。一方、説明提示後は61.0%で大きな差は見られない。



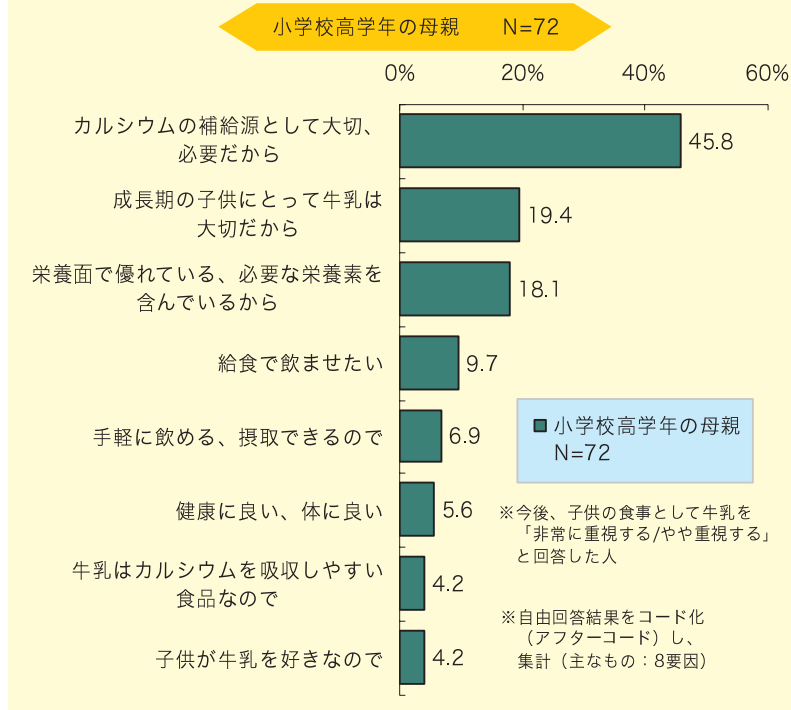
## (2) 今後、牛乳を『非常に重視する/やや重視する』と回答した理由(Q7-S1)

- ・今後、牛乳を重視するかという質問に対して『非常に重視する/やや重視する』と回答した人の理由を見ると、幼稚園年長の母親、小学校高学年の母親、中学生（給食未導入校）の母親のいずれも同じ傾向を示しており、「カルシウムの補給源として大切、必要だから」が最も多く、それぞれ38.2%、45.8%、37.7%である。
- ・次いで多いのが「成長期の子供にとって牛乳は大切だから」（16～19%くらい）、「栄養面で優れている、必要な栄養素を含んでいるから」（15～18%くらい）で、“子供の成長にとってカルシウム補給が必要であり、だからこそカルシウムを多く含んだ牛乳摂取を今後重視する必要がある”との意識につながっているものと推察される。

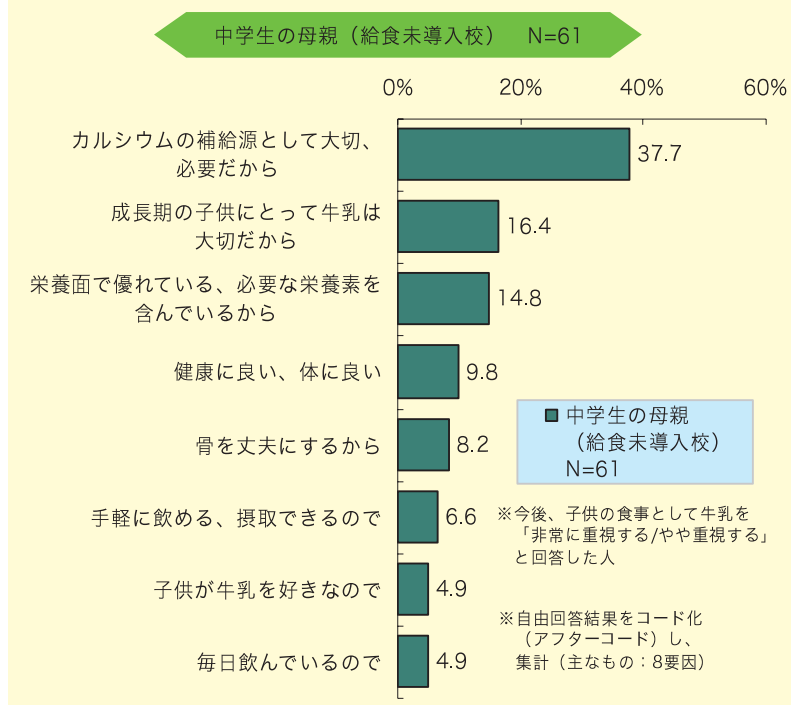




今後、牛乳を『非常に重視する/やや重視する』と回答した理由（複数回答）



今後、牛乳を『非常に重視する/やや重視する』と回答した理由（複数回答）

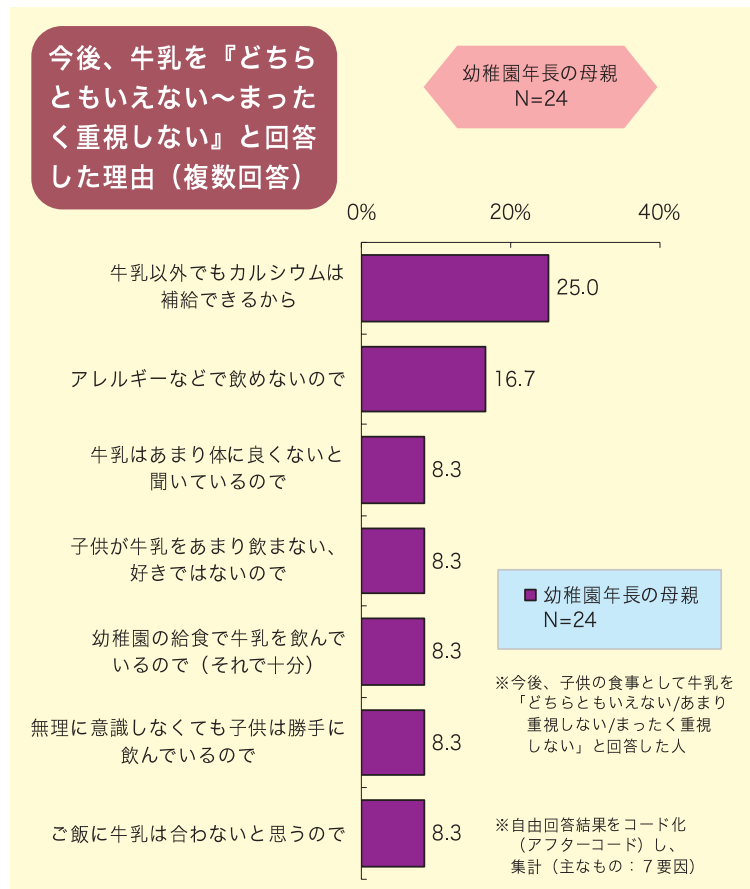


### (3) 『どちらともいえない～まったく重視しない』と回答した理由(Q7-S1)

- ・次に、牛乳を今後重視するかという質問に対して『どちらともいえない/あまり重視しない/まったく重視しない』と回答した人の理由を見ると、

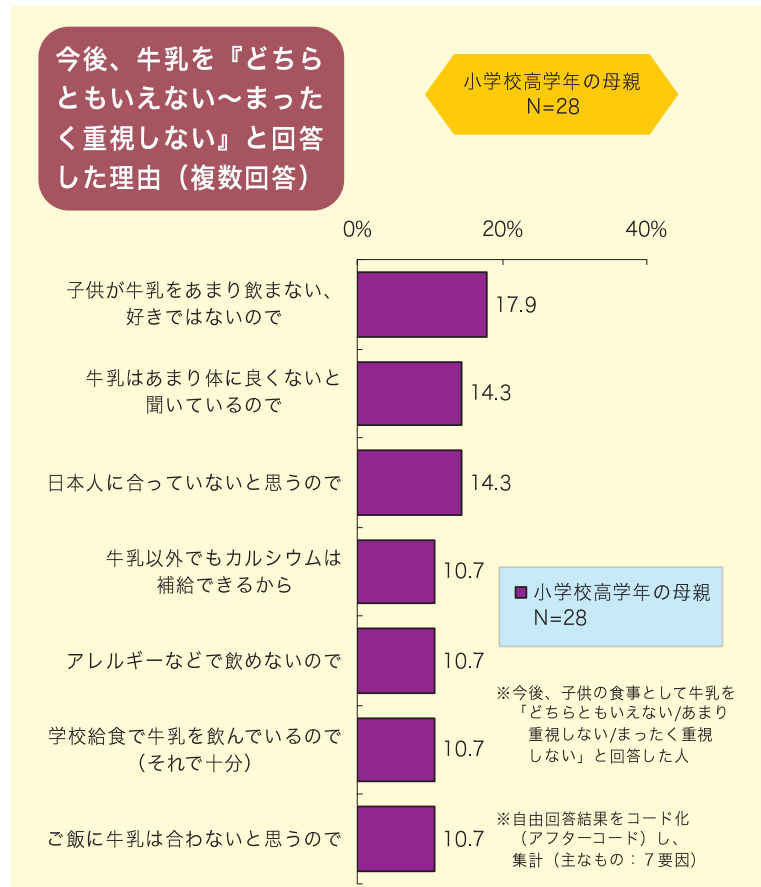
#### ①幼稚園年長の母親

- ・「牛乳以外でもカルシウムは補給できるから」が最も多く 25.0%。次いで「アレルギーなどで飲めないので」16.7%の順である。



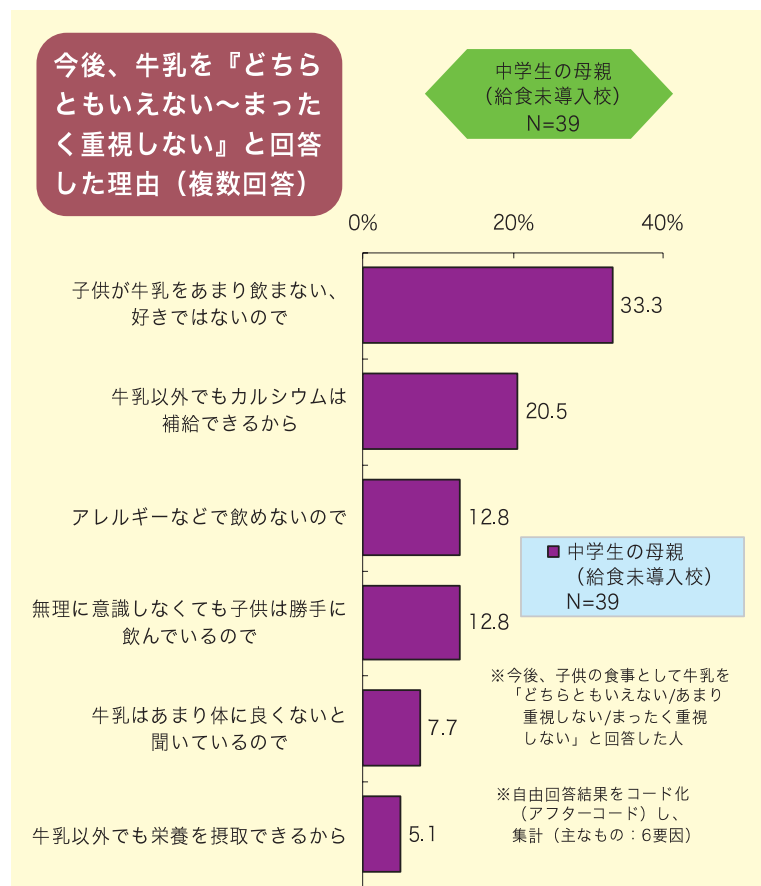
## ②小学校高学年の母親

- ・「子供が牛乳をあまり飲まない、好きではないので」が最も多く 17.9%。次いで「牛乳はあまり体に良くないと聞いているので」、「日本人に合っていないと思うので」14.3%の順である。



## ③中学生（給食未導入校）の母親

- ・「子供が牛乳をあまり飲まない、好きではないので」が最も多く 33.3%。次いで「牛乳以外でもカルシウムは補給できるから」20.5%、「アレルギーなどで飲めないのでは」、「無理に意識しなくても子供は勝手に飲んでいるので」12.8%の順である。



## (付) 調査票

### ① 幼稚園年長の母親対象調査票

#### お子様の食事に関するアンケート（幼稚園年長のお子様対象）

・このアンケートは幼稚園・年長のお子様のいる方をお願いしております。以降、質問で「お子様」とある場合、それはあなたの「幼稚園・年長のお子様」についてのお尋ねとなります。幼稚園・年長以外にもお子様が  
いる場合、そのお子様は質問の対象となりませんので、ご注意くださいようお願いいたします。

#### ◆ 普段のご家庭での食事についておたずねします。

Q 1. お子様の食事で、普段どのようなことを心がけていますか。次の中からあてはまるものをすべてお知らせください。  
(いくつでも)

- |                  |                   |                     |
|------------------|-------------------|---------------------|
| 1. 栄養のバランス       | 2. 朝・昼・夕と3食しっかりとる | 3. 好き嫌いをなくす         |
| 4. 食べ過ぎないように注意する | 5. 食事の前に間食させない    | 6. お菓子や飲料を取りすぎさせない  |
| 7. 食事中は食事に集中させる  | 8. 食事マナーのしつけ      | 9. できるだけ家族みんなで食事をする |
| 10. その他（具体的に：    | ）                 |                     |

Q 2. お子様の食事として、次の食材それぞれについてどの程度重視なさいますか。（それぞれひとつだけ）

|                             | 1.<br>非常に重視<br>する | 2.<br>やや重視<br>する | 3.<br>どちらとも<br>いえない | 4.<br>あまり重視<br>しない | 5.<br>まったく<br>重視しない |
|-----------------------------|-------------------|------------------|---------------------|--------------------|---------------------|
| a. 緑黄色野菜                    | 1                 | 2                | 3                   | 4                  | 5                   |
| b. 肉類                       | 1                 | 2                | 3                   | 4                  | 5                   |
| c. 魚類                       | 1                 | 2                | 3                   | 4                  | 5                   |
| d. 牛乳                       | 1                 | 2                | 3                   | 4                  | 5                   |
| e. 牛乳以外の乳製品<br>(チーズ、ヨーグルト等) | 1                 | 2                | 3                   | 4                  | 5                   |
| f. 果物                       | 1                 | 2                | 3                   | 4                  | 5                   |
| g. 生野菜                      | 1                 | 2                | 3                   | 4                  | 5                   |
| h. 海藻類                      | 1                 | 2                | 3                   | 4                  | 5                   |
| i. 豆類                       | 1                 | 2                | 3                   | 4                  | 5                   |
| j. きのこと類                    | 1                 | 2                | 3                   | 4                  | 5                   |

◆お子様の平日の昼食についておたずねします。

Q 3. あなたのお子様の幼稚園では、昼食はどのようにしていらっしゃいますか。(いくつでも)

1. 幼稚園内の食堂を利用  
2. 幼稚園内の購買（おにぎり、パン、弁当等）を利用  
3. 手作りの弁当を持参  
4. スーパーやコンビニの弁当等を持参  
5. 幼稚園で提供される給食を利用  
6. その他（具体的に： ）

Q4. あなたは、平日のお子様の昼食についてどのように感じですか。(ひとつだけ)

- 1.今のままでよい（特に問題はない）
- 2.今のままでよいが、やや不安を感じる
- 3.不安を感じる

※【2.今のままでいいか、やや不安を感じる 3.不安を感じる】と回答した方

Q4-S1. そのように思われる理由を具体的にお知らせください。

◆次の『学校給食と牛乳』の説明をお読みになってから、質問にお答えください。

- 学校給食は戦後、主として貧困や食糧不足から児童生徒を救済するための措置として、アメリカ等からの脱脂粉乳等の援助物資を受けて本格化しました。
- 心身ともに成長発達の途上にある児童生徒にとって、学校給食の役割は大きな比重を占めています。学校給食の献立はおいしく食べられると同時に、多様な食品の組み合わせにより栄養バランスがとれるよう配慮されています。それは学校給食の基準を見ればよく分かります。

＜学校給食(完全給食)の基準＞ ※一部抜粋

- ア) エネルギーは 1 日に必要な量の 33%が基準値とされています  
イ) カルシウムは 1 日に必要な量の 50%が基準値とされています  
ウ) ビタミンは 1 日に必要な量の 33~40%が基準値とされています  
エ) 食塩相当量は 3g 以下に設定されています

- 注目すべきは、エネルギーが1日に必要な量の1/3の基準なのに、カルシウムが50%に設定されていることです。これは、人間の骨が最も成長する時期が、女性で11～15歳、男性で13～17歳と言われており、児童生徒にとって、この時期のカルシウムの摂取が非常に重要であるためです。

- 牛乳のカルシウムは、含有量が多いことだけでなく、吸収率のよさ、手軽に摂取できることもあり、総合的に見て優れたカルシウム補給源と言えます。そのため、学校給食と牛乳は密接な関係があり、昭和 33 年には文部省より「学校給食用牛乳取扱要領」が通知され、ここから学校給食に本格的に牛乳が登場するようになりました。

- 現在、給食は3つの形態があり、文部科学省による学校給食施行令第一条で下記のように定められています。

- ①完全給食：給食内容がパン又は米飯、ミルク及びおかずである給食  
(特に何も持参する必要はありません)
- ②補食給食：完全給食以外の給食で、給食内容がミルク及びおかず等である給食  
(主食のパン、米飯は児童生徒が持参することになります)
- ③ミルク給食：給食内容がミルクのみである給食  
(基本的に昼食は児童生徒が持参することになります。給食としては牛乳のみの提供です)

- 3形態のいずれもミルク（牛乳）が含まれているのです。

Q 5. お子様が小学校へ進学したとき、学校給食を利用したいと思いますか。  
それぞれの学校給食についてお知らせください。(それぞれひとつだけ)

|          |                                                   | 1.<br>ぜひ<br>利用<br>したい | 2.<br>まあ<br>利用<br>したい | 3.<br>どちら<br>とも<br>いえ<br>ない | 4.<br>あまり<br>利用<br>した<br>くない | 5.<br>まっ<br>たく<br>利用<br>した<br>くない |
|----------|---------------------------------------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------------|------------------------------|-----------------------------------|
| 1. 完全給食  | ・ 給食内容がパン又は米飯、ミルク及びおかずである給食<br>(特に何も持参する必要はありません) | 1                     | 2                     | 3                           | 4                            | 5                                 |
| 2. 補食給食  | ・ 給食内容がミルク及びおかず等である給食<br>(主食のパン、米飯は児童生徒が持参)       | 1                     | 2                     | 3                           | 4                            | 5                                 |
| 3. ミルク給食 | ・ 給食内容がミルクのみである給食<br>(基本的に昼食は児童生徒が持参)             | 1                     | 2                     | 3                           | 4                            | 5                                 |

Q 6. 最も利用したい給食はどれですか。(ひとつだけ)

|         |         |          |                |
|---------|---------|----------|----------------|
| 1. 完全給食 | 2. 補食給食 | 3. ミルク給食 | 4. いずれも利用したくない |
|---------|---------|----------|----------------|

1. 完全給食・・・給食内容がパン又は米飯、ミルク及びおかずである給食（特に何も持参する必要はありません）

2. 補食給食・・・給食内容がミルク及びおかず等である給食（主食のパン、米飯は児童生徒が持参）

3. ミルク給食・・・給食内容がミルクのみである給食（基本的に昼食は児童生徒が持参）

Q 6-S 1. 理由を具体的にお知らせください。

Q 7. 今後、お子様の食事として牛乳をどの程度重視しますか。(ひとつだけ)

|                |               |                  |                 |                  |
|----------------|---------------|------------------|-----------------|------------------|
| 1. 非常に重視<br>する | 2. やや重視<br>する | 3. どちらとも<br>いえない | 4. あまり重視<br>しない | 5. まったく重視<br>しない |
|----------------|---------------|------------------|-----------------|------------------|

Q 7-S 1. そのように思われる理由を具体的にお知らせください。

◆◆◆◆◆以上でアンケートは終了です。ご協力ありがとうございました。◆◆◆◆◆

## ②小学校高学年の母親対象調査票

### お子様の食事に関するアンケート（小学校高学年のお子様対象）

・このアンケートは小学5～6年生のお子様のいる方をお願いしております。以降、質問で「お子様」とある場合、それはあなたの「小学5～6年生のお子様」についてのおたずねとなります。小学5～6年生以外にもお子様が  
いる場合、そのお子様は質問の対象となりませんので、ご注意くださいようお願いいたします。

### ◆普段のご家庭での食事についておたずねします。

Q 1. お子様の食事で、普段どのようなことを心がけていますか。次の中からあてはまるものをすべてお知らせください。  
(いくつでも)

- |                  |                   |                     |
|------------------|-------------------|---------------------|
| 1. 栄養のバランス       | 2. 朝・昼・夕と3食しっかりとる | 3. 好き嫌いをなくす         |
| 4. 食べ過ぎないように注意する | 5. 食事の前に間食させない    | 6. お菓子や飲料を取りすぎさせない  |
| 7. 食事中は食事に集中させる  | 8. 食事マナーのしつけ      | 9. できるだけ家族みんなで食事をする |
| 10. その他（具体的に：    |                   | ）                   |

Q 2. お子様の食事として、次の食材それぞれについてどの程度重視なさいますか。（それぞれひとつだけ）

|                             | 1.<br>非常に重視<br>する | 2.<br>やや重視<br>する | 3.<br>どちらとも<br>いえない | 4.<br>あまり重視<br>しない | 5.<br>まったく<br>重視しない |
|-----------------------------|-------------------|------------------|---------------------|--------------------|---------------------|
| a. 緑黄色野菜                    | 1                 | 2                | 3                   | 4                  | 5                   |
| b. 肉類                       | 1                 | 2                | 3                   | 4                  | 5                   |
| c. 魚類                       | 1                 | 2                | 3                   | 4                  | 5                   |
| d. 牛乳                       | 1                 | 2                | 3                   | 4                  | 5                   |
| e. 牛乳以外の乳製品<br>(チーズ、ヨーグルト等) | 1                 | 2                | 3                   | 4                  | 5                   |
| f. 果物                       | 1                 | 2                | 3                   | 4                  | 5                   |
| g. 生野菜                      | 1                 | 2                | 3                   | 4                  | 5                   |
| h. 海藻類                      | 1                 | 2                | 3                   | 4                  | 5                   |
| i. 豆類                       | 1                 | 2                | 3                   | 4                  | 5                   |
| j. きのこ類                     | 1                 | 2                | 3                   | 4                  | 5                   |

◆お子様の平日の昼食についておたずねします。

Q 3. あなたのお子様の学校では、昼食はどのようにしていらっしゃいますか。(いくつでも)

1. 校内の食堂を利用  
2. 校内の購買（おにぎり、パン、弁当等）を利用  
3. 手作りの弁当を持参  
4. スーパーやコンビニの弁当等を持参  
5. 学校で提供される給食を利用  
6. その他（具体的に： ）

Q4. あなたは、平日のお子様の昼食についてどのように感じですか。(ひとつだけ)

- 1.今のままでよい（特に問題はない）
- 2.今のままでよいが、やや不安を感じる
- 3.不安を感じる

※【2.今のままでいいか、やや不安を感じる 3.不安を感じる】と回答した方

Q4-S1. そのように思われる理由を具体的にお知らせください。

◆次の『学校給食と牛乳』の説明をお読みになってから、質問にお答えください。

- 学校給食は戦後、主として貧困や食糧不足から児童生徒を救済するための措置として、アメリカ等からの脱脂粉乳等の援助物資を受けて本格化しました。
- 心身ともに成長発達の途上にある児童生徒にとって、学校給食の役割は大きな比重を占めています。学校給食の献立はおいしく食べられると同時に、多様な食品の組み合わせにより栄養バランスがとれるよう配慮されています。それは学校給食の基準を見ればよく分かります。

＜学校給食(完全給食)の基準＞ ※一部抜粋

- ア) エネルギーは 1 日に必要な量の 33%が基準値とされています  
イ) カルシウムは 1 日に必要な量の 50%が基準値とされています  
ウ) ビタミンは 1 日に必要な量の 33~40%が基準値とされています  
エ) 食塩相当量は 3g 以下に設定されています

- 注目すべきは、エネルギーが 1 日に必要な量の 1/3 の基準なのに、カルシウムが 50%に設定されていることです。これは、人間の骨が最も成長する時期が、女性で 11～15 歳、男性で 13～17 歳と言われており、児童生徒にとって、この時期のカルシウムの摂取が非常に重要であるためです。
- 牛乳のカルシウムは、含有量が多いことだけでなく、吸収率のよさ、手軽に摂取できることもあり、総合的に見て優れたカルシウム補給源と言えます。そのため、学校給食と牛乳は密接な関係があり、昭和 33 年には文部省より「学校給食用牛乳取扱要領」が通知され、ここから学校給食に本格的に牛乳が登場するようになりました。
- 現在、給食は 3 つの形態があり、文部科学省による学校給食施行令第一条で下記のように定められています。

- ①完全給食：給食内容がパン又は米飯、ミルク及びおかずである給食  
(特に何も持参する必要はありません)
- ②補食給食：完全給食以外の給食で、給食内容がミルク及びおかず等である給食  
(主食のパン、米飯は児童生徒が持参することになります)
- ③ミルク給食：給食内容がミルクのみである給食  
(基本的に昼食は児童生徒が持参することになります。給食としては牛乳のみの提供です)

- 3形態のいずれもミルク（牛乳）が含まれているのです。



Q 5. お子様が中学校へ進学したとき、学校給食を利用したいと思いますか。  
それぞれの学校給食についてお知らせください。(それぞれひとつだけ)

|          |                                                  | 1.<br>ぜひ<br>利用<br>したい | 2.<br>まあ<br>利用<br>したい | 3.<br>どちら<br>とも<br>いえ<br>ない | 4.<br>あまり<br>利用<br>した<br>くない | 5.<br>まっ<br>たく<br>利用<br>した<br>くない |
|----------|--------------------------------------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------------|------------------------------|-----------------------------------|
| 1. 完全給食  | ・給食内容がパン又は米飯、ミルク及びおかずである給食<br>(特に何も持参する必要はありません) | 1                     | 2                     | 3                           | 4                            | 5                                 |
| 2. 補食給食  | ・給食内容がミルク及びおかず等である給食<br>(主食のパン、米飯は児童生徒が持参)       | 1                     | 2                     | 3                           | 4                            | 5                                 |
| 3. ミルク給食 | ・給食内容がミルクのみである給食<br>(基本的に昼食は児童生徒が持参)             | 1                     | 2                     | 3                           | 4                            | 5                                 |

Q 6. 最も利用したい給食はどれですか。(ひとつだけ)

|         |         |          |                |
|---------|---------|----------|----------------|
| 1. 完全給食 | 2. 補食給食 | 3. ミルク給食 | 4. いずれも利用したくない |
|---------|---------|----------|----------------|

1. 完全給食・・・給食内容がパン又は米飯、ミルク及びおかずである給食(特に何も持参する必要はありません)

2. 補食給食・・・給食内容がミルク及びおかず等である給食(主食のパン、米飯は児童生徒が持参)

3. ミルク給食・・・給食内容がミルクのみである給食(基本的に昼食は児童生徒が持参)

Q 6-S 1. 理由を具体的にお知らせください。

Q 7. 今後、お子様の食事として牛乳をどの程度重視しますか。(ひとつだけ)

|                |               |                  |                 |                  |
|----------------|---------------|------------------|-----------------|------------------|
| 1. 非常に重視<br>する | 2. やや重視<br>する | 3. どちらとも<br>いえない | 4. あまり重視<br>しない | 5. まったく重視<br>しない |
|----------------|---------------|------------------|-----------------|------------------|

Q 7-S 1. そのように思われる理由を具体的にお知らせください。

◆◆◆◆◆以上でアンケートは終了です。ご協力ありがとうございました。◆◆◆◆◆

### ③中学生（給食未導入校）の母親対象調査票

#### お子様の食事に関するアンケート（中学生のお子様対象）

・このアンケートは中学生のお子様のいる方をお願いしております。以降、質問で「お子様」とある場合、それはあなたの「中学生のお子様」についてのおたずねとなります。中学生以外にもお子様がいる場合、そのお子様は質問の対象となりませんので、ご注意くださいようお願いいたします。

#### ◆普段のご家庭での食事についておたずねします。

Q 1. お子様の食事で、普段どのようなことを心がけていますか。次の中からあてはまるものをすべてお知らせください。（いくつでも）

- |                  |                   |                     |
|------------------|-------------------|---------------------|
| 1. 栄養のバランス       | 2. 朝・昼・夕と3食しっかりとる | 3. 好き嫌いをなくす         |
| 4. 食べ過ぎないように注意する | 5. 食事の前に間食させない    | 6. お菓子や飲料を取りすぎさせない  |
| 7. 食事中は食事に集中させる  | 8. 食事マナーのしつけ      | 9. できるだけ家族みんなで食事をする |
| 10. その他（具体的に：    | ）                 |                     |

Q 2. お子様の食事として、次の食材それぞれについてどの程度重視なさいますか。（それぞれひとつだけ）

|                             | 1.<br>非常に重視<br>する | 2.<br>やや重視<br>する | 3.<br>どちらとも<br>いえない | 4.<br>あまり重視<br>しない | 5.<br>まったく<br>重視しない |
|-----------------------------|-------------------|------------------|---------------------|--------------------|---------------------|
| a. 緑黄色野菜                    | 1                 | 2                | 3                   | 4                  | 5                   |
| b. 肉類                       | 1                 | 2                | 3                   | 4                  | 5                   |
| c. 魚類                       | 1                 | 2                | 3                   | 4                  | 5                   |
| d. 牛乳                       | 1                 | 2                | 3                   | 4                  | 5                   |
| e. 牛乳以外の乳製品<br>（チーズ、ヨーグルト等） | 1                 | 2                | 3                   | 4                  | 5                   |
| f. 果物                       | 1                 | 2                | 3                   | 4                  | 5                   |
| g. 生野菜                      | 1                 | 2                | 3                   | 4                  | 5                   |
| h. 海藻類                      | 1                 | 2                | 3                   | 4                  | 5                   |
| i. 豆類                       | 1                 | 2                | 3                   | 4                  | 5                   |
| j.きのこ類                      | 1                 | 2                | 3                   | 4                  | 5                   |

◆お子様の平日の昼食についておたずねします。

Q 3. あなたのお子様の学校では、昼食はどのようにしていらっしゃいますか。(いくつでも)

1. 校内の食堂を利用  
2. 校内の購買（おにぎり、パン、弁当等）を利用  
3. 手作りの弁当を持参  
4. スーパーやコンビニの弁当等を持参  
5. 学校で提供される給食を利用  
6. その他（具体的に： ）

Q4. あなたは、平日のお子様の昼食についてどのように感じですか。(ひとつだけ)

- 1.今のままでよい（特に問題はない）
- 2.今のままでよいが、やや不安を感じる
- 3.不安を感じる

※【2.今のままでいいか、やや不安を感じる 3.不安を感じる】と回答した方

Q4-S1. そのように思われる理由を具体的にお知らせください。

◆次の『学校給食と牛乳』の説明をお読みになってから、質問にお答えください。

- 学校給食は戦後、主として貧困や食糧不足から児童生徒を救済するための措置として、アメリカ等からの脱脂粉乳等の援助物資を受けて本格化しました。
- 心身ともに成長発達の途上にある児童生徒にとって、学校給食の役割は大きな比重を占めています。学校給食の献立はおいしく食べられると同時に、多様な食品の組み合わせにより栄養バランスがとれるよう配慮されています。それは学校給食の基準を見ればよく分かります。

＜学校給食(完全給食)の基準＞ ※一部抜粋

- ア) エネルギーは 1 日に必要な量の 33% が基準値とされています  
イ) カルシウムは 1 日に必要な量の 50% が基準値とされています  
ウ) ビタミンは 1 日に必要な量の 33~40% が基準値とされています  
エ) 食塩相当量は 3g 以下に設定されています

- 注目すべきは、エネルギーが1日に必要な量の1/3の基準なのに、カルシウムが50%に設定されていることです。これは、人間の骨が最も成長する時期が、女性で11～15歳、男性で13～17歳と言われており、児童生徒にとって、この時期のカルシウムの摂取が非常に重要であるためです。
- 牛乳のカルシウムは、含有量が多いことだけではなく、吸収率のよさ、手軽に摂取できることもあり、総合的に見て優れたカルシウム補給源と言えます。そのため、学校給食と牛乳は密接な関係があり、昭和33年には文部省より「学校給食用牛乳取扱要領」が通知され、ここから学校給食に本格的に牛乳が登場するようになりました。
- 現在、給食は3つの形態があり、文部科学省による学校給食施行令第一条で下記のように定められています。

- ①完全給食：給食内容がパン又は米飯、ミルク及びおかずである給食  
(特に何も持参する必要はありません)
- ②補食給食：完全給食以外の給食で、給食内容がミルク及びおかず等である給食  
(主食のパン、米飯は児童生徒が持参することになります)
- ③ミルク給食：給食内容がミルクのみである給食  
(基本的に昼食は児童生徒が持参することになります。給食としては牛乳のみの提供です)

- 3形態のいずれもミルク（牛乳）が含まれているのです。

Q 5. 可能ならば、今通学中の学校で学校給食を利用したいと思いますか。  
それぞれの学校給食についてお知らせください。(それぞれひとつだけ)

|          |                                                  | 1.<br>ぜひ<br>利用<br>したい | 2.<br>まあ<br>利用<br>したい | 3.<br>どちら<br>とも<br>いえ<br>ない | 4.<br>あま<br>り利<br>用し<br>たく<br>ない | 5.<br>まっ<br>たく<br>利<br>用し<br>たく<br>ない |
|----------|--------------------------------------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------------|----------------------------------|---------------------------------------|
| 1. 完全給食  | ・給食内容がパン又は米飯、ミルク及びおかずである給食<br>(特に何も持参する必要はありません) | 1                     | 2                     | 3                           | 4                                | 5                                     |
| 2. 補食給食  | ・給食内容がミルク及びおかず等である給食<br>(主食のパン、米飯は児童生徒が持参)       | 1                     | 2                     | 3                           | 4                                | 5                                     |
| 3. ミルク給食 | ・給食内容がミルクのみである給食<br>(基本的に昼食は児童生徒が持参)             | 1                     | 2                     | 3                           | 4                                | 5                                     |

Q 6. 最も利用したい給食はどれですか。(ひとつだけ)

|         |         |          |                |
|---------|---------|----------|----------------|
| 1. 完全給食 | 2. 補食給食 | 3. ミルク給食 | 4. いずれも利用したくない |
|---------|---------|----------|----------------|

1. 完全給食・・・給食内容がパン又は米飯、ミルク及びおかずである給食(特に何も持参する必要はありません)

2. 補食給食・・・給食内容がミルク及びおかず等である給食(主食のパン、米飯は児童生徒が持参)

3. ミルク給食・・・給食内容がミルクのみである給食(基本的に昼食は児童生徒が持参)

Q 6-S 1. 理由を具体的にお知らせください。

Q 7. 今後、お子様の食事として牛乳をどの程度重視しますか。(ひとつだけ)

|                |               |                  |                 |                  |
|----------------|---------------|------------------|-----------------|------------------|
| 1. 非常に重視<br>する | 2. やや重視<br>する | 3. どちらとも<br>いえない | 4. あまり重視<br>しない | 5. まったく重視<br>しない |
|----------------|---------------|------------------|-----------------|------------------|

Q 7-S 1. そのように思われる理由を具体的にお知らせください。

◆◆◆◆◆以上でアンケートは終了です。ご協力ありがとうございました。◆◆◆◆◆

## 社団法人 日本酪農乳業協会

〒104-0045 東京都中央区築地 4 丁目 7 番 1 号  
築地三井ビル 5 階  
TEL: 03-6226-6351 (代表)  
FAX: 03-6226-6354

---

後援 農林水産省／ 独立行政法人 農畜産業振興機構

発行 平成 22 年 3 月